

- a 最終議定書（第十五）
 b 十三箇條約（第一乃至第十三）及
 c 宣言（第十四）

ニ対スル記名諸國名及右諸條約ニ関シ該記名諸國ノ表明シタル保留ヲ指示シタル表十部本国政府ノ命ニ依リ別冊ノ通り差進候間御査収相成度候
 右表ハ千九百八年六月三十日附ヲ以テ調製セラレタルモノニ有之候處同日ハ最終議定書ニ依リテ前記諸條約ノ調印ニ對スル猶豫期間ノ終了セシ日ニ有之尤モ萬国捕獲審檢所設

置ニ関スル條約（第十二）ハ例外ニシテ該條約文書ハ尙ホ開放セラ レアル次第ニ有之候（第五十二條及第五十三條参看）

尚又蘭国外務大臣ニ於テハ前記條約書ノ謄本ヲ可成速カニ御送附可致心得ニ有之候旨併セテ通知有之候
 右申進旁々本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具
 千九百八年八月十日東京ニ於テ

第九章 議事録ノ公刊

三九五 明治廿二年十一月三日 蘭國代理公使ヨリ
 小村外務大臣宛

第二回萬国平和會議事録第二編及第三編公刊
 ニ関シ日本政府ノ意向照会ノ件

外務大臣 小村伯爵閣下

本邦駐劄蘭國代理公使

レオン、ファン、ド、ボルテル

編ハ此種ノ文書類ヲ掲クルニ過キサルヲ以テ蘭國政府ハ豫メ右會議ニ参与シタル諸國ノ承諾ヲ求メスシテ該編ヲ公刊シ得ルモノト信シタル次第ニ有之候然ルニ尙ホ未刊ニ屬スル第二編及第三編ニ就テハ右ト問題ヲ異ニシ該兩編ハ秘密會ニ於テ行ヒタル討議ヲ掲クルモノニ有之候

蘭國政府ニ於テハ右第二回平和會議文書第二編及第三編ノ

公刊ニ就キ何等ノ異議ヲ有セス且爾余ノ關係諸政府ニ於テモ亦御異議無之トハ信シ候ヘトモ前陳ノ理由ニ依リ蘭國政府ハ參加各國ノ承諾ヲ得ル前ニ公衆用トシテ該兩編ヲ公刊スルコトヲ欲セサル次第ニ有之候

右ニ付蘭國政府ノ前記所見ヲ貴帝国政府へ移牒ノ上右第二編及第三編公刊ノ儀ニ付御異議有之候ヤヲ御問合セ致スヘキ旨「ヨンクヘール、ド、マレス、ファン、スヴィンデレン」ヨリ本使ヘ命シ越シ候尙又右ノ件ニ就キ來ル二月十五日迄ニ御回答無之キ諸政府ハ蘭國政府ニ於テ前記公刊ニ

ハ第二回平和會議ノ総會議ニ於テ取扱ヒタル諸問題ニ關看做サレサル可ラサルモノニ有之候蓋シ文書類ノ公刊ニ付当然何等ノ異議ヲモ存セサルヘキハ公開シタル會議（例ヘハ第二回平和會議ノ総會議）ニ於テ取扱ヒタル諸問題ニ關スルモノニ限ラル、儀ニ有之候而シテ頃日刊行シタル第一通知候

第九章 議事録ノ公刊 川九六 川九七

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百八年十一月廿八日 東京ニ於テ

London,.....
Received, December 12, 1908. 1-30 a.m.

Komura,
Tokio.

川九六 明治四十一年十一月五日 小村外務大臣ヨリ
英國駐劄山座代理大使宛(電報)

蘭国政府ニ於テ第二回平和會議議事録第一及第三編公刊ニ對スル英國政府ノ意見照会方訓令ノ件

十一月五日発

在英 山座代理大使

小村 大臣

第一五七号

和蘭政府ハ第二回平和會議ノ秘密會議ニ屬スル文書ヲ公刊セントン豫メ同會議參加列國ノ同意ヲ求ムル為メ帝国政府ノ意見ヲモ問合アリタリ就テハ右ニ對スル英國政府ノ意向御確ノ上電報アリタシ

十一月十一日発

英國駐劄山座代理大使
ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

蘭国政府ニ於テ第二回平和會議ノ議事録第一及第三篇公刊ニ對スル英國政府ノ意見回申ノ件

(附 錄)

前往復電報在蘭公使へ転電方ノ件

十一月十一日発

在英 山座代理大使

小村 大臣

往電第一五七号及貴電第一三九号在蘭公使ニ転電アヘ

Yamaza.

2 and 3 will contain nothing else than the reports of the proceedings various committee meetings which were technically called secret meetings in contradistinction from plenary session which was open to the public. So far France, England, Germany, America, Italy, Spain, Belgium and seven other small powers responded favorably.

2 and 3 will contain nothing else than the reports of the proceedings various committee meetings which were technically called secret meetings in contradistinction from plenary session which was open to the public. So far France, England, Germany, America, Italy, Spain, Belgium and seven other small powers responded favorably.

Sato.

本省宛山座往電第一三九号中 Actes et documents ハ 111
卷トアル處當方ニ於テハ之ヲ所持セス本件處理上必要アル
ハ右至急入手ノ上送付アリタシ

~~~~~

川九九 明治四十一年十一月十六日 小村外務大臣ヨリ  
蘭国駐劄佐藤公使宛(電報)

前電訓令ニ對スル回答並ニ右公刊ニ對スル列國

ノ意向報告ノ件

第六六号

La Haye, December 16, 1908. 2-50 p.m.

Received, " 17, " 11-45 a.m.

Komura,  
Tokyo.

No. 33. In reference to your telegram No. 22, Dutch Minister for Foreign Affairs tells me that volumes

第九章 議事録ノ公刊 川九八 川九九 四〇〇

第一回平和會議最終決議書ノ規定ニヨリ右決議書及諸條約  
ハ本年六月三十日マテニ全權委員ニ於テ調印ヲ了スベキ旨  
ニ有之候处在本邦蘭国代理公使ヨリ本年八月十日附公文ハ  
以テ右最終決議書十三ノ條約及一ノ宣言ニ對スル調印國並

調印國ノ表明シタル留保ヲ指示セル表ヲ帝国政府ニ送達シ

タル儘ニテ今日ニ至ルマテ各條約ノ確定膳本ノ送付無之候ニ付テハ閣下ニハ其向ニ就キ調印期間満了ノ日マテ記名調

印ヲ了シタル國名並其ノ全權委員ノ氏名ヲ記入シタル右諸條約ノ確定膳本ハ追テ各記名國へ交附セラル管ナルヤ

若シ交附アルナラハ大凡何時頃ト可相成哉ヲ聞合サレ至急御回報相成度若シ又蘭國政府ニ於テ曩ニ在本邦同國代理公使ヲ經テ帝国政府ニ送付セラレタル調印國並調印國ノ表明シタル留保ヲ指示セル表ノ外當分別ニ確定膳本ヲ各調印國

政府ヘ送付セサル積ナルニ於テハ閣下ハ前記名調印國及其ノ全權委員ノ氏名記入済ノ確定條約膳本ヲ特ニ蘭國政府ヨリ貰受ケ至急御送付相成候様致度此段申進候 敬具

シタル留保ヲ指示セル表ノ外當分別ニ確定膳本ヲ各調印國

政府ヘ送付セサル積ナルニ於テハ閣下ハ前記名調印國及其ノ全權委員ノ氏名記入済ノ確定條約膳本ヲ特ニ蘭國政府ヨリ貰受ケ至急御送付相成候様致度此段申進候 敬具

シタル留保ヲ指示セル表ノ外當分別ニ確定膳本ヲ各調印國

政府ヘ送付セサル積ナルニ於テハ閣下ハ前記名調印國及其ノ全權委員ノ氏名記入済ノ確定條約膳本ヲ特ニ蘭國政府ヨリ貰受ケ至急御送付相成候様致度此段申進候 敬具

シタル留保ヲ指示セル表ノ外當分別ニ確定膳本ヲ各調印國

政府ヘ送付セサル積ナルニ於テハ閣下ハ前記名調印國及其ノ全權委員ノ氏名記入済ノ確定條約膳本ヲ特ニ蘭國政府ヨリ貰受ケ至急御送付相成候様致度此段申進候 敬具

四〇一 明治四年一月十一日 小村外務大臣ヨリ

蘭國公使宛

第二回平和會議議事錄第二及第三編公刊ニ閱ス

ル日本政府ノ意向回答ノ件

明治四十二年一月十一日発遣

在本邦 蘭國公使

四〇二 明治四年一月三十七日

蘭國政府ニ於テ刊行ノ第二回平和會議議事錄

公第八号

一月二十四日接受

明治四十二年一月二十七日

在和蘭 特命全權公使 佐藤愛麿（印）

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

平和會議委員會議事錄送付ノ件

十二月一日貴電第二二号ヲ以テ第二回平和會議秘密會議議決

書及關係書類彙集第二卷及第三卷送付可致様御訓令敬承然

ルニ右秘密會議云々ノ儀ハ四月十六日電報第三三号ヲ以テ及報告候通リ公開ノ本會議ニ對スル委員会ヲ指スモノニシテ通常議事錄ニ有之幸ヒ同集卷之三當外務省ヨリ差越候間郵便小包ヲ以テ及御送付候間御査收相成度尙第二卷ハ落手次第可及御送付候 敬具

キ部數ハ不日各委員ノ手ニ入ルヘクト存候右御通知旁本使

ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ表敬意候 敬具

一千九百九年七月五日 東京ニ於テ

外務大臣 小村伯爵閣下

四〇三 明治四年七月五日 蘭國公使ヨリ

小村外務大臣宛

第二回平和會議議事錄第二編及第三編送附ノ件

第六二一号

外務大臣 小村伯爵閣下

ジ一・アシュ・ファン・ロイエン

外務大臣 小村伯爵閣下

四〇四 明治四年九月七日 蘭國公使ヨリ

小村外務大臣宛

第二回萬國平和會議議事錄同會議ニ參列ノ帝国委員ヘ伝送方依頼ノ件

ジ一・アシュ・ファン・ロイエン

外務大臣 小村伯爵閣下

以書翰致啓上候陳者我政府ノ訓令ニ依リ且千九百八年八月

十日附第七百七十二号書翰ヲ以テ申進置キタル次第ニ基キ

別紙第一回平和會議書類第二卷十部及第三卷十部及御転送

候和蘭國皇帝陛下ノ政府ニ於テハ御希望次第ハ尙右書類部

數寄贈致差支無之由ニ付此段及御通知候又同政府ヨリ全權

委員専門委員副委員及前記會議ノ事務員等ニ寄贈セラルヘ

右書類ノ内犧皮綴ノ分及犧皮製表紙ハ全權委員都筑氏ニ麻

送第一号

第二回平和會議秘密文書公刊ノ件

以書翰致啓上候陳者貴國政府ニ於テ今回第二回平和會議ノ文書ヲ公刊セラレントシ其秘密會議ニ屬スルモノニ対シテハ豫メ関係列國ノ同意ヲ求メラル、為帝国政府ノ意嚮御承知相成度旨客年十一月廿八日附第一一〇五号貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致敬承候右文書公刊ノ義ハ帝国政府ニ於テ異存無之候間右様御承知相成度此段御回答旁本大臣ハ茲ニ重テ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

布綴ノ分及麻布製表紙ハ副委員並ニ専門委員デニソン、秋山好古、嶋村速雄ノ諸氏ニ御交付相成候様希望致候佐藤愛麿氏及事務局員長岡春一氏ノ分ハ夫々直接交付之筈ニ有之候又委員全体ノ名薄ハ第一巻ノ始ニ記載有之候右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百九年九月七日 東京ニ於テ

四〇六 明治四年六月十五日 議事録(訳文)  
乃至七月六日 議事録(訳文)

第二回萬国平和會議事録

(一) 第一回総會議開会式

一千九百七年六月十五日午後三時第一回総会

議開会式

小村外務大臣ヨリ  
蘭國公使宛

四〇五

明治四十三年九月七日

小村外務大臣ヨリ

第二回萬国平和會議事録受領ノ旨回答ノ件

明治四十二年九月十七日発遣

送第二八号

在本邦 和蘭公使宛

小村大臣

第二回平和會議文書等領收ノ件

以書簡致啓上候陳者第二回平和會議ニ於テ議定シタル諸條約及諸文書ノ第二卷及第三卷各四部及同書類第一巻用表紙四個添へ本月七日付第七九一号貴翰ヲ以テ御申越之趣敬承致候右書冊及表紙ハ御指定之通り夫々配布致候間右様御承

帝陛下ノ政府ノ提議ニ依リ和蘭國女帝陛下ノ政府ノ招請ニ應シ干八百九十九年ノ國際大會同ノ事業ノ基本タル仁道ノ本義ヲシテ益拡大發展セシメントスルノ目的ヲ以テ開催サレタル第二平和會議ニ列席スルコトヲ承諾シタルニ依リ前顯諸國ノ委員ハ本日即チ千九百七年六月十五日午後三時ヲ以テ海牙府武臣館 Salle des Chevaliers ニ会合シテ會議ヲ開キ左記ノ委員諸氏出席セリ

(各國委員姓名略ス)

知相成度此段御回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

和蘭國外務大臣「ファン、テツ、ファン、グードリアン」閣下ハ開会ヲ告ゲ且ツ大要左ノ如キ演説ヲ為セリ同大臣ハ先ツ和蘭女帝陛下ノ名ニ於テ各國委員ヲ歓迎スルノ光榮ヲ有スルコト及ビ第二平和會議ガ再び海牙ニ開会セラルニ至リタルニ付キ之レニ会場ヲ供セラル、ハ陛下ノ満足ニ思召サル処ナル旨ヲ述ヘ次キニ和蘭政府ニ代テ露國皇帝ニ対スル至敬感謝ノ意ヲ表シタル後チ更ニ第一平和會議以来八星霜ヲ経タル今日マデ平和會議事業ノ進歩シタルコトヲ述べ此点ニ付テハ北米合衆國大統領ノ功績ハ忘却スベカラザルモノアリト説キ一転シテ平和會議ニ対シテハ兎角ノ批評モアリ其事業ノ効果ニ対シテハ悲観ノ説モアリシガ是等ハ平和會議ヲ認セル説ニ対シ何等ノ影響ヲ与

ノ為メ為サレタル主唱ニ対シ深厚ナル感謝ノ意ヲ表彰シ並ニ會議ハ其信任ヲ受ケタル至難至微ノ事業ニ対シテハ全力ヲ尽シテ其遂行ヲ期スルモノナルコトヲ陛下ニ於テ御確認アラン事ヲ奏請ス(満場一致)

此ニ於テ外務大臣ハ露國第一委員在仏露國大使ネリドフ閣下ヲ議長ニ推薦シ全会ノ承諾ヲ経之ヲ招キテ議長席ニ就カシメタリ

ネリドフ氏議長席ニ就クヤ氏ハ第一ニ其推薦ニ対シ謝意ト和蘭外務大臣ノ露國皇帝ニ対スル賛辞ニ対シ深ク感動スル旨ヲ述べ更ニ同大臣ヲ名譽議長ニ和蘭第一委員ニシテ第一平和會議ノトキノ外務大臣タリン「ド、ボーフォー」氏ヲ副議長ニ推薦シ全会一致ヲ以テ之ヲ承諾シタリ

次キニ「ネリドフ」氏ハ議長就職ニ付テハ充分其任務ヲ尽クスペキ事ニ付キ挨拶ヲ為シ更ニ和蘭女帝陛下ニ対スル電文ヲ発案シ滿場一致ノ贊同ヲ得タリ其電文左ノ如シ

第二平和會議ニ參列スル為海府ニ会合シタル四十五國ノ代表者ハ女帝陛下ノ足下ニ其輦轂ノ下ニ於テ彼等ニ与ヘラレタル恩遇ニ感激シ其至誠ノ敬意ヲ表シ奉ル(満場一致)

次キニ「ネリドフ」氏ハ大要左ノ如キ演説ヲ為セリ

途ヲ講ズルハ之レ失當ノ事ナリトノ説ヲ為スモノアリタリ其理由ハ戰爭ヲシテ成ルベク速ニ終局セシメ又ハ其開戦ノ度數ヲ尠ナカラシムル為メニハ戰爭国民ヲシテ出来得ベキ丈ヶ戰爭ノ重荷ヲ負担セシメ以テ戰爭ノ終局ヲ急ガシメ且再ビ開戦ノ念ヲ絶タシムルニ如クハナシト云フニアリ余ノ觀ル所ヲ以テスレバ此ノ説ハ表面上理アルガ如クニシテ其ノ實誤謬タルヲ免レズ現ニ古代並ニ中世紀ニ於ケル戰爭ノ慘禍ハ決シテ戰爭ノ時期ヲ短縮セズ又其ノ度數ヲモ減少セシメザリシニアラズヤ是ニ反シテ前世紀ノ下半ニ於テ俘虜若クハ傷兵ノ苦痛ヲ減ズル事ニ勉メタル事及ビ第一平和會議ニ依テ始メラレ而シテ第二平和會議ニ依テ益々完成ヲ期セントスル人道上各種ノ善法ヲ講ズルモ決シテ愛戰ノ情ヲ増進セシメタルヲ見ズ寧ロ文明諸國間ニ國際和親ノ概念ヲ增シ平和ノ趨勢ヲ惹起セシ事ハ今回吾人ノ事業ニ対シ輿論ガ同情ヲ以テ迎ヘタルニ依テモ明カニシテ而シテ此ノ同情ハ必ズヤ吾人事業ノ進行ニ隨伴スルナルベシ故ニ吾人ハ唯千八百九十九年ニ於テ吾人ノ先導者ニ依テ開カレタル道ニ從テ邁進スルアルノミ

第二ノ点即チ戰爭ノ豫防及廻避ニ就テハ第一平和會議ニ

議長ニ就職ノ始メニ於テ先キニ外務大臣ノ演説アリタル後常ニ仁愛正義ノ念ヲ以テ充タサル、北米合衆國大統領ガ第二回平和會議ヲ開クニ付キ尽クサレタル由來ヲ再説スルノ必要ナカルベシト信ズル旨ヲ述べ次キニ今回殆ンド全世界ノ列国ガ其國屈指ノ人才ヲ選ンテ其代表者トナシ此ニ來テ人道ニ最モ厚キ利害即チ妥協ト正義トノ精神ヲ以テ共同商議セン為メ一堂ニ集会シタルヲ見テハ余ノ感動又甚大ナルモノアリ已テニ此ノ一致アリ吾人事業ノ遂行ニ付テモ亦大ニ好望ナリト云ハザルベカラズ吾人ノ事業ハ既ニ各國政府ニ依テ承認セラレタル平和會議ノ議事事項ニ依リ明ナル如クニ箇ノ部分ヨリ成ルハ両國間ノ紛争事件ヲ友誼的ニ解決スルノ方法ヲ求メ以テ戰爭ノ破裂ヲ防ガントスルニアリ一ハ戰爭開始ノ場合ニ戰爭当事者ハ勿論間接ニ戰爭ノ影響ヲ蒙ルベキモノニ對シ出来得ベキ丈ヶ戰爭ノ重荷ヲ緩和スルノ途ヲ講ズルニアリ此ノ兩問題ハ時トシテハ相兩立セザル如ク見ユル事アリ南北戰爭ノ際(余ハ「リーバー」博士ナリト信ズ)一博士ハ両交戰者ノ重荷ト困難ヲ成ルベク輕減セントスルノ案ヲ立テ是ヲ兩軍ノ司令官ニ命シ實行セシメン事ヲ主張セシニ其當時斯ノ如ク戰爭ノ慘禍ヲ殺滅スルノ

係ハ箇人ノ関係ト酷似スルモノアリテ箇人間ニ争闘ノ已

ムベカラザルモノアルト同ジク国民間ニモ亦名誉国威及

国利等ノ関係ヨリシテ戰争ノ避クベカラザルモノアル

コトヲ述べ然レドモ之レアルガタメ吾人ハ決シテ世界平

和ト国民友愛ノ理想ニ対シ失望セザルヲ要ス此ノ理想ハ

人性ノ自然ニシテ且高尙ナル願望ニ外ナラズ而シテ凡テ

進歩ノ要素ハ仮令其目的ヲ達シ得ザルトスルモノ一ノ理

想ニ向テ遂行ヲ持続スルニアラズヤ一タビ具体的ニ其目

的ヲ達スレバ進取ノ熱情自ラ冷静スル慣ヒアリ是ニ反シ

テ総デノ事業ノ進歩ニハ望蜀ノ願望ヲ最モ必要トス故ニ

吾人亦仮令結局ノ目的ヲ達シ得ザルトスル勇往邁進シ

テ以テ箇人ニ対シテハ成ルベタ戰争ノ負担ヲ輕減シ國家

ニ対シテハ成ルベタ戰争ヲ回避セシメ以テ吾人ガ代表ス

ル政府ノ利益ヲ増進シ依テ以テ人道ニ貢献スルトコロナ

カラザルベカラズト結論セリ

次ニ議長ノ推薦ニ依リ次ノ如ク平和會議ノ書記局ヲ組織セ

(書記局職員姓名略ス)

三時四十五分散開

議長ハ又和蘭外務大臣ノ電奏ニ対シ露國皇帝陛下ヨリ同大

臣ニ賜ハリタル左ノ勅電ヲ朗誦セリ

朕ハ閣下ノ電報ニ依リテ表彰セラレタル感情ニ対シ深謝

シ且第二平和會議ニ信頼セラレタル高尙ナル任務ノ成効

ヲ祈ル

### ニコラ

第三條 平和會議ハ其ノ事務局ノ組織成リタル後兼テ本会議ニ諮詢ノ諸問題ヲ研究スル為メ委員会ヲ組織スベシ

各國全權委員ハ便宜各委員会ノ會員タルコトヲ得並ニ委員會議ニ列席セシムル為メ専門委員ヲ同委員ニ指定スル

コトヲ得(承諾)

第四條 各委員会ハ其ノ書記及報告委員ヲ指定ス(承諾)

第五條 平和會議ニ依リテ議決セラレタル諸議定書ノ整理

及其ノ最後文案起草ノ為メ平和會議ハ其ノ議事開始ノ際編纂委員ヲ設ク可シ(承諾)

第六條 各國委員ハ平和會議ノ總會ノ討議並ニ其ノ附屬セ

ル委員会ノ討議ニ加ヘ、ルコトヲ得同國委員ハ相互已レ

ヲ代表セシムルコトヲ得(承諾)

第七條 平和會議會員ニシテ其ノ附屬セザル委員会ニ出席

於ケル調印國及同會議ニ於テ調印セラレタル諸條約及議定書ニ參同セル諸國ノ全權委員及専門委員ヨリ成ル(承諾)

参照

附屬甲号 第一回總會議事手続

附屬乙号 各國全權委員及隨員名薄

(一) 第二回總會議事手續

千九百七年六月十九日午後三時十五分第二回

總會議開会

議長ネリドフ閣下

前會議事錄承認ヲ得タル後議長「ネリドフ」閣下ハ萬國平和會議ノ感謝狀ニ対シ和蘭國女帝陛下ヨリ議長ニ賜ヘリタル左ノ勅電ヲ朗誦セリ

第二平和會議ニ列席スル為メ各國代表者ガ海牙ニ会同セルヲ見朕甚夕之ヲ欣ブ朕ハ閣下ノ電報ヲ以テ表シタル感

情ニ対シテ閣下ニ謝スルト共ニ朕ハ平和會議ガ達セントスル大目的ノ成効ヲ庶幾フ

ウキルヘルミナ

議長ハ各國委員ニ対シ和蘭國女帝陛下、皇太后陛下並ニ和蘭公兼メクレンブルグ侯殿トニ拝謁スルノ榮ヲ賜ハラン事ヲ外務大臣ヲ介シテ請願セン事ヲ提議シタリ

コトヲ得(承諾)

第一條 第二平和會議ハ其ノ事務局ノ組織成リタル後兼テ本会

議ニ諮詢ノ諸問題ヲ研究スル為メ委員会ヲ組織スベシ

各國全權委員ハ便宜各委員会ノ會員タルコトヲ得並ニ委員會議ニ列席セシムル為メ専門委員ヲ同委員ニ指定スル

コトヲ得(承諾)

第二條 各委員会ハ其ノ書記及報告委員ヲ指定ス(承諾)

第三條 平和會議ニ依リテ議決セラレタル諸議定書ノ整理

及其ノ最後文案起草ノ為メ平和會議ハ其ノ議事開始ノ際編纂委員ヲ設ク可シ(承諾)

第四條 各國委員ハ平和會議ノ總會ノ討議並ニ其ノ附屬セ

ル委員会ノ討議ニ加ヘ、ルコトヲ得同國委員ハ相互已レ

ヲ代表セシムルコトヲ得(承諾)

第五條 平和會議ニ依リテ議決セラレタル諸議定書ノ整理

及其ノ最後文案起草ノ為メ平和會議ハ其ノ議事開始ノ際編纂委員ヲ設ク可シ(承諾)

第六條 各國委員ハ平和會議ノ總會ノ討議並ニ其ノ附屬セ

ル委員会ノ討議ニ加ヘ、ルコトヲ得同國委員ハ相互已レ

ヲ代表セシムルコトヲ得(承諾)

第七條 平和會議會員ニシテ其ノ附屬セザル委員会ニ出席

於ケル調印國及同會議ニ於テ調印セラレタル諸條約及議定書ニ參同セル諸國ノ全權委員及専門委員ヨリ成ル(承諾)

投票ハ代表國ノイロハ順ニ從ヒ指名シテ以テ之ヲ為ス  
(承諾)

一國ノ委員ハ他國ノ委員ニ依テ代表セラル、コトヲ得  
末項ニ對シテハ英國第一委員サ一、エドワード、フライ氏  
ヨリ異議ヲ申出テタリ同氏ハ曰ク當會議ハ一ノ討議會ナリ  
故ニ討議ニ加ハラザル委員ハ投票ノ權ナキモノト考フ故ニ

第八條ノ第三項ハ是ヲ承諾スルヲ得ズ獨逸ノ第一委員ル・  
バロン、マルシヤル、ド、ビーベル、スタイン氏モ亦英國

委員ト同意見ナルコトヲ陳ベ仏國第一委員レオン、ブール  
ジヨア氏モ亦氏ノ所見ニシテ誤ラザレバ該項ニ闕スル事務

局ノ精神ハ實際上平和會議々事ノ進行ヲ出来ベク丈容易ナ  
ラシメントスルノ目的ニ外ナラザリシガ如シ然レドモ平和

會議委員中少シニテモ之ニ對シ異議ヲ挾ムモノアレバ同項  
ヲ削除シテ差支ナカルベシトノ說ヲ陳ベタリシカバ議長ハ

同項ノ削除ヲ會議ニ計リ削除ニ決シタリ  
第九條 平和會議ノ議ニ附スベキ總テノ決定宣言及希望開  
陳ノ提案ハ書面ヲ以テ是ヲ議長ニ為シ討議ニ附スル前印

刷シ之ヲ配布スルヲ以テ通則トス(承諾)  
第十條 平和會議ノ總会ニハ公衆ノ傍聴ヲ許ス書記局ハ議  
長ノ許可ヲ得テ之ニ闕スル入場券ヲ配布ス

仲裁ニ闕スル件

國際審査委員会及ビ之ニ闕スル諸問題

第二委員会

陸戰法規慣例ノ修正

戰爭開始

千八百九十九年ノ諸宣言

陸上ニ於ケル中立者ノ權利義務

海軍力ヲ以テスル港、市、町村ノ砲撃

水雷ノ敷設等ニ闕スル件

中立港ニ於ケル交戦者ノ艦船ニ應用スベキ制度

千九百六年ニ改定セラレタル千八百六十四年ノジェネ  
ヴ條約ノ原則ヲ海戦ニ適用スルコトニ闕スル千八百九十  
九年ノ條約増補ノ件

第四委員会

商船ヲ軍艦ニ変ズルコト

海上ニ於ケル私有財産

恩恵期間

戰時禁制品 封鎖

事務局ハ或議事ニ闕シテハ公ケノ發表ヲ禁ズルコトヲ得  
(承諾)

第十一條 平和會議ノ總会並ニ委員会ノ議事録ヲ作り議事  
ノ摘要ヲ記載ス

議事摘要ハ適當ノ時期マデニ其ノ原稿ヲ各委員ニ配布シ  
各委員ハ其ノ公ノ宣言ニ闕シ書記局ニ交付シタル原稿ニ  
依リ其ノ全文ノ登載ヲ請求シ及ビ議事録ニ闕シ訂正ヲナ  
サシムルコトヲ得

委員会及ビ分科会ノ報告ハ討議ニ付スル前印刷ニ附シテ  
之ヲ配布ス(承諾)

第十二條 平和會議ノ討議並ニ議定書ハ仏蘭西語ヲ用ユ  
他國語ヲ以テナサレタル演説ハ口頭ヲ以テ之ヲ仏語ニ要  
訳スルヲ要シ其ノ要訳ハ弁者ト協議ノ上之ヲ為ス(承  
諾)

次ニ議長ハ委員ノ多數ニ鑑ミ各演説ハ毎回十分間ヲ超ヘザ  
ルヲ以テ通則トセんコトヲ提議シ承諾ヲ得タリ

議長ハ平和會議ノ討議ニ附スベキ諸問題ヲ左ノ四委員会ニ  
分担シ研究センコトヲ提議シ承諾ヲ得タリ  
第一委員会

捕獲物トシテ差押ヘタル中立國物件ヲ不可抗力ノ為メ破  
壊スルコト

陸戰ニ闕スル條規中海戦ニ應用シ得ベキ者  
(以上承諾)  
獨乙第一委員ハ國際高等捕獲審檢所設立ニ闕スル議案提出  
ヲ予告シ英國第一委員、米國委員ハ獨國ノ此提議ニ贊同シ  
英國委員ハ更ニ仲裁ノ原則拡充ニハ喜ンデ協力スベキ旨ヲ  
述べ米國第一委員ハ契約ニ基ク國債償却強要ノ為メ用ユベ  
キ兵力ノ制限ニ闕シ並ニ其他ノ問題ニ闕シ提案スルコトア  
ルベキ事ヲ予告シタリ

議長ハ独、英、米各提案ハ議事規則第九條ニ從ヒ書面ヲ以  
テ為サルベキコトヲ注意シタリ議長ハ提案ノ種類ヲ二ニ分  
チ一ハ兼テ配布ノ露國提案ニ闕聯スルモノニシテ直チニ各  
委員会ノ議ニ附シ得ベキモノ一ハ露國提案トハ全ク独立ノ  
モノニシテ此種ノモノハ議事規則第九條ノ規定ニ從フベキ  
モノト為セリ  
此ニ於テ英國ハ各委員会ノ議案決定ノ後ト雖トモ会期中ハ  
何時ニテモ他ノ議案提出ノ權利アルベキ事ヲ留保シ後日英  
國ヨリ提案ノ地歩ヲ作リタリ

英國ノ此議ニ対シ他ヨリ何等ノ異議ナキヲ以テ議長ハ全会一致ヲ以テ此議ヲ容レタリ

此ニ於テ議長ハ各委員会ノ名譽議長、議長、副議長ヲ推薦指名シ（附屬第一号第六頁）各承諾ヲ得タリ而シテ都筑大使ハ第四委員会ノ名譽議長ニ推薦セラレタリ議長ハ第二委員会議長「ベルメール」氏健康ノ為メ更ニ「アッセー」氏ヲ参与議長ト為シ必要ノ場合ニ「ベルメール」氏ニ代テ議長タランムルコト、為シ各委員会ニ出席スヘキ委員ノ撰定

署名ヲ請求シ諸方ヨリ輻輳セル電信、郵書其他ノ祝文、建議、請願書等整理ノ為メ特別審査委員ヲ設ケ平和會議副議長ボーフォー氏ヲ挙ケテ該委員長ニナサシメン事ヲ提議シ

全会一致ノ承諾ヲ得タリ議長ハ更ラニ曰ク議事規則第十條ニ依リ該会ニハ公衆ノ傍聴ヲ許スモ新聞記者ヲ各議場ニ入

ラシムルハ獨リ千八百九十九年ノ先例ニ背クノミナラズ外交的會議ノ習慣ニ違フヲ以テ之ヲ許サズ但毎会書記局ヨリ

正確ノ議事録摘要ヲ新聞ニ交付スベシ尤モ会議事業ノ半バニシテ是非ノ議論ヲ為スヘ往々正鵠ヲ失シ世ヲ誤ルノ惧アルヲ以テ吾人事業完成迄議事ニ関シテハ充分秘密ヲ保ツ事ヲ要スト此議ハ全会ノ一致ヲ得タリ

#### 午後第四時散会

スル特別審査委員長ノ報告ヲナサシム此ニ於テ同委員長「ボーフォール」閣下ハ大要左ノ如キ報告ヲナセリ

特別審査委員会ハ意見書祝文等ノ中輕重ノ度ヲ計リ先ツ諸団体ヨリ送致セラレタルモノニシテ専ラ世界平和ヲ以テ念ト為シ其意ヲ表彰セルモノヨリ審査ヲ始メタリ

右ニ閲スル書類ハ電信、郵書ヲ始メトシ請願書、著書、

小冊子ノ類ニ至ルマデ頗ル浩瀚ニ亘リ而カモ一トシテ世

界平和ノ確立ヲ切望セサルハナク之ニ依リ或ハ吾人ヲ鼓舞シ或ハ會議ニ於ケル討議諸問題ノ實際的解決ニ關シ建議スル等何レモ皆ナ當會議ノ事業成効ヲ冀ハザルハナシ就中是等ノ書類中多數ハ仲裁々判ヲ以テ國際紛争ヲ解決

スルニ足ル最モ有効ノ方法ナリト為シ其成効ニ対シ請願

スル處アリ或ハ總テノ國際紛議ヲ強制的ニ仲裁ニ附セシ

メンコトヲ建議シ或ハ宣戰布告ニ或ハ私有財産ノ不可侵

ニ或ハ負傷者ノ救護改良策ニ其他苟クモ戰爭ニ基ク必然

ノ犠牲者ニ關シ憂慮建議シ又ハ進ンデ軍費負担ノ輕減或ハ弭兵問題ニマデ論及シ之ガ實行ニ対シ剝削ナル希望ヲ開陳セシモノスラアリタリ

是等諸建議中、其仁道の精神ノ發揮ニ付テハ何レモ徑庭

備考 開會ノ始メニ議長ヨリ提議シタル謁見請願ノ結果各委員及隨行員一同ハ七月一日夜宮中ニ於テ女帝陛下皇太后陛下並ニ和蘭公兼メクレンブルグ侯殿下ニ拝謁シ着服ハ燕尾服ニシテ帶敷ナリシ議事ノ秘密ハ其後先ツ英國新聞ニ依リ漸ク漏泄ノ端ヲ啓キタリシカバ議長ハ屢各委員ニ対シ警告スル処アリシガ遂ニ其効果ヲ見サリン

#### 参照

附屬第一号 第二回總會議事錄

附屬第二号 第二平和會議々事規則

附屬第三号 各委員会及分科会役員及會員名簿

#### (三) 第三回總會議事錄

「ジュネーヴ」條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル

條約改正ノ件

#### 第二回萬國平和會議々事錄（第三）

千九百七年七月二十日午後三時第三回總會議開會議長「ネリドフ」閣下  
議長ハ六月十九日第二回總會議事錄ニ對スル會議ノ承認ヲ得タル後チ本日ノ議事日程ニ從ヒ祝文、建議請願書等ニ閱

ナント雖トモ就中特ニ當會議ノ注意ヲ請ハントスルモノ左ノ數種ナリトス

萬國婦人協會ノ分署名者二百萬人ニシテ二十ヶ国ヲ代表セリ

牧師「リッヂモンド」ノ分北米合衆国六教会ヲ代表セリ

「ジョージ・フォーク」氏提出ノ決議書ハ北米合衆国二

十三大学ノ教授学生其他ノ会合會員ノ連署ヨリ成ルモノニシテ署名者二万七千人アリ

次ニ独、墺、仏、和、瑞西ノ諸寺院ヨリモ平和ニ対スル

希望ノ開陳アリ寺院並ニ署名者ノ多數ナル又之ヲ忽諸ニ附スル能ハザルモノアリ此外瑞典ノ一萬五千人北米合

衆國ノ三協会、「ロンバルジー」ニ於ケル萬國平和協会ノ会合其他平和ニ閲スル諸協会ヨリ提出ノ分並ニ東京平

和協会其他ヨリノ祝電等又之ヲ度外視シ能ハザルナリ

若シ夫レ著書小冊子ノ類ニ至テハ其冊数余リアルモノハ

之ヲ委員諸氏ニ配布シ其數限リアルモノハ之ヲ書記局ノ

書庫ニ納メ委員諸氏ノ隨意閱覽ニ任ス又タ「ヒルシュマ

ン」夫人ハ其作ニ掛ル平和會議ノ主唱者タル露國皇帝陛下ノ御肖像ヲ當會議ニ寄贈セラレタリ審査委員会ハ同夫

人ニ感謝ノ意ヲ表シ併セテ右御肖像ハ今後平和殿落成ノ上ハ同殿内ニ之ヲ掲クルヲ以テ適當ト信ズルモノナリ。次ニ議長ハ之ニ對シ最初ニ「ボーフォール」閣下及ヒ委員諸氏ノ労ヲ謝シ建議書中萬里ヲ越エテ郵送セラレタルモノアルコトヲ述べ更ニ

余ハ平和會議ノ名ニ於テ是等諸団体ニ對シ吾人特別感謝ノ意ヲ表スルノ義務ヲ負フモノナリト信ズ是等ノ建議請願諸通信ハ悉ク皆ナ平和會議囑望ノ表彰ナラザルハナク而シテ余ハ吾人ノ会同ガ如何ニ世人ノ信任ヲ博シタルカラ茲ニ明言スルヲ憚ラザルナリ尤モ是等ノ建議中ニハ吾人ヲ以テ政府並ニ國民ニ對シ懲罰ヲ加ヘ正義並ニ権利ノ最高擁護者タルノ任務ヲ帶ブルモノナルカノ如ク考フルモノアリト雖トモ此ノ如キハ吾人ノ能力ト権限ノ範囲以外ニ脱スルモノニシテ中ニハ吾人ヲ以テ各国民各政府間ノ紛議ヲ断スベキ國際上級裁判所ナルカ如クニ思惟シ之ニ向テ事実問題又ハ現時ノ政治問題ヲ提出論議スルモノアリ

余ノ此ニ之ニ言及シタルハ畢竟此ノ如キ議論ハ平和會議ニ對シ何等ノ効果ナカルベキ事ヲ右等ノ論者ニ告ゲンガ為メナリ吾人ハ實ニ國際法ノ原則ヲ研究及確立センガ為

充分ノ討議ヲ重ねタル結果ナレバ此上更ニ新異議ノ生ゼザランコトヲ望ム旨ヲ述ヘタリ

「ルノー」氏ハ第一條第二條第三條及第四條ヲ朗誦シ何等ノ異議ナク可決セラレ第五條ニ至リ土耳古第一委員ハ左ノ宣言ヲ為シタリ

議長閣下

余ハ已デニ第三委員会ニ依テ承認セラレ且七月二日及十六日ノ議事録中ニ掲載セラレアル余ノ宣言ヲ茲ニ再陳スルノ榮譽ヲ有ス余ノ政府ハ全然千八百六十四年ノジュネイヴ條約ニ依テ定メラレタル仁道ノ原則ニ賛同シ又各國ト均シク赤十字ノ病院旗ヲモ承認シ以テ瑞西ニ敬意ヲ表シタリト雖トモ而カモ或ル特種ノ理由ノ下ニ土耳古政府ハ其陸海軍衛生隊ニ關シテハ白地ニ赤色ノ弦月形ヲ用ユルノ必要ヲ認メタリ

土耳古帝国ノ此ノ宣言ハ一千八百六十四年ノ條約ノ改正ヲ求ムルモノニアラズ此ノ如キハ素ヨリ本會議ノ権限外ニ屬ス又右ニ闊シ條約案中ニ何等特別ノ條項挿入ヲ主張スルモノニモアラズ唯此処ニ会同ノ各國政府ノ代表者カ相互通のニ病院並ニ病院船ニ用ユベキ旗トシテ赤十字旗及ビ

メニ合同シタルモノニシテ國際政策及ビ各國ノ内政ニ関シ國際法ノ適用ヲ監視スルコトハ之ヲ為ス能ハザルナリ。ト說キ最後ニ至リ議長ハ「ベルヌ」ノオットフリードニッポルド教授ガ仲裁々判所々在地ニ中央國際法學校ヲ建設センコトヲ建議シ其論文ヲドイツ、レヴュー雜誌ニ掲載シタルモノヲ同雜誌記者ヨリ送附シ來リタル旨ヲ述べ此建議ハ會議ノ承認ヲ得一ノ他ノ「カルネーギー」氏アツテ其建議ガ实行セラル、ノ日アルヲ見ルニ至ラン事ヲ切望スト陳ベタリ

次ニ議長ハ当日ノ議事日程第二ニ移リ第三委員会ヨリ提出サレタル條約案ニ閱スル報告書ノ朗誦及ビ其投票ヲ行フベキ事ヲ告ゲ報告委員長「ルイ、ルノー」氏ヲシテ右ノ朗誦ヲ為サシム此ニ於テ「ルノー」氏ハ一千八百六十四年八月二十二日ノジュネーヴ條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スベキ千八百九十九年七月二十九日ノ海牙條約ノ修正ニ閱スル報告書ノ朗誦ヲ為セリ(附屬書第一号及第二号参照)

議長ハ會議ニ代テ「ルノー」氏ニ感謝ノ意ヲ表シ各條朗誦ニ移リ各國委員ニ向テ若シ各條項ニ關シ意見アレバ書面ヲ以テ之ヲ議長マヂ提出サレンコトヲ請ヒ尤モ各條共已デニ

赤色弦月旗ヲ承認セラレンコトヲ再ビ茲ニ表明シ置クヲ以テ足レリトス

議長ハ之ニ答ヘて會議ハ土耳古ノ第一委員ノ宣言ヲ承認スト云ヘリ此ニ於テ波斯ノ第一委員モ亦次ノ如キ宣言ヲナセリ  
波斯帝國政府ハ一千九百〇六年ノジュネーヴ條約ニ調印スルニ當リ第十八條ニ關シ保留ヲ為シタリ波斯委員ハ茲ニ各條ニ付キ投票スルニ當リ右ト同ジ保留ヲ為スベシ吾人ハ現條約ニ調印スベシ但余ガ已デニ第三委員会ニ於テ宣言スルノ榮譽ヲ得タル如ク我政府ガ病院船並ニ病院ニ掲揚スル白地ニ赤色獅子日章ノ旗ハ相互的に侵犯サレザランコトヲ條件トスルハ勿論ノコトトス

議長ハ右ノ宣言ヲ承認シ議事録ニ掲載スルコトヲ認許セリ

英吉利第二委員「サーレルネスト、サトウ」閣下ハ七月十六日伊太利ノ第一委員「トルニエリ」伯閣下ノ議長ノ下ニ開会セラレタル第三委員会ニ於テ土耳古及波斯ノ委員ヨリノ請求ニ係ル病院船ニ掲揚ノ識別旗章相互的認諾ニ閱スル原則ハ当日ノ各國委員ニ依テ承認セラレタリ英吉利ノ委員モ亦此原則ヲ承認スト宣言セリ亞米利加第二委員「ホーレ

「スボーラー」氏ハ北米合衆国ノ委員モ亦英國第二委員ノ宣言ニ賛同スト云ヒ塊國第一委員モ亦英米ノ此両宣言ニ同意シタリ

瑞西第一委員ハ其國政府ノ訓令ニ基キ土、波両國委員ノ宣言ニ闕シ下ノ如ク宣言シタリ曰ク瑞西委員ハ七月二日第三委員会第二分科会並ニ七月十六日第三委員会ノ總会ニ於テ開陳シタル意見ヲ維持スルモノナリ當時瑞西委員ハ其國政府ハ千九百〇六年ノジュネーヴ條約ハ今回ノ議題ニ上ラズ從テ當會議ニ於テ論議セラルベキモノニアラズ故ニ土、波両國委員ニ依テ為サレタル保留ハ海戦ノ場合ニノミ適用セラルベキモノニシテ陸戦ニ闕シ千八百六十四年及千九百〇六年ノ條約ニ依テ定メラレタル病院旗章ニ対シテハ之ニ依テ何等ノ影響ヲ蒙ルモノニアラズト確認スルモノナルコトヲ声明シタリト

議長ハ右瑞西委員ノ意見ハ之ヲ議事録ニ掲載スルコトヲ認許セリ

波斯第一委員ハ瑞西委員ニ答ヘテ陸戦ニ闕スル千九百〇六年ノジュネーヴ條約調印ノ際ニモ其國政府ハ前頭同様ノ保留ヲ為シタリト云ヘリ

是等ノ保留ノ下ニ第五條ハ可決セラレタリ

第二十一條ハ第六條ノ場合ニ開陳セラレタル如ク英國委員保留ノ下ニ可決セラレタリ

第二十二條乃至第二十六條ハ異議ナク可決セラレタリ

此ニ於テ議長ハ原案全部ニ付キ採決セシニ前記諸保留ノ下ニ全会一致ヲ以テ之ヲ可決シタリ

議長ハ次ノ議事日程ニ移リ会議全体ノ編纂委員組織ノコトヲ述べ右委員ハ各委員会ヨリ廻付ノ決議案ヲ集中ス

編纂委員ハ左ノ諸氏ヨリ成ル即チ各委員會議長各分科會議長、書記及報告委員並ニ特別指定ノ各委員是レナリ

（人名ハ之ヲ七月二十日第三回総會議事録第六頁ニ譲リ茲ニ略ス都算ハ他ノ幾多ノ各國委員ト同シク特ニ同

編纂委員中ニ加ヘラレタリ）

仏國第一委員ハ第一委員会第二分科会ノ報告委員モ後ニ至リ編纂委員中ニ加ヘラレンコトヲ請求セリ（右報告委員ハ未タ指定ナキヲ以テナリ）議長ハ之ヲ諾シ且編纂委員ハ可成速ニ会同シテ其任務遂行ノ方法ニ闕シ協議センコトヲ提議シタリ

最後ニ議長ハ會議ノ討議秘密漏泄ニ闕シ曩ニ廻章ヲ以テ委員諸氏ニ注意スル處アリシ今又某大國ヨリノ注意モアルヲ以テ一層嚴重ニ右ノ秘密ヲ保持センコトヲ注意シ殊ニ委員

三條第二十七條及第二十八條ニ對シ保留ヲ為シタリ蓋シ右條項ヲ實行スルニハ國內法ノ制定ヲ要シ之レガ為ミニハ議會ノ協賛ヲ必要トスルヲ以テナリ現條約第六條及第二十一條ハ千九〇六年ノ前記條項ニ胚胎スルヲ以テ右條項ニ對シテモ亦同様ノ保留ヲ為スノ止ムヲ得ザルモノアリト

議長ハ右ノ保留ハ之ヲ議事録ニ掲載スルコトヲ認許セリ第六條ハ此保留ノ下ニ可決セラレタリ

第七條乃至第十一條ハ何等ノ異議ナク可決セラレタリ

第十二條ニ闕シ英國委員ハ尙ホ後ニ至リ可否ヲ陳ブベキコトヲ保留セリ「サー、エドワード、ライ」閣下ハ英國政府ハ中立国旗ノ下ニアル商船内ノ負傷者、病者及難船者ノ交付ヲ求メ得ルヲ以テ交戦國軍艦ノ権利ト為ス報告委員ノ見解ニ一致スル能ハズ此ノ如キ権利ハ特別ノ規約ナキ限りハ英國政府ハ之ヲ以テ實際國際法上ノ原則ト認ムルコトヲ得ズト云ヘリ「ルイ、ルノー」氏ハ之ニ答ヘテ報告委員ノ見解ハ之ニ反シ寧ロ制定法ノ實際ニ適合スルモノナリト云ヘリ

第十三條乃至第二十條異議ナク可決セラレタリ

会ニ提出ノ書類ハ平和會議委員ノ共同所有權ニ屬シ私力ニ之ヲ新聞紙ニ漏泄スルハ右ノ所有權ヲ侵害スルモノニシテ此ノ如キハ各委員中何人モ之ヲ為シ能ハザルモノトス又一方ニ於テ討議ノ模様ヲ一々新聞紙ニ公ケニスルハ礼儀ニ於テ欠クル處アリ何トナレバ討議ハ之ニ依テ各問題ニ闕シ解決ノ道ヲ講ズル順序ニシテ一旦解決ヲ得タル場合ニハ後ニ至リ之ヲ各國政府ノ考量裁決ニ任スモノナレバ其間各委員ハ之ヲ秘密ニ保ツノ義務ヲ有スルモノナリト述ヘリ

（全会賛成）

終リニ臨ミ議長ハ來二十九日白耳義政府ヨリ平和會議委員ヲ「ブリエージス」博覽会ニ招請セルコトヲ通告セリ

午後四時半散会

附屬書類

別紙第一号 條約案翻訳

別紙第二号 報告委員ノ報告書翻訳

参照

第一号 第三回総會議事録

第一号 報告委員報告書

第三号 七月二日ノ第三委員会第二分科会總会及ビ七月十六日第三委員会總會議事録

## 附屬第一号

第三委員会ヨリ 平和會議ニ 提出ノ 千九〇六年七月六日ノ  
シユネーヴ條約ノ原則ヲ 海戦ニ応用スル條約案

## 第一條 従前ノ通り

## 第二條 従前ノ通り

## 第三條 中立國ノ一箇人又ハ公認セラレタル協会ノ費用

ヲ以テ全部又ハ一部ヲ儀装シタル病院船ニシテ豫メ該  
中立國ノ同意ヲ經且交戦國一方ノ許可ヲ得テ其指揮ノ  
下ニ立チ並ニ戦闘開始ノ際又ハ交戦中該交戦国ヨリ之  
ヲ使用スルニ先タチ船名ヲ相手方ニ通告セラレタルモ  
ノハ尊重セラレ捕獲ヲ免ル、モノトス

## 第四條 従前ノ通り

## 第五條 第四項ヲ左ノ通り改メ更ニ次ノ二項ヲ加フ

病院船ハ總テ其國旗ト共ニシユネーヴ條約ニ定メタル  
白地ニ赤十字ノ旗ヲ掲ガ又中立國船舶ノ場合ニハ右ノ  
外其之ヲ使用スル交戦國ノ国旗ヲ大檣上ニ掲ケテ之ヲ  
標識スペシ

第四條ノ規定ニ依リ敵ノ為メニ抑留セラレタル病院船  
ハ其掲揚スル交戦國々旗ヲ撤去スペシ

上記ノ病院船及端舟ニシテ夜間自己ノ尊重權ヲ確メン

ト欲スルモノハ其附隨スル交戦國ノ同意ヲ得テ其塗色  
ヲ充分明カニスル為メ必要ナル措置ヲ執ルヘシ

第六條（新條）第五條ニ定メタル識別記章ハ平時タル  
ト戰時タルトヲ問ハズ該條ニ規定スル船舶ヲ保護シ又  
ハ標榜スル為メニアラザレバ之ヲ使用スルコトヲ得  
ズ

第七條（新條）軍艦内ニ於テ戦闘起レル場合ニハ其病  
室ハ出来得ベキ限り之ヲ尊重庇護スペシ

右病室及其材料ハ戦争ノ法規ニ従フト雖トモ傷病者ノ  
為メ必要ナル間ハ其用途ヲ他ニ転ズルコトヲ得ズ  
然レトモ該病室ヲ自己ノ権内ニ有ツ指揮官ハ軍事上重  
大ナル必要アル場合ニハ豫シメ其室内ニ在ル傷病者ノ  
生命ヲ保安シタル後便宜之ヲ処分スルコトヲ得

第八條（新條）病院船及艦内病室ガ害敵行為ノ為メニ  
使用セラル、トキハ其保護ヲ失フベシ  
右病院船及び病室ノ人員ガ秩序維持及傷病者ノ防衛ノ  
為メ武装セル事實並ニ船内ニ無線電信器械ヲ備フルノ  
事實ハ其保護ヲ喪失スベキ性質ヲ有スルモノト看做サ  
ズ

## 第九條（旧第六條ノ修正）

## 第十條（旧第七條）

交戦者ハ中立國ノ商船、遊船又ハ端舟ノ船長ノ慈惠心  
ニ訴ヘ傷病者ノ收容看護ヲ依頼スルコトヲ得

右ノ依頼ニ応シタル船舶並ニ自己ノ發意ニ基キ傷病者病  
者又ハ難船者ヲ收容シタル船舶ハ特別ノ保護ト一定ノ  
特權ヲ享受スヘク右船舶ハ如何ナル場合ニ於テモ此  
輸送ノ事實ノ為メ捕獲セラル、コトナシ但特別ノ約束

アル場合ノ外右船舶ガ中立違反ノ行為ヲ為シタル時ハ  
此限リニアラズ

## 第一項 第二項 従前ノ通り

第三項ヲ左ノ通り改ム

交戦者ハ其権内ニ陥リタル是等人員ニ対シテハ自國海  
軍ノ同一階級ノ人員ニ対スルト同一ノ給養及俸給ヲ支  
給スルコトヲ要ス

## 第十一條（旧第八條ノ修正）艦船内ニアル陸海軍人並

ニ公務上陸海軍ニ附屬スル其他ノ人員ニシテ負傷シ又

ハ疾病ニ罹リタル者ハ国籍ノ如何ヲ問ハズ捕獲者ニ於  
テ之ヲ尊重看護スペシ

第十二條（新條）総テ交戦國ノ軍艦ハ国籍ノ如何ヲ問  
ヘズ軍用病院船、協会又ハ一箇人ニ屬スル病院船、商

状等ハ之ヲ各関係者ニ其本国官憲ヲ經テ伝達セシムル  
為メ集収スベシ

#### 第十八條 旧第十一條ニ同ジ

第十九條(新條) 交戦艦隊ノ司令長官ハ各其本国政府  
ノ訓令ニ従ヒ且本條約ノ綱領ニ準拠シ前諸條ノ執行ニ  
關シ細目ヲ定メ並ニ本條約ニ規定漏ノ事項ヲ補則処理  
スペシ

第二十條(新條) 記名国ハ本條約ノ規定ヲ海軍々人及  
ヒ特ニ被保護人員ニ教示シ且之ヲ國民ニ知悉セシムル  
為メ必要ナル手段ヲ執ルベシ

#### 第二十一條(新條) 記名国ニシテ其刑法不完全ナル場

合ニハ戰時ニ於テ海軍ノ傷者及病者ニ對スル個人的掠  
奪及虐待行為ヲ禁止シ且本條約ノ保護ヲ受ケザル船舶

ガ第五條ニ規定スル標識記章ノ濫用ヲ軍事徽章ノ侵犯  
トシテ処罰スルニ必要ナル手段ヲ執リ又之ヲ其立法府  
ニ提案スベキコトヲ約ス

記名国ハ遲クモ本條約批准後五ヶ年内ニ和蘭政府ヲ經  
テ右禁止ニ関スル規定ヲ互ニ相通告スベシ

#### 第二十二條(新條) 兩交戦国ノ陸海軍間ニ戰闘アル場

合ニハ本條約ハ艦船内ニアル軍隊ニ限り適用セラル、  
モノトス

#### 第二十三條 旧第十二條ニ同ジ

#### 第二十四條 旧第十三條ニ同ジ

第二十五條(新條) 正當ニ批准セラレタル本條約ハ締  
盟国間ニ於テハ千八百九十九年七月二十九日ノ條約ニ  
代ハルベキモノトス

千八百九十九年ノ條約ハ之レニ記名シタルモノ本條約ヲ  
批准セサル國ノ間ニ於テハ尙ホ有効ナリトス

#### 第二十六條 旧第十四條ニ同ジ

##### 附屬第二号

千九百〇七年七月二十日第三回總會議々事錄附屬書  
第三委員会報告書摘要

(註) 此報告ハ議長「トルニエリ」伯及ビ委員獨逸國  
(海軍少將「ジーゲル」(Siegel) 副員「ゴッペル」氏  
(Goppert) 墾洪國(海軍少將「ハウス」(Haus) 白  
耳義國「ヴァン・デン・ヒューベル」氏(Van Den  
修正

Heuvel) 清國陸軍大佐丁氏(Tinge) 仏蘭西國(報告  
主任「ルイ・ルノー氏」(Louis Renault) 大統領顧國  
(海軍大佐「オットレー」Ottley) 伊太利國(海軍大佐  
'カスチリア'(Castiglione) 日本国(海軍少將島村) 和  
蘭國(海軍中將「ロエル」(Röell) 露西亞國(陸軍大  
佐「ウチニコフ」(Outchinnikow) 瑞西國('カル  
ラン'閣下(Carlin) 等ヲ以テ組織セラレタル起草委  
員会ノ名ニ於テ第三委員会ニ為サレタルモノナリ  
報告委員ハ各條ニ亘リ其理由ヲ説明スルニ先タチ概要左ノ  
如ク陳述セリ

千八百九十九年ノ條約立案者カ千八百六十四年ノ條約ノ本  
義ニ基キ海戦ノ法規ヲ定メタルハ勿論ノコトニシテ且此本  
義ヲ如何ニ規定スレバ既ニ陸上ニ於テ得タル人道的結果ヲ  
海上ニ於テモ等シク獲得シ得ベキヤニ付キ研究ヲ重ネタリ  
シガ其結果ニ対シ會議ノ一致ヲ見ルヲ得タリシコト甚タ  
難カラザリシノミナラズ當時起草委員ノ大多数ハ素ヨリ海  
軍々人ヨリ成リシナリ  
今ヤ千八百六十四年八月二十二日ノ條約ニ代ハルベキ千九  
百六年七月六日ノジュネーヴ條約ハ三十ヶ国ニ依テ調印セ  
ラレ就中十一ヶ国ハ既ニ批准スラ終リタルニ当リ千八百  
九十九年ノ事業完成ノ為メ人ノ此新條約ニ思及スルハ敢テ

千八百六十四年ノ條約ニ加ヘラレタル拡充増補ノ点ヲ採テ  
之ヲ千八百九十九年ノ條約ニ應用シタル精細ノ研究ニ付テ  
ハ吾人獨乙委員ニ負フ処ノモノ甚タ大ナルモノアリ之レガ  
為メ吾人ハ大ニ吾人ノ勞ヲ省クヲ得吾人ノ為スヘキハ唯  
ク海戦ト陸戦トニハ其規定ヲ設クルニ当リ事實上如何ナル  
差異アリテ如何ナル範囲マデ一方ニ適用セラルヘキモノガ  
他ノ一方ニ適用シ得ラルベキヤヲ研究スルニアリタリ  
仮案モ亦千八百九十九年ノ條約ヲ変更スルヨリモ寧ロ之ヲ  
増補スルヲ以テ目的トシ和蘭ノ或修正案ハ之ニ反シ同條約  
ヲ変更セントスル傾ヲ有セリ此ニ於テカ一ノ先決問題ヲ生

シタリ千八百九十九年ノ條約ハ修正増補ヲ加フルヲ得ル丈  
ケニテ依然トシテ存スルヤ又ハ新旧ノ規定ヲ參酌シテ全  
ク一ノ新ナル條約ヲ作成スベキヤ即チ之レナリ然ルニ委員  
会ハ猶豫ナク後者ヲ採ルコトニ決シタリ尤モ増補ノ條項ハ  
其範囲可ナリ広大ニシテ且特別事項ニ關係ヲ有スルモノ多  
カリシカバ之ヲ編纂規定スルニ實際上多大ノ困難アリシ  
ガ這般ノ規則ノ如キハ困難ノ場合ニ対スル規定ナレバ其ノ  
簡易明瞭精確ヲ期セザルベカラズ

然レドモ今回ノ新條約ハ千八百九十九年ノ條約ニ多大ノ変  
更ヲ加フルコトナク旧條約ハ依然トシテ其旧態ヲ存セリ  
今回ノ條約ハ其表題ヲ変スベキハ勿論ナリ但旧條約ノ千八  
百六十四年八月二十二日トアルヲ千九百〇六年七月六日ト  
改ムルヲ以テ足レリトス

### 第一條 第二條

ハ旧條約ノ條項ヲ其儘保存ス

### 第三條 旧第三條ヲ変更セリ同條ハ千九百〇六年條約第 十一條ニ基キテ為サレタル獨乙ノ修正案ヲ採用シタル モノナリ（Annexe 1. 独案参照）

抑モ中立國ノ一ノ協会ガ交戦國ノ一方ニ対シ救護事業ニ從  
事セントスルトキハ豫メ其中立國ノ同意ヲ得ルハ勿論其救  
護ヲ与ヘントスル交戦國ノ許可ヲ要ス此場合ニ於テ該協会  
リ

打消スニ足ラズト為セリ陸軍ニ於テハ中立救護班ガ其軍隊  
ニ編入サルヘキハ自然ノ結果ニシテ敵ニ対シ該救護班ノ  
行為ニ關シ責任ヲ有スル以上ハ其自由ノ行動ヲ許サズシテ  
常ニ之ヲ監督スルノ必要アルモ中立病院船ニ至テハ全ク之  
レト趣フ異ニセリ該船ハ大海ニ於テ行動ノ自由ヲ有セリ況  
シヤ戰場ニ接近シテハ敵味方ノ區別ナク救護ノ任ニ当リ  
得ベキ地位ニ立テリ而カモ一方ニ於テ交戦國ハ病院船ガ右  
ノ地位ヲ濫用スルノ弊ヲ防クニ足ルベキ充分ノ方法ヲ有セ  
リ

第四條 変更ナシ交戦國ガ濫用惡弊ヲ防ギ得ルニ充分ナ  
リト思ハル

第五條 本條ハ大体原案ノ通リナリ但第四項ヲ修正シタ  
リ之レ第三條ノ結果トス故ニ若シ本會議ニシテ右修正ヲ  
容レザレバ寧ロ原條ヲ維持スルヲ可トスペシ  
新ニ追加ノ二項中一ハ千九百六年條約第二十一條第二項ヨ  
リ來ル尤モ陸戦ト海戦トハ自ラ其趣ヲ異ニスルヲ以テ條文  
亦自ラ異ナラザルヘカラズ是レ独案ノ條文ニ修正ヲ加ヘタ  
ル所以ナリ本項（新第五項）ハ其範圍頗ル広大ニシテ總テ  
ノ場合ヲ總括セリ即チ敵ノ病院船ナレバ其國々旗ヲ下降シ  
テ赤十字旗ノミヲ存シ中立國病院船ナレバ其國々旗ト赤十  
字旗トヲ併存スルナリ

第六項独案ニ付テハ種々ノ非難起リ独案ニ依レバ該條ハ命  
令的ナルモ一ノ艦隊ニ隨從スル病院船ニ対シ其存在ヲ敵ニ  
知ラシムルガ如キ標識ヲ為スコトヲ命ズルヲ得ズ故ニ病院  
船ガ其標識ヲ為スト否トハ其自由ニ任ズベク但充分ノ標識  
ナキトキハ自ラ攻撃ヲ招クノ危險アルモノトス且又一定ノ  
燈光ヲ用ユルトキハ他船艦逃遁ノ為メニ利用セラルヽノ虞  
ナシトセズ委員会採用ノ條文ハ是等ノ非難ヲ悉ク排除セ  
シテ「其指揮ノ下ニ立チ」ト為セリ

ガ一時前記交戦國ノ衛生勤務ノ一部ヲ成スモノナルコトハ  
第二十二條第一項ニ赤十字旗ト共ニ交戦國々旗ヲ掲揚ス  
ベキ義務ヲ負ハスニ依テ明カナリ千八百六十四年ノ條約ニ  
ハ中立救護班ノ場合ヲ規定セズ從テ千八百九十九年ノ條約  
ヲ議スルニ當リ準拠スベキ先例ヲ欠キ為メニ病院船ハ如何  
ナル條件ノ下ニ其慈惠的救護ノ事ニ從フコトヲ得ベキヤ  
又其掲揚スベキ旗ハ何レノ国旗ヲ用ユベキヤハ一ノ問題ト  
ナリタリ此点ニ關シ千八百九十九年ノ委員会ハ左ノ如キ意  
見ヲ提出シタリ

中立病院船ハ交戦國一方ノ直接指揮監督ノ下ニ立タシメ  
ザルベカラズトノ議ニ関シ深ク之ヲ研究シタル結果吾人  
ハ此ノ如キハ大分重大ナル困難ヲ生ズルニ至ルベキコト  
ヲ發見セリ病院船ノ掲揚スベキ国旗ハ如何又タ公許ヲ得  
タル船舶ガ交戦國一方ノ海軍中ニ加ヘル事ハ中立ノ觀念  
ニ背ムク處アラザルカ等ノ疑問続出シ吾人ハ寧ロ中立國  
船舶ニシテ其政府ヨリノ公許ヲ得タルモノハ第四條ノ規  
定ノ下ニ於テ両交戦國ノ指揮監督ノ下ニ措カルヽヲ以テ  
充分ナリト考フ  
以上ノ理由ハ今日ニ於テモ我委員会一部ノ間ニ主張セラル  
ル処ニシテ千九百〇六年條約第十一條ハ未タ是等ノ理由ヲ

第六條（新條）ハ千九百〇六年條約第二十三條ヨリ成  
り何等ノ異議ヲ見ザリシ

第七條（新條）ハ同條約第六條第十五條ヨリ成ル而カ  
モ海戦ニ於ケル本條ノ如キハ陸戦ニ於ケルヨリモ甚ダ  
罕ニ見ル処ニシテ且海戦ハ屢遠距離ニ行ハルヲ以テ  
想像ニ難シ故ニ本條規定ノ場合ハ寧ロ艦内ノ戦闘ヲ想  
像シタルモノト為サザルベカラズ從テ独案ヲ修正セル  
ノ理自ラ明了ナリトス

第八條（新條）第一項ノ原則ハ千九百〇六年條約第七  
條ヨリ来ルモノニシテ自明ノ事トス

第二項ハ同條約第八條ヨリ来ルト雖トモ同條ヲ其儘悉ク  
此ニ採用スルノ必要ヲ見ズ病院船又ハ艦内病室附人員ハ  
艦船内ノ秩序維持ノタメ又ハ傷病者保護ノ為メ武装スル  
コトヲ得ルモノニシテ之レガ為メ其保護權ヲ失フコトナ  
カルベシ之レト同精神ニ基キ第四條第五項ニ依リ病院船  
乗込ミノ監督將校ハ決シテ捕虜ト為サル、コトナカルベ  
シ独乙委員ハ海賊ノ襲撃ヲ防グ為メ其他航海ノ安全ニ備  
フル為メ小口怪ノ砲ヲ搭載スルコトヲ得ト為セルモ此ノ  
意見ハ委員会ニ於テ採用セラレザリシ委員会ハ討議ノ末

ニ属スルコトニシテ此外ニ規定ノ途ナシ海上ニ於テ  
定ノ特權ヲ享受スル利益ハ陸戦ニ於ケルヨリモ適切ナ  
ラザルベシ要ハ善意ノ厚簿ニ帰ス交戦國ノ一方ハ救護  
援助ヲ求ムル一定ノ約束ヲ為シタル場合ニハ飽マデ其  
約ヲ守ルベク又中立船ハ需メニ応シテ救護ニ從事ス  
ルヲ理由トシテ通常中立船ニ許サレザル行為ヲ為シテ  
危険ヲ犯サランコトヲ期セザルベカラズ要スルニ一  
方ニ於テ交戦國一方ノ傷者、病者又ハ難船者ヲ輸送ス  
ルノ事實ノ為メ捕獲セラル、コトナカルベク又一方ニ  
於テ千八百九十九年ノ條約第六條ニ依テ規定セラル、  
如ク中立違犯ノ行為ニ依テ捕獲セラルベキコトハ明白  
ノコトナリトス

第十條 本條ハ千八百九十九年條約第七條ニ外ナラズ但  
敵ニ抑留セラレタル衛生隊員ノ俸給ニ關シ陸戦法規ト  
海戦法規トノ間ニ均衡ヲ有タシメン為メ多少ノ修正ヲ  
加ヘタリ（千九百〇六年條約第十三條参照）  
尤モ右俸給ノ支給ヲ受クベキモノハ官吏ニ止マリ救護  
事業ニ從事スル私立協会員ハ其權利ナキハ勿論ノコト  
トス

病院船武装ノ必要ヲ認メザリシ彼ノ商船ノ如キハ武装ナ  
キニアラズヤ而カモ今ヤ此ノ如キ危険ニ遭遇スルモノ殆  
ンド之レアルヲ見ズ尤モ号報ノ為メ一ノ火砲ヲ搭載スル  
ハ此限リニアラズ

和蘭ノ委員ハ病院船中ノ無線電信ニ閱シ説明スル処アリ  
委員会ノ多数ハ此無線電信ハ同船ノ保護ヲ撤棄スルノ理  
由トナラズトセリ但之レガ濫用ハ最モ慎ムベキコトニシ  
テ第四條第二項ハ之ヲ保障セリ其実行ノ如何ハ實ニ交戦  
国ノ善意如何ニ依ルモノニシテ此ノ如キハ獨リ同條ノミ  
ナラズ多數ノ他ノ條項モ亦交戦國ノ善意ニ待ツ処ノモノ  
甚タ大ナルモノアリトス監督將校ノ制ハ其濫用ニ注意セ  
シムルコトヲ得ベク場合ニ依テハ一時電信器械ヲ撤去ス  
ルコトヲ得ベシ

第九條（新條）ハ其実体ニ於テ千八百九十九年ノ條約第  
六條ナリトス但第一項ハ一九〇六年ノ條約第五條ヨリ  
成リ此處ニハ單ニ中立船舶ノ慈惠的援助ニノミ止ルベ  
キコトヲ明記シ凡テノ疑義ヲ避クル為メ独案ノ「請求  
シ得ベシ」トノ語ヲ変更セリ

第二項中「特別ノ保護ト一定ノ特權ヲ享受スヘン」  
トノ語ハ曖昧ナリトノ議行ハレタリシガ畢竟事実問題

第十一條 旧第八條ニ基キ「ジュネーヴ」條約第一條第一  
項ヲ參照シテ補充セシモノナリ

第十二條（新條）本條ハ旧第六條ノ第三項トシテ独逸  
委員ヨリ提出セラレタルモノニシテ千八百九十九年ノ  
條約ニ明文ナカリシトスルモ當時其精神ハ之ヲ認メタ  
リシコトハ疑ナキ処トス故ニ此点ニ關シテハ一点ノ疑  
義ナカラシコトヲ期セザルベカラズ

抑モ巡洋艦ガ軍用病院船、通常病院船又ハ商船ニ出会  
スルトキハ其国籍ノ如何ヲ問ハズ現條約第四條及ビ普  
通法ノ原則ニ從ヒ之ヲ臨検スルノ權利ヲ有ス而シテ其  
船内ニ病者、傷者及難船者アルコトヲ発見スルトキハ  
之レガ引渡ヲ要求スルコトヲ得トナレバ既ニ千八百  
九九年條約第九條ニモ規定セラル、ガ如ク又現案第  
十四條ニモ規定スルガ如ク是等ノ者ハ其臨検ヲ行ヒタ  
ル敵國ノ捕虜ナルヲ以テナリ右ハ交戦國一方ノ戦闘員  
ガ其敵軍ノ權内ニ陷ルトキハ捕虜ト為ルト云フ一般原  
則ノ適用ニ過キズ交戦國ハ時トシテ此權利ヲ行使セサ  
ルヲ以テ利益ト為ス場合アルベキハ明白ナリトス即チ  
交戦者ハ屢傷者、病者ヲ其儘現ニ収容セラレ居ル場所  
ニ放任シ之ヲ引取ラザルヲ利益トスルコトアルベシ然

レドモ又時トシテ之ヲ其儘ニ放任シテ顧ミザルトキハ後ニ至リ該傷者、病者ハ其本国ノ為メ重要ナル勤務ニ就クノ虞アルトキハ之ヲ放任スルコト能ハザルベシ殊ニ健康ナル難船者ノ如キニ至テハ更ニ明カナリトス或ハ中立船ニ対シ其ノ慈善的ニ収容シタル負傷者ノ交付ヲ要求スルハ不仁ノ行為ニアラズヤト論ズルモノアリト雖トモ其議論ヲ打消スニハ條約ナキ場合ヲ仮想スルヲ以テ足レリトス此場合ニ國際法ノ實際ハ獨リ中立船内ニアル敵ノ戰闘員ヲ捕獲シ得ルノミナラズ此ノ如キハ不中立ノ行為トシテ其船舶ヲ押収シ没収スルコトヲ得セシムルニアラズヤ若シ夫レ難船者ガ中立国船内ニアルガ為メニ其俘虜トナルコトヲ免ル、モノトスレバ交戦者ガ之ニ依テ将来回復スペカラザル危害ヲ蒙ラントスル場合ニ於テハ右交戦者ハ中立者ノ慈惠行動ヲ拒絶スペク此ノ如キ場合ニ仁道ハ更ニ其効ヲ有セザルベシ

本條ニ闊シ注意スペキハ交戦國軍艦ハ中立國商船ニ對シテハ單ニ傷者病者及難船者ノ交付ヲ要求シ得ル丈ケニシゲ之ニ対シ其航路ヲ変シ又ハ指定ノ航路ヲ取ルベキコトヲ命シ得ザルコト之レナリ抑モ軍艦ガ上記ノ命

令ヲ為シ得ルハ第四條ニ規定スル如ク殊ニ病院船ニ機關サレタルモノニ対シテノミ之ヲ為シ得ルモノトス此點ニ闊シテハ旧第九條現案第十四條ニ付テモ亦然リ蓋シ是等ノ條項ハ病者、傷者ニ闊スル規定ニシテ船舶ニ闊スル規定ニアラザルヲ以テナリ

第十三條（新條） 仏國ノ提案ニ繫リ千八百九十九年條約ノ不備ヲ補フモノニシテ之ニ対シテハ何等ノ異議ヲ見サリシ蓋シ本條ノ事實ハ日露戰爭ノ際現出シタリシガ其處理ノ結果ハ本案通りニ決セラレタリ中立國軍艦ニ依テ収容セラレタル病者、傷者、難船者ノ位置ハ全くな中立地内ニ逃避シタル戰闘員ト同一ニシテ之ヲ其敵國ニ交付スペキモノニアラズ而シテ中立國ハ之ヲ留置スルヲ要ス

第十四條 旧第九條ヲ其儘襲用シタルモノナリ本條約ニ闊シ提出サレタル独乙並ニ和蘭ノ修正案ハ旧第十條ヲ再ヒ本案ニ加ヘタルニ依リ撤回サレタリ  
本條ハ人ニ闊スル規定ニシテ船舶ニ闊スル規定ニアラザルコトハ第十二條ニ於テ説明スルガ如シ船舶ニ闊シテハ本條外ニ規定アリ

第十五條 旧第十條ヲ再ヒ採用シタルニ過キズ旧第十

條ハ正当ノ理由ニ拘ハラズ他ノ特種ノ理由ニ依リ批准セラル、ニ至ラザリシ本案ニ於テ再ヒ之ヲ採用スルニ付キ仏國委員ノ提議ハ異議ナク採用セラレタリ本條ニ闊シ一ノ疑問トモ云フベキハ本條ノ規定ニ依レハ中立國ガ中立ニ違反シテ一方ノ交戦者ニ援助ヲ與フルニ至ラサルヤ從テ他ノ一方ノ交戦者ニ對シ責任ヲ負フニ至ラザルヤニアリシガ實際ノ利益上ヨリ打算シテ充分此ノ如キ疑点ヲ打消スニ足ル理由アルモノト認メラレタリ又本條ハ可成リ重大ナル責任ヲ中立國ニ負ハスマノナルヲ以テ第十三條ノ如ク单ニ相當ノ措置ヲ執ルベシト變更シテハ如何ントノ説モアリシガ第十三條ト第十五條トハ全ク場合ヲ異ニシ從テ同一文句ヲ用フベキ充分ノ理由ヲ見出サズ尤モ中立國官憲ニ望ム処ハ怠慢ナカラソコトヲ期スルモノニシテ責任ハ過失ヲ予想スルモノナリ

中立國商船ニ收容サレタルモノハ本條規定以外ニ属シ金ク自由トス但該船ガ中立港ニ入ル前巡洋艦ニ出会いシ且何等ノ約束ヲ為シタル場合ハ此限リニアラズ

第十六條（新條） 千九百〇六年條約第三條ヨリ來ル本條ニ火葬、土葬ノ語ヲ用ユルハ仮令海戦ニハ稀レニ其

適用ヲ見ルトスルモ陸地ニ接近シテ戰闘アル場合ヲ考へサルヘカラザルガ為メニシテ此場合ニハ陸上ノモノニ対シ本條ノ適用ヲ見ルコトアルベシ

第十七條（新條） 千九百六年ノ條約第四條ニ当ル

第十八條 旧第十一條

第十九條（新條） 千九百六年條約第二十五條ニ当ル

第二十條（新條） 同上第二十六條ニ当ル

若シモ法規ノ適用者ニ教示スル為メ豫メ相当ノ処置ヲ執リ置カザルトキハ明法モ死文ニ終ルベシ特ニ病院船等ノ乗員ガ其地位ヲ濫用シテ戰闘行為ノ禁ヲ犯スガ如キコトアリテハ獨リ條約ノ目的ヲ達セザルノミナラズ平和會議ノ人道的事業モ湮滅ニ終ルヘシ故ニ本條ハ最モ必要ノモノナリトス

第二十一條（新條） 千九百六年條約第二十七條及第一十八條ヨリ來ル何等ノ異議ナシ

第二十二條（新條） 異議ナク可決セラル

第二十三條 旧第十二條

第二十四條 旧第十三條但ジユネーヴ條約日附ニ從ヒ月日ヲ変ズルマデナリ

第二十五條（新條） 千九百六年條約第三十一條ニ当ル

本案ハ本案ニ調印シ之ヲ批准シタル國ノ間ニアリテハ  
千八百九十九年ノ條約ニ代ハルモノトス若シ千八百九  
十九年ノ條約ニ調印シタル兩國間ニ於テ一方ノミ新條  
約ニ調印シタル場合ニハ兩國ノ關係ハ千八百九十九年  
ノ條約ニ依テ定マルモノトス

## 第二十六條 旧第十四條

千九百六年七月六日ノ「ゼネヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ適  
用スル條約案

## 第一條及第二條旧ノ通り

第三條 独國提案第三條中交戰國一方ノ使用ニ供セラレ  
ヲ交戰國一方ノ指揮(デレクション)下ニ置キニ改メ

テ採用セラル(本條ニ付テハ英國西國及他ノ小國ヲ加ヘ  
ナリ)ノ否決説アリシモ多數ニテ成立ス

## 第四條 旧ノ通り

第五條 独提案第三條ノ採用セラレタル結果第三項ニ追  
加シテ中立國病院船ハ右ノ外其指揮ヲ受クル交戰國ノ  
國旗ヲ大檣上ニ掲グヘキコトトシ尙第四項トシテ敵ノ  
為メ抑留セラレタル病院船ハ其掲揚スル交戰國國旗ヲ  
撤去スペキコト及第五項トシテ上記ノ病院船及端舟ニ  
シテ夜間自己ノ尊重權ヲ確メント欲スルモノハ其隨伴

護ラ受クベク此船舶ハ單ニ右輸送ノ事實ノ為ニ捕獲セ  
ラル、コトナキモ其中立違反ノ行為アリタルトキハ此  
約束ニ闕セズ捕獲セラルヘキコト(旧第六條ノ修正)

第十條 第一項第二項ハ旧第七條第一項第二項ニ同シ第  
三項ヲ改正シテ自國海軍ノ同階級ノ人員ト同一ノ給養  
及俸給ヲ得セシムルコトトス

第十一條 艦船内ニ在ル海陸軍人及官命ニ依リ海陸軍ニ  
附屬セシメラレタル其他ノ人員ニシテ傷病セル者ハ總

テ捕獲者ニ於テ保護介抱スペキコト

第十二條 交戰國軍艦ハ病院船及中立國商船等ニ在ル傷

病者難船者ノ引渡ヲ要求スルヲ得ルコト英國ハ本條ニ

対シテ留保セリ

第十三條 中立國軍艦ニ於テ傷病者難船者ヲ收容セルト  
キハ再ヒ戦鬪ニ從事セシメザルノ手段ヲ取ルコト

第十四條 旧第九條ト同シ

第十五條 旧第十條ノ復活

第十六條 各戦鬪後交戰者双方ハ軍事上ノ利益ノ許ス限  
傷病者等ヲ搜尋スル為且此等ノ者及死者ヲシテ掠奪等

ヲ受ケシメサル為ノ手段ヲ採ルヘキコト

スル交戰者ノ同意ヲ得テ其塗色ヲ充分明ニスル為メ必  
要ナル手段ヲ取ルヘキコトノ二項ヲ追加ス  
第六條 第五條ニ定メタル識別記号ハ平時ト戰時トヲ問  
ハス該案ニ規定スル船舶ノ保護又ハ標識以外ノ目的ノ  
為ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第七條 軍艦内ニ於テ戰鬪起レル場合ニハ其病室ハ出来  
ヘキ限之ヲ尊重庇護スヘシ

右病室及材料ハ戰時法ノ規定ニ依ルヘキモ傷病者ノ為  
必要ナル間ハ用途ヲ変更スルヲ得ザルコト然レトモ軍  
事上重大ナル必要アルトキハ室内ニ在ル傷病者ノ生命  
ヲ保安シタル上使用スルヲ得ルコト

第八條 病院船及艦内病室ハ敵ニ対スル加害行為ニ供ス  
ルトキハ保護權ヲ失フモ其人員ガ秩序維持又ハ保護ノ  
為武裝スルコト及船内ニ無線電信機ヲ備フルコトハ保  
護權ヲ失フノ理由トナラザルコト本條無線電信ニ關シ  
テハ日本英國伊國等八ヶ國ノ否決説アリシモ多數ニテ  
成立ス

第九條 交戰者ハ中立國ノ商船等ニ傷病者ノ收容介抱ヲ  
依頼スルヲ得ルコト  
右依頼ニ応ジ又ハ自カラ之ヲ收容セルモノハ特別ノ保

交戰者ハ死者ヲ葬ル前屍体ノ検按ヲ為スニ注意スルコ  
ト

第十七條 交戰者ハ死者ヲ認知スルニ足ルヘキ軍事上ノ  
記号書類及收容セル傷病者ノ名薄ヲ速ニ自國官憲ニ送  
致スルコト

交戰者ハ其權内ニ在ル傷病者ノ抑留移動入院死亡ニ闕  
スル現況ヲ互ニ通報スペク又捕獲艦船内ニテ発見シ若  
ハ病院ニテ死亡セル傷病者ノ遺留セル自用品等ヲ本  
國關係者ニ伝送スルコト

第十八條 旧第十一條ニ同シ

第十九條 軍隊ヲ艦隊ニ改メタル外千九百六年赤十字改  
正條約第二十五條ニ同シ

第二十條 トループマリーンニ改メタル外赤十字改正  
條約第二十六條ニ同シ

第二十一條 赤十字改正條約第二十八條ト同シ但其軍刑  
法ナル文句ヲ单ニ刑法トナシ第一項ノ終リヲ本條約ニ  
依リ保護セラレザル船舶ガ第五條ニ定メタル識別記号  
ヲ濫用云々ニ又第二項瑞西政府ヲ蘭国政府ニ改ム

第二十二條 本條約ハ艦船内ニ在ル軍隊ニ限り適用セラ  
ルヘキコト

第二十三條 旧第十二條ト同シ

第二十四條 條約日付ヲ千九百六年ニ改メタル外旧第十

三條ト同シ

第二十五條 條約日付ヲ千八百九十九年ニ改メタル外赤

十字改正條約第三十一條ト同シ

第二十六條 旧第十四條ト同シ

#### (四) 第四回総會議

一、陸戰法規慣例ニ閔スル千八百九十九年ノ規則改正ノ

件

一、輕氣球上ヨリ投射物及爆裂物ノ投下ヲ禁ズル千八百

九十九年ノ宣言更新ノ件

一、海軍力ヲ以テスル防禦ナキ港市町村及家屋ノ砲擊ニ

閔スル規定ノ件

一、軍備制限ニ閔スル希望ノ件

第一回萬国和平會議議事録(第四)

千九百七年八月十七日午後三時第四回総會議開会

議長ネリドフ閣下

前会(七月二十日)議事録ヲ承認ス

次ニ議長ハ左ノ宣言ヲ為セリ

所謂「作戦動作ニ參加」ナル語ハ其意味ニ付種々ノ解釈ヲ  
為シ得ルモノナルコトハ之ヲ認メサルベカラズ否ナ余ヲ以

テ之ヲ見ルニ其意味ヲ限定スルハ不可能ノコトナルガ如シ  
何ントナレバ第二十二條a項ニ依リ不法トナルベキ行為ヲ

第四十四條a項ニ依リ限定スルトキハ一方ニ於テ軍事行動

ノ自由ヲ束縛スルニアラズンバ一方ニ於テ條約中ニ明カ

ニ禁制セザル總テノ他ノ行為ハ認許セラレタルモノナリト

ノ解釈ヲ生スルノ惧アリトス而シテ吾人ハ両者共之ヲ採ラ

ス吾人ハ如何ナル場合ニ於テモ苟クモ實際ニ於テ第二十二

條a項ニ規定スルカ如キ人道並ニ文明的思想ヲ非常ニ薄

弱ナラシムベキカ如キ解釈ハ之ヲ許ス能ハズ之レ吾人ガ第

四十四條a項ニ反対スル所以ナリト露國第一委員「カボスマ

レーリ」氏モ第二十二條a項ヲ承諾セルハ現條約第四十四

條ガ其儘現存スペキヲ條件トセルヲ以テ第四十四條a項ハ

之ヲ承諾スル能ハズト云ヘリ

露國委員「チャリコフ」氏ハ「モンテネグロ」ヲ代表シテ

既ニ第二十二條a項ヲ承諾セル上ハ第四十四條a項ニ付テ

ハ保留ヲ為スベシト宣言セリ

露國委員「ド、マルテンス」氏ハ露國ノ為メ右ト同様ノ保

留ヲ為セリ

會議ハ喜ンデ前記三宣言ヲ承認ス

議長ハ更ニ語ヲ統ケテ本日ノ議事日程第一ハ陸戰法規慣例

ニ閔スル千八百九十九年ノ規則改正ニ閔スル第二委員会ノ

報告(文附屬書)

ヲ議スルコトニアルコトヲ告ゲ本日同委

員会ノ議長タリシ「ベルネナー」氏ガ此ニ出席シテ我々感

謝ノ誠意ヲ受クルコトヲ得ザルハ余ノ最モ遺憾トスル処ナ

リト述べ修正條項朗説ヲ為サシムルニ付キ異議アルモノハ

其都度宣言又ハ保留ヲナサンコトヲ希望スル旨ヲ告ケ報告

委員男爵「ギースル、ドギースリング」少將ハ修正條項

ノ朗説ヲ始メタリ

第二條第五條第六條第十四條第十七條第二十二條a項、第

二十三條第二十五條及第二十七條ハ異議ナク可決セラル

第四十四條a項ニ至リ獨國委員男爵「マルシャル、ド、ビ

ーベルスタイン」氏ハ之ニ反対シテ曰ク第二十二條a項ニ

ト全ク同一ノ保留ヲ為セリ  
議長ハ是等ノ保留ヲ認諾セリ

第五十二條及第五十三條異議ナク可決セラル  
陸戰法規慣例ニ閔スル條規違反ノ場合ニ於ケル賠償ニ閔ス  
ル新規定ニ對シテハ英國委員「サー、エドワード、フライ  
氏」ハ未タ本国政府ノ訓令ナキニ依リ贊否ノ意見ヲ述フル  
能ハズト云ヘリ

土耳古委員「ルシド、ペー」氏ハ此條項ニ付保留ヲ為セリ  
此ニ於テ全修正條項ニ付キ採決セシニ独、燠、ビュルガリ  
一、英、日、モンテネグロ、ルーマニア、露、土ノ各國保

留ヲナシタル外全会一致ヲ以テ可決セリ  
次キニ議長ハ本日ノ議事日程第二ニ移リ第二委員会ヨリノ  
報告ニ基キ輕氣球ノ上ヨリ投射物及爆裂物ノ投下ヲ禁ズル

千八百九十九年ノ宣言更新ノ件ニ閔スル議案ヲ審議スベキ

コトヲ告げ先ツ報告委員ヲシテ白耳義ノ提案ヲ朗読セシム  
(議事録原文附屬書)

仏国委員ハ陸戰法規慣例條規修正案第二十五條ニ「如何ナ

ル方法ニ依ルモ」トノ句ヲ附加シタル以上ハ之ニ依リ人道

上ノ目的ハ充分達セラル、モノト考フルニ依リ原案ニハ不

賛成ナリト云ヘリ

議長ハ英國委員ヨリ白耳義案ニ対シ修正ヲ提出セルコトヲ

述べ英國第一委員「サー、エドワード、フライ」氏ハ原案

「五年間」ト云フヲ第三回平和會議ノ閉会マデ」ト為サン

コトヲ提議シタリ

議長ハ英國ノ修正案ニ付キ採決スベキコトヲ告グ

露国委員「ド、マルテンス」氏ハ投票ニ關シ保留セリ

日本第一委員都筑ハ既ニ大國間ニ一致ヲ欠ク以上ハ或ル他

ノ國ニ対シ何等約束ヲ為スベキ必要ヲ見ズ蓋シ他ノ一方ノ

諸國ニ対シテハ更ニ本問題ヲ研究セザルベカラザル必要ア

レバナリ依テ日本委員ハ投票ニ付テハ棄権スペシト云ヘ

リ

投票ノ結果ハ左ノ如シ

反対八 独国、アルジャンチン共和国、墺洪国、伊国、

モンテネグロー、波斯、羅馬尼及ビ露国

棄権八 智利共和国、西国、仏国、日本、墨其斯哥、秘  
露、瑞典、ヴェネズエラ

賛成 二十八

次ニ白耳義案ニ付採決セリ其結果左ノ如シ

反対八 独国、アルジャンチン共和国、西国、仏国、モ  
ンテネグロー、波斯、羅馬尼、露国

棄権七 智利、格魯比亞、日本、墨其斯哥、秘露、瑞  
典、ヴェネズエラ

賛成 二十九

次キニ英國第一委員ハ「窒息セシムベキ瓦斯又ハ有毒質ノ  
瓦斯ノ使用禁止」及「人体内ニ入テ容易ニ開展シ又ハ扁平  
ト為ルベキ弾丸ノ使用禁止」ノ宣言ニ英國政府力加盟スル  
コトニ關シ一ノ宣言ヲ為セリ

議長ハ之ニ答ヘテ會議ハ喜シテ右宣言ヲ承認スト云ヘリ

議長ハ日程第三ニ移リ第三委員会ノ報告ニ基ク海軍力ヲ以  
テスル防禦ナキ港湾市邑村落及ビ家屋砲撃ニ關スル規定ノ  
審議ヲ始メタリ

第三委員会第一分科会報告主任「ストライト」氏原案ノ逐  
條朗讀ヲ始ム

第一條 独、英、仏、清、西ノ各國委員ハ第一條第二項

テ軍備制限問題出テタルコト及ビ一千八百九十九年八月露国  
皇帝陛下ノ名ニ於テ歐洲諸國ノ注意ヲ呼ビタル「ムラヴィ  
エフ」伯ノ覺書ヲ引キ當時同伯ガ世界各國ノ軍備ノ益拡張  
セラル、ニ伴ヒ軍費ハ益々増加シ之ニ依テ各種事業ノ発達  
ヲ妨害シ國家ハ有形無形ニ多大ノ影響ヲ蒙リ萬端ノ事総テ  
軍事ヲ先キニシ國民ノ負担ハ益重加シテ今ヤ殆ンド久シ  
ク堪ユル能ハザルノ状態ニ陥レリ今ニシテ之カ救済ノ策ヲ  
講ゼザレバ其禍ノ及ブ処又タ測リ知ルベカラザルモノアラ  
ント論ジタルハ至言ニシテ同氏ノ此言ハ其後事実ニ徵シ益  
重キヲ致スニ至レリト云ヒ氏ハ更ニ統計ヲ挙ゲ千八百九  
八年ニ歐洲諸國（土耳其、モンテネグロヲ除ク）北米  
合衆国及日本文ケニテ軍費ノ總額二億五千萬磅ナリシガ千  
九百六年ニ至テハ增加シテ三億磅ニ達シタリ故ニ八年間ニ  
前記各國ノ軍備ハ六千九百萬磅即チ十七億二千五百萬法ノ

增加ヲ為シタルコトヲ立證シ此ノ如キ莫大ノ軍費増加カ經  
濟上ニ如何ナル影響ヲ及ボセルカハ此ニ之ヲ喋々セズトモ  
議長ニ於テ余ヨリモ良ク了知セラル、処ナラント説キ左ス  
レバ議長ニ於テモ第一平和會議ニ於テ露帝並ニ平和會議  
ニ依テ表彰セラレタル軍費制限ノ希望ノ實行ヲ期スルハ仁  
ナルノ提議ヲ為スノ名譽ヲ有スト述べ第一平和會議ニ於

賛成 三十七

保留付賛成七 独国、智利、西国、仏国、英國、ハイ  
チ、日本。

次キニ英國第一委員「サー、エドワード、フライ」氏ハ軍  
備制限問題ニ關シ大要左ノ如キ演説ヲナセリ

同氏ハ先ツ冒頭ニ英國皇帝陛下ノ政府ノ名ニ於テ最モ緊要  
ナルノ提議ヲ為スノ名譽ヲ有スト述べ第一平和會議ニ於

テ

ト同意ナラント確信ス然ラハ即チ右希望ハ果シテ之ヲ実行シ得ベキヤトノ疑問ニ対シ余ハ然リト確信スルコトヲ得ズ然レドモ余ハ只タ茲ニ余ノ政府ハ誠意ニ軍費制限ヲ希フモノハニシテ余ニ命シテ閣下ニ対シ此ノ高尙ナル希望ノ實行ニ關シ協力ヲ請ハシムルモノナリト云フニ止ムト陳べ更ニ同氏ハ往古ノ民ハ黃金時代カ曾テ存在セシコトヲ夢想シ爾來如何ナル國民ヲ問ハズ如何ナル時代ヲ問ハズ苟クモ高尙ノ精神ヲ有スル達識ノ士ハ此黃金世界ノ再現ヲ希ヒ世界平和ノ確立ヲ望マザルモノ未タ之アラザルナリ然ルニ人類間抱合聯結ノ精神ノ発輝セラル、コト今日ヨリ大ナルハナシ現平和會議アルモニ此精神ニ基カズンハアラズ既ニ此精神アリ吾人相別ルニ先タチ如何ソ世界各國政府ハ軍費制限問題ニ關シテハ誠心誠意ニ之ヲ切望スルモノナルコトヲ明カニセズシテ其儘之ヲ默々ニ附スルコトヲ得ベケンヤ余ノ政府ハ各國政府カ外寇ニ対シ又國難ニ臨ンデ防禦ノ為必要ノ手段ヲ執ルノ権利ト義務トヲ有スルコトハ素ヨリ之ヲ了知ス故ニ今日英國政府ガ各國ト計テ軍費制限ノ実ヲ挙ケンコトヲ研究セントスルハ各國カ其國利民福ヲ増進セントスル自由意思ノ發動ノ範圍内ニ於テ之ヲ行ハントスルニアルナリ此ニ於テ英國政府ハ余ニ命シテ下ノ如

九日ノ特別追加條約ニ依テ其実行ヲ見ルニ至リタル旨ヲ通告シ右兩條約ヲ提出シテ参考ニ供スト陳ベタリ（議事録原文附屬書類第一号第二号）

議長ハ大要左ノ如キ演説ヲ為シテ英國提案ガ全会一致ヲ以テ可決セラレンコトヲ勧告シタリ

議長ハ初メニ軍費ヲ輕減シ軍備ヲ制限ゼンコトハ露希方和平會議ヲ起サレタル重モナル動機ノ一ナリシカ第一平和會議ノ際ニ於テハ各國間議論ノ一致ヲ欠キ遂ニ一ノ希望宣言ニ止マルニ至リタルコトヲ述べ其宣言ノ実行ニ付テモ實際ハ其希望ニ副フコトヲ得ズ現ニ亞爾然丁共和国ト智利国ノミハ右希望宣言ニ基キ兵力制限ノ條約ヲ締結セルモ歐洲諸國ニ在テハ他ノ事情ニ迫ラレテ此問題ヲ省ミルノ邊ナカリシトテ北清事麥南阿戰爭及日露戰爭ノアリタルコトヲ述べ其結果ハ寧ロ各國カ兵力增加ノ必要ヲ感シタリ

上記ノ如キ理由アリタルヲ以テ今回露國ハ兵力制限問題ヲ提出セザリシ蓋シ露國ハ或ル大國ハ此問題ヲ議スルコトヲ好マザルコトヲ知リ又之ニ依テ前會議ノ時ノ如ク各國間ニ議論ノ沸騰ヲ來タサンコトヲ欲セザリシニ由ル前會議ノ際ニ於テ兵力制限問題ヲ議スルハ其機尙ホ熟セザリシト同シク今日ニ於テモ亦同様ノ状態ニアル以上ハ此上右問題ノ進

キ宣言ヲ為サシムルヲ憚ラズ即チ英國政府ハ各國ト交換的ニ毎年各國ニ向テ新造軍艦ノ設計及其建設費ヲ互ニ通知スルニ吝ナラサルベシ蓋シ此ノ如キ情報ノ交換ハ制限問題ニ關シ各國政府ノ意見ノ交換ヲ容易ナラシムベク而シテ制限問題ハ各國ノ一致ニ依テノミ之ヲ実行シ得ベケレバナリ英國政府ハ右ノ方法ニ依リ同一希望ヲ有スル各國政府間ニ軍費ニ關シ協定ヲ為スコトヲ得ベシト信ズ最後ニ至リ余ハ次ノ決議案ノ可決セラレンコトヲ提議スルノ名譽ヲ有ス

当會議ハ軍備制限ニ關スル千八百九十九年ノ會議ノ決議ヲ確認シ同年期以来殆ンド各國ニ於ケル軍費ノ増加著シキモノアルニ鑑ミ當會議ハ各國政府カ同問題ニ對シ誠心誠意ニ研究ヲ重ネンコトヲ切望シテ止マザルコトヲ宣言ス（繰返シ拍手喝采）

議長ハ右英國委員ノ宣言ニ對シ米仏西諸國ノ委員等ヨリ贊成ノ通告アリタル旨ヲ告ゲ各委員ハ其賛成ノ理由ヲ簡単ニ説明セリ又タ亞爾然丁共和国及智利国ノ両委員ハ連名ニテ第一平和會議ニ於テ為サレタル減兵問題ニ關スル希望宣言ニ基キ千九百二年五月八日ノ條約ヲ以テ亞爾然共和国ト智利国トノ間ニ海軍力制限ノ條約ヲ締結シ千九百三年一月

## 参照

## 第一 第四回総會議々事録

## 第二 同上附屬書第四号第六号第七号

第三 千八百九十九年陸戰法規慣例規則改正ノ件ニ關於スル特別報告（各問題ノ部ニアリ邦文）

第四 千八百九十九年ノ三宣言ニ關スル特別報告（同上）

第五 海軍力ヲ以テスル港市町村ノ砲撃ニ關スル特別報告（同上）

第六 軍備制限ニ關スル特別報告同上

第七 六月二十四日第三委員会第一回総會議事録

第八 八月十四日第二委員会第二回総會議事録

第九 七月三日第二委員会第一分科會議事録第一回ヨリ第五回マデ及其附錄

## 第十 男爵「ギースル、ド、キースリング」少将ノ

第一委員会第一分科会ニ於ケル報告

## 第十一 同上編纂委員ノ報告

## 軍備制限ニ関スル件

軍備制限問題ハ第一会議以来ノ宿題ナルノミナラズ英國現政府政綱ノ一タルヲ以テ會議開設前ヨリ同国政府ヲ始メ独仮墺伊等諸国政府間ニ種々交渉ノ次第アリシモノナル處英國政府ハ同件ニ関シ本會議ニ於テ何等確的ナル提案ヲナスモ到底各国ノ同意ヲ得ルノ見込ナシト認メ遂ニ会議ノ終期近ツキ別紙号ノ如キ決議案ヲ提出スルコトニ決シ右ニ関シ重モナル諸国トノ間ニ内議ヲ開キタル処各國ニ於テハ大体右ニ対シテ格別ノ異存ナク獨国等ノ如キモ右決議案中緊急云々ノ文字ヲ改訂スルトキハ別段之ニ反対セザルノ意ヲ表シタルヲ以テ結局右決議案ヲ別紙号ノ如ク修正シ八月十七日ノ第四回総会議ニ之ヲ提出スルコト、ナリ同総會議ニ於テハ英國委員ヨリ同案ヲ提出シ併セテ右ニ関スル演説ヲナスヤ議長ノ巧慧ナル取計ニ依リ拍手喝采ヲ以テ直チニ之ヲ通過スルニ至レリ

ノ建議書ヲ朗読シ（議事録附屬書第十一号（Annexe 11）終テ本日ノ議事日程第一即チ第二委員会ヨリノ報告ニ係ル闘開始ノ議事ニ移リ報告委員「ルノー」博士ヲシテ同案ノ説明ヲ始メシメタリ「ルノー」博士ハ右報告第一條第二條ヲ朗読シ異議ナク可決統イテ同案全体ニ付キ採決セシニ満場一致ニテ可決セリ（附屬書類「ルノー」博士報告書（Annexe 8 要訳参照）

更ニ議事日程第二即チ是レ又第二委員会ヨリノ報告ニ係ル陸上ニ於ケル中立国ノ権利義務ニ関スル條約案ノ討議ニ移リ報告委員「ボレル」大佐同案第一條及至第十一條ノ朗読ヲ為シ各條異議ナク可決ノ上更ニ案全体ニ付キ採決セシニ満場一致ニテ可決セリ（「ボレル」大佐報告 Annexe 9 要訳ヲ附スベキノ処陸上ニ於ケル中立国ノ権利義務ニ関スル特別報告ト重複スルノ嫌アルニ付キ之ヲ其特別報告ニ譲リ「ボレル」大佐報告要訳ハ之ヲ略ス）

「ボレル」大佐ハ進シテ本日ノ議事日程第三タル交戦国領土内ニアル中立人ニ關シ陸戰法規慣例規則ニ追加ノ件ニ関スル議事ニ移レリ（「ボレル」大佐報告（Annexe 10 要訳ヲ附スベキノ処中立国人民ニ對スル交戦国ノ關係ニ關スル

## (五) 第五回総會議

一、戰闘行為開始ニ関スル件

一、陸上ニ於ケル中立人ニ關スル規則ノ件

## 第二回萬国平和會議々事録（第五）

千九百七年九月七日午前十一時十分第五回総會議開

議長「ネリドフ」閣下

前会（八月十七日）議事録ヲ承認ス

議長ハ和蘭国皇帝陛下ノ御誕辰ニ際シ會議ヲ代表シテ祝詞ヲ奉呈シタルニ御謝電アリタルコト及當時使用中ノ平和會議会場ハ何時マデモ之ヲ使用スルコトヲ勅許サレタル事等ノ報告ヲ為シ次ニ同議長、英國委員ヨリ本国政府ノ訓令ニ基キ陸戰法規慣例ニ關スル條約中獨国ノ提議ニ係ル該條約違反ノ場合ニ於ケル賠償ノ原則ヲ英國政府ニ於テ認諾セルニ依リ前総會議ニ於テ右ニ關シ同委員カ為シタル保留ヲ解ク旨ノ通知ヲ受ケタルコトヲ陳べ會議ハ右英國委員ノ宣言ヲ承認スト云ヘリ次ニ議長ハ羅馬尼亞国内閣議長ヨリ海牙ニ一ノ國際法学会ヲ設ケ之ヲ平和會議ニ附屬セシメ以テ平素ヨリ國際法問題ノ實地研究ノ任ニ當テシメントスル

特別報告ト重複スルノ嫌アルニ付之ヲ其特別報告ニ譲リ「ボレル」大佐報告要訳ハ之ヲ略ス）

本問題ニ關シテハ第二委員会ヨリ報告ノ規則案ハ獨乙提案ト相距ルコト甚シキニ依リ先ツ獨国委員ヨリ不贊成ノ議ヲ唱へ獨国第一委員ハ大要下ノ如ク述ヘタリ曰ク獨国案ヲ修正シテ成リタル本案ハ獨国案ノ頭部丈ヲ止メ体形ヲ止メザル一種変形ノ案ニシテ獨国ノ豫期セル希望ヲ達スルコト能ハズ殊ニ第三章ニ於テ中立人ノ財産ヲ規定セル章中修正変更ノ結果單ニ鐵道材料ト船舶ノミヲ規定スルニ止メ又獨國カ根本ノ主義トセル中立人ハ交戦国ノ軍隊ニ入り軍務ニ服スルコトヲ強要セラル、コトナシト云フニ對シ第六十四條ハ交戦国ハ中立国人ヲシテ戦争ニ關係アル役務ニ服セシムルコトヲ得ズトセリ而シテ第六十五條ヲ以テ右ノ規則ハ國法ニ依リ交戦国ノ軍隊ニ隸屬スルモノニハ之ヲ適用スルコトヲ得ズト規定セリ獨国ハ此ノ如キ規定ヲ獨国臣民ニ適用セラル、コトヲ許諾スルコトヲ得ズ此他ノ條項ニ付テモ亦種々ノ不都合ヲ認メ結局國際關係ヲ支配スベキ相互の原則ニ背反スルノ結果ヲ生ズルモノト認ム且又七大国ハ既テニ第六十七條ニ付キ保留ヲ為シ其中六大国ハ第六十八條ニ

付テモ亦保留ヲ為シタルノ現状ニ鑑ミ獨國ハ寧ロ此問題ノ解決ハ之ヲ將來ニ譲ルヲ可トスルモノナリト

次ニ亞爾然丁共和國委員ハ第六十四條第六十六條第六十八條ニ關シ保留ヲ為シ続イテ伊、瑞典、仏、露、希、玖吧、セルビー、墺、ブラジル、モンテネグロ、波斯等各國委員ハ第六十五條第二項ニ關シ保留ヲ為シタリ此ニ於テ獨國委員ハ本案ハ再ヒ之ヲ第二委員会ニ廻送シ再議ニ附セシメン

コトヲ提議シ仏、白兩國委員ノ賛成アリ

報告委員「ボレル」大佐ハ第六十五條第二項ハ一旦委員会ニ於テ之ヲ削除シ更ニ贊成十二、反対九、棄権（アブスター）十三ノ票數ノ下ニ復活セラレタルモノナリ然レドモ右贊成十二票ハ決シテ真ノ多數ヲ代表スルモノニアラザルベキヲ確信スル故ニ前記第二項ハ之ヲ削除スル方可ナルベシト述べ墺國委員ニ贊成シタリ白耳義委員ハ本案全部ノ再議ヲ主張シ露國モ亦獨國委員ノ提議ニ贊シ続イテ英國委員モ亦之ニ贊成セリ土古委員ハ第六十七條第六十八條ニ関シ保留ヲ為セリ

「ボレル」大佐ハ白耳義委員ノ反対ニ鑑ミ第二項削除ノ提議ヲ撤回セリ

議長ハ議場ノ大勢ニ鑑ミ獨國委員ノ提議ニ付キ投票ヲ為ス

#### 七、總會議々事錄附屬書（アネッキス十一）

八、其他第二委員會議事錄第一回ヨリ第六回マデ及同第二分科會議事錄第一回ヨリ第七回マデ及附屬書類一切

（附屬第一号）

#### 戰闘開始ニ關スル報告要訖

報告委員「ルノー」博士

「ルノー」博士ハ先ツ本問題ニ關シテハ古來學說並ニ實際上区々ニシテ未タ一定ノ解釈ヲ見ザリシガ今日吾人ガ此處ニ此問題ヲ議セントスルハ過去ニ就テ之ヲ論ズルノ愚ヲ為サズシテ寧ロ今後此ノ如キ不定ノ状態ヲ一定シ本問題ニ關シ将来ニ於テ疑義ナカラシメンコトヲ期スル為メ一ノ規則ヲ設クルヲ可トスルヤ否ヤラ知ルヲ先決問題トス而シテ此問題ニ付キ衆論ハ悉ク一ノ規則ノ制定ヲ希望セルコト毫モ疑ナキ処ナリト説キ起シ次ニ此点ニ關シテハ仏國提案ト及ヒ之ニ對スル蘭國修正案アリシガ一案共ニ戰闘開始ハ交戰國ニ對シテハ豫告ヲ必要トシ中立國ニ對シテハ開戦後可成速ニ告知スルコトヲ必要トセリ只一案ノ異ナル處ハ仏國ハ戰闘開始ノ豫告ニ期間ヲ附セザルニ反シ蘭國案ハ少ナクトモ豫告後二十四時間ヲ経ザレバ戰闘ヲ開始スルコトヲ得

コトニ決シ獨國委員ハ白耳義委員ノ質問ニ答ヘ再議ニ附ベキハ第六十五條及其以下ノ條項丈ニ止メンコトヲ述べ伊國委員ハ本案全部ノ再議ヲ希望セリ

投票ノ結果北米合衆國、ブラジル及玖吧ヲ除キ他ハ悉ク再議ニ贊成シ本案ハ再ヒ之ヲ第二委員会ニ廻送スルコトニナリタリ

正午散会

#### 附屬書類

一、「ルノー」博士報告書（アネッキス）八

二、第五回總會議議事錄

三、「ボレル」大佐ノ陸上ニ於ケル中立國權利義務ニ關スル報告書（アネッキス）九

四、陸上ニ於ケル中立國權利義務ニ關スル特別報告書（各問題ノ部ニアリ邦文）

五、「ボレル」大佐ノ中立國人民ニ對スル交戰國ノ關係ニ關スル報告書（総會議ニ提出ノ分アネッキス十）

六、交戰國領土内ニアル中立人ニ關スル規則ニ關スル特別報告（各問題ノ部ニアリ邦文）

ズトセルニアリ（仏國案蘭國案共戰闘行為開始ニ關スル特別報告中ニ其反証アリ）ト論シ露國委員「ミシェルソン」大佐ハ蘭國案ニ贊成シ大要左ノ如ク論セリ曰ク戰闘開始ニ先タチ之レガ豫告後相當ノ期間ヲ与フルハ平時兵員ト戰時兵員トノ間ニ密接ノ關係ヲ有シ從テ軍費節減ニ非常ノ利益ヲ与フルモノトス此ノ如ク戰闘開始前ニ相当ノ期間ヲ与フルトキハ戰闘ノ準備ヲナスニ相当ノ猶豫ヲ得ルヲ以テ平素ヨリ常ニ戰時兵員ヲ準備シ置クノ必要ナク平時ニ於テ大ニ軍費ヲ削減シ得ベシ又一方ニ於テ右期間内ニ於テ中立友邦ヨリ居中調停ヲ試ミ又ハ繫争問題ヲ仲裁々判ニ持出ストヲ勸告シ得ルノ便宜ナシトモ限ラズ故ニ此目的ニ對シ露國ハ二十四時間ヲ以テ適當ナリト認ムルモノニアラズ現今ノ状勢ハ此以上ニ期間ヲ長カラシムルコトヲ許サブルモノアルガ如キヲ以テ露國ハ今日ニ於テハ廿四時ヲ以テ満足スベシト

「ルノー」博士ハ更ニ語ヲ統ケテ曰ク右ノ説ハ甚タ理由ナキニアラザレドモ分科會ノ多數ハ現今軍事必要上右ノ説ヲ容レテ期間ヲ一定スルコトヲ好マザリシ然レドモ既ニ戰闘開始前ニ豫告ヲナスコトヲ規定スルノ運ビニ至リタルハ一大進歩ナリト云フベシト「玖吧」委員ハ其國憲法ニ依リ開

戰ノ布告ハ國会ノ權内ニ屬スルヲ以テ宣戰ノ方式及條件ヲ決定スルノ自由ヲ同國々会ニ与ヘザル條約ニハ加盟スルコトヲ得ズト云ヒ之ニ反シ北米合衆國委員ハ同國ニ於テハ同國々会ガ開戰布告ノ權限ヲ有スト雖トモ仏國提案ハ右北米合衆國憲法ニ違反スル處ナシト云ヘルニ対シ「ルノー」博士ハ右ハ一ノ誤解ニ基クモノナリト云ヘリ如何トナレバ右ハ畢竟戰爭決定ノ行為ト其決定後之ヲ對手国ニ通知スル行為トヲ混同スルニ基クヲ以テナリト戰爭ヲ決定スルハ國家ノ憲法ニ從ヒ國ノ首長国会力单独ニ又ハ首長国会共同シテ之ヲ為スモ其決定ノ通告ハ行政權ノ範囲ニ屬スルモノニシテ其間自カラ大差アリ仏國提案ハ戰鬪開始ノ決定ニ関スル國会ノ自由ニハ毫モ束縛ヲ加フルモノニアラズ併シナカラ戰爭ヲ決定スルニ付テハ充分ノ理由ナクシテ之ヲ為シタルコトヲ想像シ得ルヤ若シ又一旦戰爭ヲ決定シタル上ハ此決定ヲ實行スル為メ開戰ヲ布告セル政府ニ對シ宣戰ノ理由ヲ開陳スルコトヲ求ムルハ果シテ過度ノ事ナルヤ吾人甚タ惑ナキ能ハズト

次ニ「ルノー」博士ハ仏案第二條戰爭狀態ノ成立ハ遲滯ナク中立國ニ之ヲ通知スペキモノトストノ條項ニ移リ説明シヲ保セストノ理由ノ下ニ種々議論ノ末左ノ一項ヲ加ヘルコトハナリタリ

中立國ニシテ戰爭狀態ノ成立ヲ知ルコト明白ナル場合ニ於テハ該中立國ハ前項ノ通知ナキノ故ヲ以テ其責ヲ免ル、コトヲ得ス而シテ編纂委員ハ前記各提案ヲ綜合シ左ノ如キ文案ヲ作り之ヲ會議ノ採決ニ任スモノナリト結論セリ

第一條 締盟國ハ理由付開戰ノ通告又ハ條件付キ開戰ノ通告タル最後通牒ノ形式ヲ以テ豫メ且明瞭ナル通知ヲ為スニアラザレバ相互間ニ戰鬪行為ヲ開始スペカラザルコトヲ認ム

第二條 戰爭狀態ハ遲滯ナク中立國ニ通知スペク此通知ハ電信ヲ以テ為スコトヲ得右通知ハ中立國ニ於テ接受シタル後ニアラザレバ之ニ對シ効力ヲ生セズ中立國ニシテ戰爭狀態ノ成立ヲ知ルコト明白ナル場合ニ於テハ該中立國ハ前段ノ通知ナキノ故ヲ以テ其責ヲ免ル、コトヲ得ズ

#### （六）第六回總會議

一、交戰國領土内ニアル中立人ニ關スル規則  
（終結）附二希望

テ之レ中立國及ビ其人民カ戰争ノタメニ蒙ル影響又甚タ大ナルモノアルヲ以テ可成速ニ且確實ニ戰爭狀態ノ成立ヲ知ラシムル必要アリ此点ニ關シ白耳義ヨリハ右ノ通知ハ中立國力之ヲ接受シタル後四十八時間ヲ經過スルニアラザレバ其効力ヲ生ゼストノ修正案ヲ提出シタルモ委員会ニ於テ否決サレタリ其理由ハ中立國ノ義務ハ戰爭狀態ノ成立ヲ確知シタルトキヨリ生ズルモノニシテ其確知シタルノ方法ニ付テハ之ヲ問フノ必要ナシ從テ四十八時間ノ猶豫ハ何等ノ理由ナント云フニアリ

一方ニ於テ英國ハ左ノ提案ヲナシタリ

中立國ハ戰爭開始ノ通告ヲ交戰國ノ一方ヨリ受ケタルトキヨリノミ其中立維持ニ關ス処置ヲ執ルモノトス

委員会ノ分科会ハ左ノ通り立案セリ

戰爭狀態ハ遲滯ナク中立國ニ通知スペク此通知ハ電信ヲ以テ為スコトヲ得右通知ハ中立國ニ於テ接受シタル後ニアラザレバ之ニ對シ効力ヲ生セス

右ハ中立國ニ於テ既ニ他ノ方法ニ依リ戰爭狀態ノ成立ヲ確知セルニ拘ハラズ如何ナル原因ニ基クニ關セス未タ交戰國ヨリ通知ナシトノ理由ノ下ニ中立ノ義務ヲ免ル、コトナキ

#### 二、國際審檢所ニ關スル件

##### 三、第三平和會議ニ關スル件

###### 第一回萬國平和會議々事錄（第六）

一千九百七年九月二十一日午前十一時十五分

###### 第六回總會議開会

議長「ネリドフ」閣下

###### 第五回總會議々事錄承認

議長ハ伊太利王國ト亞爾然丁共和國トノ間ニ於テ平和會議ノ主義ニ則リ且平和會議々場ノ一室ニ於テ調印ヲ終リタル仲裁條約ノ新ニ締結セラレタルコトノ通知アリタルコトヲ告ゲタリ

右仲裁條約ノ通告ヲ平和會議ノ議長ニ為シタルハ目下別ニ平和會議ノ議ニ上リ居ル新仲裁々判問題ノアリタルガ為メト又該條約ガ第二平和會議ノ開会中ニ成立セシガ為メナルハ伊、並兩國委員ヨリノ通告文ニ依ルモ明カナリ此通告ニ對シ議長ハ右條約締結ノ成効ヲ祝シ該條約ノ外交上ノ価値ハ偉大ナリト述べ其規約ハ平和會議ノ主義ニ則リ即チ外交上ノ手続ト及仲裁ノ方法トニ依リ國際紛議ヲ解決セントスルニアリト称赞シ更ニ今回ノ條約ハ吾人ガ此処ニ仲裁々判ニ關シ研究審議ノ上之レガ原則ヲ定メントスル

其原則ヲ最モ広ク實際ニ應用セル一ノ標本ニシテ依テ以テ  
今後各國間ニ同様ノ條約ガ益多ク締結セラレントノ刺激  
トナラズンバアラズト説キ最後ニ今回ノ通告ニ對シ感謝ノ  
意ヲ表シタリ（大喝采）

議長ハ次ニ本日ノ第一議事日程タル第二委員会ヨリ提出ノ  
交戦国領土内ニアル中立人ニ關スル規約ノ追加報告ノ審議  
ニ移リ報告委員「ボレル」大佐説明ノ任ニ当レリ「ボレ  
ル」大佐ハ本問題ニ関シ再議ノ結果遂ニ原案ヲ短縮シテ單  
ニ四條ト為スニ止ムルノ已ムヲ得サルモノアリタルコトヲ  
述べ然レドモ之レガ為メ第二平和會議ハ此ノ重要ナル問題  
ヲ将来拠棄シタルモノナリト云フコトヲ得ズ之レ寧ロ将来  
ニ於テ此問題ノ解決ヲ容易ナラシメン為メ目下ヘ只他ノ  
便法ヲ求ムルニ力メタルニアルナリ即チ本日此處ニ提出シ  
タルニ希望中ノ一ハ正サニ其一法タルニ過キズ若シ各國政  
府ニシテ此希望ヲ善ク玩味スルトキハ今日吾人ガ此問題解  
決ニ關シ遭遇シタル困難ト障害トヲ排除スルコトハ蓋シ難  
カラザルベシ殊ニ今日ニ至ルマデ吾人ガ為シタル議論ニ就  
キ沈思熟考スルトキハ是等ノ困難ト障害トヲ排除スルニ  
付キ自カラ發明スル処アルベシ此ヲ以テ吾人ハ今日甚々狹  
隘ノ規約ヲ以テ満足セザルベカラザルモノアルニモセヨ我

右ニ對シ各國ハ一モ之レニ賛成スルモノナク國際法学者間  
ニ於テモ國際捕獲審檢所へ到底實行シ得ベカラザルモノト  
考ヘ何レニシテモ英國ハ其設立ニハ毫モ傾聽スルモノニア  
ラズ英國々際法學者亦之ヲロニスルモノスラナント云フモ  
ノアリタリ

國際法學者ガ以テ不可能ト為シタル本問題力独、英、両國  
政府ニ依テ發案セラレタルハ大ニ之ヲ多トスルニ足ル初メ  
両國ノ提案ハ其採用處ヲ異ニシ一時ハ到底融和ノ途ナキカ  
如クニ考ヘラレタルモノモアリシガ和衷共同ノ精神ハ遂ニ  
此両案ヲ融和シテ今日一ノ條約案ノ成立ヲ見ルニ至リタリ  
トテ「ルノー」氏ハ大ニ其効ヲ称シタリ

「ルノー」博士ハ更ニ語ヲ續ケテ本條約案ハ素ヨリ完全ノ  
モノニアラズ然レドモ其正義ノ上ニ一進歩ヲ与ヘタルコト  
及和平會議ノ事業トシテハ甚々誇ルニ足ルモノアリト云ヒ  
淺見者流ハ之ヲ以テ單ニ交戦争ニ關スルモノナルガ如クニ  
ズルモ其以前捕獲審檢ノ事ガ一ニ交戦国ノ任意ニ出テ愁訴  
ノ途ナキ有様ニ較ブレバ真ニ平和的事業ノ大成功ト云ハサ  
ルヘカラズ國際捕獲審檢所ハ一國ノ裁判ニ關シ又其國海軍  
士官ノ行為ニ關シ可否ヲ決スルモノナレバ其交戦国ノ面目  
ニ關係スルコト亦甚々大ナルモノアルベシ左レバ今後不幸

第一委員会ノ事業ハ何等實益ナキニ終リタリト云フコトヲ  
得ズト確信スト述ベタリ  
(前記四條項及ニ希望案ハ平和會議第五回総會議ノ參照)  
書類中交戦国領土内ニアル中立人ニ關スル規則ニ關スル  
特別報告ニ其反訳アルヲ以テ此ニ之ヲ略ス)

議事日程第一、國際捕獲審檢所設立條約案ニ移ル  
報告委員「ルノー」博士ハ其報告書中ノ一節ヲ朗誦シ以テ  
本案理由ノ大体ヲ説明セリ其大要左ノ如シ  
國際法協會ハ既ニ永キ以前ヨリ本問題ヲ研究シタリ千八百  
七十五年海牙ニ於テ同會開會ノ際同會ハ國際捕獲審檢所組  
織ニ關スル法案起草ノタメ一ノ委員会ヲ設ケ千八百八十七  
年ニ至リテ初メテ海上捕獲ニ關スル國際法規ヲ可決シ而シ  
テ該法規ハ第一審捕獲審檢所ハ各國內ノ立法ニ一任スルノ  
原則ヲ採リ第二審ニ付テハ其規定スル処下ノ如シ即チ各交  
戰国ハ開戰ノ始メニ於テ海上捕獲ニ關シ國際高等捕獲審檢  
所ヲ組織シ交戦国ハ裁判長トノ裁判官ヲ任命シ此外三  
ノ他ノ中立國ヨリ各一ノ裁判官ヲ指定ス

海戰ノアル場合ニ大ニ交戦国ノ反省ヲ促シ國際法ノ原則ヲ  
遵奉シ正義ニ適從セシムル上ニ於テ交戦国ノ注意ヲ喚起ス  
ルコト亦尠カラザルベク惹イテ國際關係ノ破裂ヲ抑制シ平  
和的國際共同生活ノ發達ニ貢獻スル處頗ル大ナルモノアル  
ベキヲ確信ス云々

蘭國委員「アッセール」氏ハ本案ニ賛成ヲ表シタリ

墨國委員「エステヴァ」氏ハ審查会ニ於テ本案ハ各國均等  
ノ原則ニ反対シテ立案セラレタルモノナルヲ以テ反対ノ旨  
ヲ述べタリ然レトモ其後原案殊ニ第十六條修正ノ結果及会  
議ノ成効ヲ祈ルコト切ナルカ為メ委員会ニハ投票ニ加ハラ  
ズシテ新ニ本國政府ノ訓令ヲ仰キタリ

今ヤ本國政府ノ訓令ニ基キ墨國委員ハ本案ニ賛成ノ投票ヲ  
為スヘシ然レドモ同委員ハ各國均等ノ主義ニ反対スル意見  
ハ飽マテ之ヲ抱持スルヲ以テ同主義ニ基キ立案セラレタル  
國際仲裁々判所設立案ニハ反対スベキコトヲ宣言スト云ヘ  
リ

羅馬尼國委員「ベルジマン」氏ハ本案ヲ賛成スルト同時ニ  
本案ト國際仲裁々判所案トハ九月十日ノ第一委員会ニ述ヘ  
タルカ如ク根本的差異アルヲ以テ後者ニハ反対スベシト宣  
言セリ

ドミニカン共和国委員ハ本案ニ同情ヲ寄スルモ本国政府ノ訓令アルマテハ其投票ヲ保留スト云ヘリ

波斯國委員「サマド、カン」氏ハ第十五條ヲ保留スル外本

案賛成ノ投票ヲナスヘキコトヲ述べ同時ニ國際仲裁々判所案ニ闕シテハ各國均等ニ裁判官ヲ出スニアラザレバ贊成セサルベキコトヲ宣言シタリ

暹國委員ハ本国政府ノ訓令未着ニ付投票ニ加ハラザルモ訓令接到ノ上ハ本案ニ加入シ得ルコトトナルベキコトヲ希望スル故投票ニ加ハラザルヲ以テ反対ノ意味ニ解セラレザランコトヲ望ムト云ヘリ

土國委員ハ本問題ハ本国政府ニ於テ研究ヲ要スルモノアルガ故ニ投票ニ加ハラザルベシト云ヘリ

ハイチ國委員ハ單ニ國際正義ノ進歩ニ貢献セントスルノ意志ノミヲ以テ本案ニ贊成ス然レドモ

一、第四條第二節國民ニ代テ國家力審査ヲ求ムト云フ事

二、第十五條國際法廷ニ於テ各國均等ノ扱ヒヲ為サマル

事  
ニ闕シテ嚴ニ保留ヲ為スコトヲ宣言セリ

「ブラジル」國委員「ルイ、バルボサ」氏ハブラジル國ニ對シ不当ノ扱ヒアルニヨリ本案ニ反対スベシト宣言セリ

第十五條ニ闕シ保留セル國ハ

智利、支那、格魯比、玖地、ユクアードール、グアテマラ、ハイチ、波斯、サルヴァドール、ユルグエー等十カ国

ハイチ國委員ハ尙第四條第一節ニ闕シ保留ヲナシタリ

議長ハ多少ノ保留ノ下ニ本案ノ可決ヲ見タルハ國際法上一大進歩ニシテ平和會議ノ名譽ト云ハザルベカラズ就テハ編纂委員諸氏ノ勞ハ云フニ及ハ斯特ニ委員長「ルノー」氏ニ深謝ノ誠意ヲ表スト云ヘリ（喝采）

英國委員「サー、エドワード、フライ」氏ハ本條約ヲ以テ別條約ト為サソコトヲ提議セリ

獨、米両國委員之ニ贊成ス

議長ハ英國委員ノ提議ヲ會議ニ計リシニ會議ハ全会一致ヲ以テ之ヲ承諾セルヲ以テ最後決議書編纂委員ニ於テ此ノ決議ニ基キ條約案ノ形成ヲ作ルベキコトヲ委托セリ

議長ハ更ニ第三議事日程第三回平和會議ニ闕スル件ニ移り大要左ノ如キ演説ヲナセリ

現會議ニ於ケル事業進捗ノ遅タルコト及懸案中現會議ニ

於テ解決ヲ見ル能ハザルモノアル現状ニ鑑ミ我同僚中今ヨ

リ第三回平和會議ノ必要ヲ感シ前以テ同會議ニ提出セラルベキ議案ノ詳細ヲ知リ且平和會議内部ノ組織ニ付テモ豫メ

報告委員ハ第一條ヨリ第五十七條マテ逐條朗読ヲ為セリ（附屬第二号「ルノー」氏報告書要訳参照）

第十五條左ノ如シ

記名國タル独乙国、亞米利加合衆国、墺太利洪牙利国、仏蘭西国、大不列顛国、伊太利国、日本国及露西亞国ヨ

リ任命シタル判事ハ常ニ職務ニ就クモノトス其他ノ國ヨリ任命シタル判事及豫備判事ハ本條約ノ附表ノ定ムル處ニ依リ輪番ニ職務ヲ執ル是等ノ判事及豫備判事ノ職務ハ引続キ同一人ニ依リ執行セラル、事ヲ得ベク又同一人ニシテ本項ノ數国ヨリ任命セラル、コトヲ得ベシ

支那、玖地、エクアードール、智利、格魯比、ユルグエー、サルヴァドール諸國ハ保留ヲ為セリ

議長ハ是等ノ保留ヲ承認セリ

議長ハ本案全体ニ付投票セシニ其結果四十四カ國ノ内

反対 ブラジル國

棄權 ドミニカン共和国、日本国、露西亞国、暹羅國、土耳其國、ヴェネズエラ國

其他ハ贊成

考案ヲ要スルモノアリト為シ種々協議ノ末左ノ如キ決議案ヲ本会ニ提出シ全会一致ヲ以テ可決セラレンコトヲ望ム処ナリ

會議ハ前會議ト本會議トヲ隔ツルト同一ノ期間内ニ於テ各國ノ一致ニ依リ定ムヘキ一定ノ時日ニ於テ第三回平和會議ノ会同ヲ見ンコトヲ各國ニ勸告シ且平和會議ニ於ケル討議ノ確実ト迅速ヲ計ル為メ可ナリ永キ以前ヨリ同會議事業ノ準備ヲ為シ置クノ必要ニ付キ各國ノ注意ヲ促スモノナリ

前記ノ目的ヲ達スル為メ本會議ハ第三回平和會議会同ニ先ツコト約二年各國政府ハ共同シテ一ノ準備委員会ヲ設ケ第三回平和會議ニ提出セラルベキ各種ノ提案ヲ蒐集シ如何ナル問題ハ将来國際規約ニ依テ一ノ規則ヲ定ムルコトヲ得ルニ足ルベキヤラ研究シ且各國が充分研究スルニ足ル丈ケノ猶豫ヲ与フルタメ可成速カニ各種問題ニ闕シ一定ノ廻章ヲ準備セシメンコトヲ切望ス同委員会ハ同時ニ又會議ノ組織及手続等ニ闕シ規定ヲ設クルコトニ任ズ

羅馬尼國委員「ベルジマン」氏ハ起テ一場ノ演説ヲ為シ平和會議ノ首唱者タル露國皇帝ノ徳ヲ頌シ第一第二平和會議ニ同皇帝ノ招請ニ基キテ会同シタリ今回ノ決議ト雖トモ

将来ニ於テ露国皇帝ノ平和會議首唱ノ徳ハ之ヲ没スヘカラザルノミナラズ其首唱者タル根底ハ之ヲ動カスコト能ハザルベシト考フト述べ終リニ露国皇帝ニ対シ満腔ノ感謝ヲ捧ケタリ（大喝采）

墺洪國委員「ド、メレー」氏モ亦露国皇帝ニ感謝ノ誠意ヲ表シ今回決議案ニ投票スルト同時ニ同委員ハ平和會議ニ対スル露国ノ首唱ハ毫モ動カスコトヲ得ザルモノト認ムト述べ第三平和會議モ亦和蘭女帝陛下ノ仁恵ニ依リ再ヒ同陛下輦轂ノ下ニ会同スルコトヲ得ンコトヲ希望スト述ベタリ（繰返シ拍手喝采ス）

獨国委員ハ墺洪國委員ノ演説ニ賛同ス

仏国委員ハ羅、墺洪、獨国委員等ト共ニ露帝ニ対スル熱心感謝ノ表彰ニ同意シ同時ニ千八百九十九年平和會議ノ議長等ヲ代表シテ謝意ヲ表シタリ（喝采）

英國委員ハ露帝ノ首唱ニ対スル感謝ト和蘭女帝ニ対スル希望ニ同意セリ

米国委員ハ露帝平和會議ノ首唱ニ対シ感謝セリ

伊国委員ハ墺洪委員ノ演説ニ賛同ス

清国委員モ亦然リ

ブラジル国委員モ亦露帝ニ対シ感謝ノ意ヲ表シタリ

西班牙国委員ハ英國委員ト同様ノ陳述ヲナセリ  
智利委員ハ羅馬尼国ト墺洪國トノ委員ノ演説ニ賛同ス  
葡國委員二回平和會議ノ首唱者タル露帝ニ感謝シタリ  
土國委員ハ墺洪國委員ノ演説ニ賛同ス

亞爾然丁共和国委員ハ露帝及和蘭女帝ニ対スル希望ニ同意ス

玖把委員ハ羅馬尼国及墺洪國委員ノ演説ニ賛成シタリ

搭魯比、サルヴァドール、バラグエー、希臘、エクワトール、波斯國等諸委員ハ皆右同様ノ宣言ヲ為シタリ

日本國委員都筑ハ露帝ニ対シ二回マテ平和會議ノ首唱者トナラレシコトニ關シ感謝ノ意ヲ表シタリ（喝采）

墨國委員ハ英國委員ト同様ノ宣言ヲナシタリ

白耳義國委員ハ平和會議ノ首唱者ニ対シ為サレタル感謝ノ表彰ニ賛同ス

遜國委員ハ羅、墺洪國ニ委員ノ演説ニ賛同ス

ユルグエー委員亦然リ

盧森堡委員亦然リ

ヴエネズエラ委員ハ英國委員ト同様ノ宣言ヲ為セリ

パナマ委員ハ墺洪國委員ノ宣言ニ賛同ス

グアテマラ委員ハ羅、墺洪二國委員ニ賛同ス

## 乙、第一委員会ニ提出ノ分

四、第一委員会ニ於ケル議事録及附屬書一切

### 同第二分科会

#### 同審査委員会報告

五、國際捕獲審檢所ニ關スル特別報告（邦文）

（附屬第一号）

交戰國領土内ニアル中立人ニ關スル規則ノ追加

報告書要訳

報告委員 ボレル大佐

大佐ハ冒頭ニ本問題ガ九月七日ノ總会ニ於テ第二委員会ニ

廻送セラレテ再議ニ附セラレタル次第ヲ簡単ニ説明シ其陳

ブル處大要左ノ如シ

九月九日再議ノ結果獨國委員ノ云ヘル如ク第六十五條第二

二項ハ第六十四條ト抵触シ依テ以テ第六十四條ハ實際上

何等ノ価値ナキモノトナルコトヲ承認シ第六十五條第二

項ハ之ヲ削除セント為シタルモ夫レニテハ某々國中現今

其國內ニ住居スル外國人ニ対シ國法上兵役ニ服スルノ義務ヲ負ハスモノアルヲ以テ是等ノ國ハ第六十四條ニ対シ

保留ヲ為スペキノ恐レアリ而シテ國際條約ニ關シテハ仮

第一号 第三平和會議招請ノ件

参考照

一、第六回總會議々事錄

二、「ボレル」大佐追加報告  
三、「ルノー」博士報告書

甲、總会ニ提出ノ分

令少數ナリト雖トモ可成締約国ノ反対ノ生ズルカ如キ條項ノ挿入ヲ避クルヲ要ス

此ニ於テ白耳義委員ハ左ノ如キ調停案ヲ提出シタリ

前項ノ規定ハ交戦国一方ノ版圖内ニ住居スル外国人ニ

シテ其本国ノ兵役義務ニ服セザルモノニ対シ該交戦國

ノ法規ニ遵ヒ其軍隊ニ屬セシムルモノニ付テモ亦之ヲ

適用セズ

右提案ハ討議ノ末否決セラレタリ其理由ハ右條項ハ独リ適用上種々ノ困難アルベキノミナラズ第六十五條第二項

ニ闊スル異議ヲ排除スルニ足ラズト云フニアリ

此ニ於テ最早本條ニ闊スル全ク反対ノ両主義ヲ融和セシ

ムルノ途ナキニ至リタリ此ニ於テカ吾人ハ此点ニ付テハ将来ニ其解決ヲ待チ只目下ノ現状ニ適合セル一ノ希望ヲ

表彰スルト同時ニ右抵触ノ原因タル第六十五條及第六十四條（原文第六十六條トアルハ印刷ノ過ナラン）ヲ削除スルコトニ決シタリ

既ニ多数ノ保留ニ基キ第六十四條及第六十五條ヲ削除セル以上ハ同シク六、七ノ委員ヨリ保留ヲ為セル第六十七條及第六十八條ヲ削除セサルノ理由アランヤ殊ニ右二條ハ第六十六條ニ比スレバ其重要ノ度モ甚タ輕薄ナルモノヲ略ス

第一章 総 則  
第二章 國際捕獲審檢所ノ構成  
第三章 國際捕獲審檢所ノ審檢手続  
第四章 附 則

即チ之レナリ報告書ハ之レニ次キ各條項ノ條文ヲ掲グルモ右ハ特別報告書中ニ訳出スルモノト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

## 第一章

本章ニ於テハ國際捕獲審檢所權限ト其範囲ヲ規定ス

### 第一條

原則トシテ國際捕獲審檢所ハ捕獲ガ國際ノ性質ヲ帶ブルトキニ限リ即チ敵國又ハ中立國ノ船舶及其載貨ニ關係アルトキニ限リ之ヲ審檢スルモノニシテ或場合ニ捕獲ガ交戦國ノ

臣民ニ対シ其國刑法ノ適用ヲ惹起スルコトアルトスルモ慶ハ本案ノ闊スル処ニアラズ之レ本條ノアル所以ナリ

### 第二條

委員会ニ於テハ捕獲審檢ハ總テ國際的ナラザルヘカラズトノ説モアリシカスクシテハ單ニ問題ヲ複雜ナラシムルニ止マリテ却テ何等ノ実益ヲ見ザルベシトノ立案者ノ意見ニ依リ矢張リ從前ノ通り國立審檢所ヲ認ムルコトト為セリ故ニ

アルニ於テオヤ此ニ於テカ第二章中余ス処ハ僅ニ第六十條アルノミトス此他第六十一條及至第六十三條ハ既ニ會議ノ承諾ヲ經タリ此以上最早協和ノ途ナキ今日ニ在テハ遺憾ハ素ヨリ遺憾ナリト雖トモ無益ニ他條項ノ復活ヲ求ムル為メ和衷ノ方法ヲ講スルヲ止メテ直チニ現存四條ニ對シ可決ヲ望ム外アラザルナリ

最後ニ至リ盧森堡委員ノ提議ノ主旨ニ基キ委員ニ於テ決定セル一ノ希望案ヲ諸君ノ考量ニ供セントス

（希望案ハ總會議事錄ニ譲リ此ニ之ヲ略ス）

### （附屬第二号）

#### 國際捕獲審檢所ニ闊スル報告要訳

報告委員 「ルノー」博士

報告委員ハ報告書ノ冒頭ニ本案成立ニ闊スル成行ノ概要ヲ掲（本案ニ闊スル特別報告ヲ参照スヘシ）ケ次ニ本問題ニ闊スル古來ヨリノ歴史學說等ヲ略述セリ就中本案ニ直接重要ノ闊係アル一節ハ既ニ總會議事錄中ニ記載シアルヲ以テ茲ニ之ヲ略シ直チニ各條ニ闊スル説明ノ大要ヲ摘訳スヘシ

本案ハ大別四章ヨリ成ル

## 第三條

如何ナル場合ニ國際審檢所ニ出訴シ得ルヤ

一、中立國及中立國人ノ所有權ニ關係スル場合尤モ中立國カ其國主權ノ作用ニ基キ出訴スル場合ハ第四條第一項ニ規定ス

國際審檢所ノ必要ハ主トシテ此處ニアリ  
二、敵ノ所有權ニ關係スル場合ニ於テハ或特定ノ場合ニ限ル

右ニ関スル第一ノ場合ハ中立船内ニアル敵ノ商品トス是レ巴里宣言ニアル国旗ハ商品ヲ擁護スルト云フ原則ヲ遵奉セシムルニアリ從テ其關係スル処獨リ中立船内ニアル敵ノ商品ノミナラズ實ニ中立其者ノ利害ニ及ブモノナリ

第二ノ場合ハ中立領海内ニテ敵船ノ捕獲セラレタル場合トス此場合ニハ中立國ノ權利ヲ無視セルモノナリ從テ外交上救濟ヲ求ムル手続ヲ為スヘシ若シ中立國ニ於テ此手續ヲ取ラズシテ捕獲國審檢所ノ審檢ニ任スト便トスル場合ニ於テ其審檢ニ不服ナルトキハ第四條第一項ノ規定ニ依リ國際審檢所ニ出訴スルコトヲ得ルナリ此場合ハ第四條第二号ニ依リ敵國臣民カ出訴スルコトヲ得ル場合トハ異ナレリ

第三ノ場合即チ敵國臣民カ國際審檢所ニ出訴シ得ルハ交戦

ノ權利ヲ良ク防禦シ及或場合ニ中立國ノ外務省ノ煩累ヲ避ケル為メニハ一箇人ニ出訴ヲ与フルニ若クハナシトノ議ニ決シタリ然レドモ又一方ニ於テ中立國カ自ラ進ンテ一ヶ人ノ權利ヲ防衛スルヲ可トシ又ハ反対ニ外交上等ノ理由ヨリ出訴ヲ禁スルヲ可トスペキ場合アルコトヲ忘ルヘカラズ之レ政府ニ之レガ取捨ノ權利ヲ与フル所以ナリ公益ハ時トシテ私利ヲ犠牲ニス若シ此取捨ノ權ニ関シ困難ヲ生スル事アリトスルモ之レ國內ノ事ニ屬ス國際條約ノ關スル処ニアラザルナリ

ヲ忘ルヘカラズ尤モ此点ニ付キ濫用ヲ防ク為メ第二十九條第三項ノ規定アリ

（第三）敵國臣民スラ國際審檢所ニ出訴シ得ルノ權ヲ認ム但第三條第二号ノ場合ニノミ限ルモノトス且事中立國領海内ニ關スル場合ニハ中立國ノミカ出訴スルノ權ヲ有スルモノトス

本條列記ノ主体ニ依リ出訴アリタル場合ニ其出訴ハ受理すべきモノナルヤ否ヤヲ決スルハ独リ國際審檢所ノ權内ニ属スルハ無論ノコトニシテ之ヲ此處ニ明記スルノ要ヲ見サリシ此原則ハ既ニ千八百九十九年七月二十九日國際紛争和平的處理條約第四十八條ニ於テ認メラルハ處ナリ若シ本案第二十九條第一項ニ於テ國立審檢所ニ向テ國際審檢所ニ出訴スルノ訴アリタル時國立審檢所ハ相當ノ時期ニ出訴アリタルモノナルヤ否ヤヲ調査スルノ必要ナク直チニ之ヲ國際事務局ニ移送スベキ義務ヲ有スルハ蓋シ國立審檢所ハ時トシテ其調査ヲ為シ其出訴カ期間経過後ニ為サレタルモノナルコトヲ発見スルトキハ其移送ヲ不要ト為スカ如キコトノナカラシコトヲ期シタルモノナリ之レ單ニ事實上ノ検証ニ關スル事柄ニ過キス然レトモ此規定アルカ為メ他ノ場合ニ於テ國立審檢所ハ出訴ノ當否ヲ判定スル權アルモノト結

論スルヲ得サルナリ故ニ如何ナル場合ニ於テモ国立審檢所ニ向テ國際審檢所ニ出訴ノ訴アリタルトキハ直チニ其書類ヲ國際審檢所ニ移送スヘキモノトス此ノ解釈ハ九月十日ノ第一委員会ニ於テ「アッセール」氏ノ求メニ応シ報告委員力与ヘタル説明ニシテ當時一人ノ之ニ対シテ異議ヲ挾ムモノナカリシカバ右ニ関シ一條項ヲ附加スルノ必要ヲ見ザリシナリ

#### 第五條

船舶ノ捕獲ニ依リ権利ヲ侵害セラル、モノハ独リ其所有者ニ限ラズ其船舶及載貨ノ譲受人保険者其他ノ利害關係者ハ所有者ニ讓ラザル利害ヲ有ス故ニ是等ノ利害關係人ニモ国際審檢所ニ出訴スルノ権利ヲ認メタリ然レドモ是等ノ利害關係人ガ其出訴ノ權ヲ行ヒ得ルハ國立審檢所ノ訴訟ニ参加シタルモノナラザルベカラズ故ニ若シ國ノ法律ニ依リ國立審檢所ノ訴訟ニ参加スルコトヲ許サレサル場合ニハ是等ノ利害關係人ハ國立審檢所ニ出訴スルコトヲ得サルモノトス國立審檢所ノ訴訟ニ参加セスシテ而カモ國際審檢所ニ出訴シ得ルモノハ独リ中立國ノミトス

利害關係人カ國際審檢所ニ出訴シ得ルハ真ノ権利者ト同シ條件ノ下ニ之ヲ為スモノトス例ヘバ該利害關係者ハ其所属之ニ依リ可成事件ノ國立審檢所ニ繫屬スル期間ヲ短縮スルコトヲ得ルトスルモ未タ之ヲ以テ充分トセス此ニ於テカ第ニ項ノ規定アリ國際審檢所ハ國立審檢所ノ検定ニ對シ審檢スルモノナリト雖トモ若シ國立審檢所ニシテ何時マテモ検定ヲ与ヘサルトキハ二年ヲ限テ其検定ヲ待タス自ラ該事件ヲ審檢スルコトヲ得ト定メタリ之レニ依テ概ニ事件ノ進捗ヲ無限ニ遅延スルコトヲ得サラシムルモノトス二年ノ期間ハ種々ノ事情ヲ參酌シテ之ヲ定メタルモノナリ

#### 第七條

國際審檢所ニ如何ナル法規ヲ適用スヘキカハ最モ重要ノ問題ナリトス海戰ニ關スル一般法規アレバ審檢所ノ為スヘキハ單ニ其解釋適用ニ過キサルベキヲ以テ甚ク簡易ナルモノ下海戰ニ關スル一般法規ナク各國ハ各其意思ニ從ヒ其利益ニ鑑ミ各箇ニ行動スルヲ以テ勢此点ニ關シテハ不定ノ域ニアルコトヲ免レズ各國間若クハ數國間ニ條約アル場合ハ尙ホ可ナリ何等ノ條約ナキ場合ニハ一般ニ認メラレタル習慣法ニ依ラザルベカラズ然レドモ若シ不文若クハ成文ノ習

慣法アラザルトキハ之ヲ如何ニスベキヤ法理ニ基キテ決定スル外アラサルナリ然レトモ成立法アラザルトキハ各交戦國ハ各其好ム処ニ從ヒ法規ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ其法規ハ未存ノ法ニ反対スルモノナリト云フコトヲ得サルベシ國立審檢所ハ其國ノ國法ヲ適用スルモノナリ而シテ其法ガ國際法ノ原則ニ背反セザルトキハ國際審檢所ハ何ヲ以テ此適用ヲ覆ヘスコトヲ得ベキヤ結局國際法規ナキ間ハ國際審檢所ハ捕獲國ノ法律ヲ適用スル外アラサルナリト云フニ帰ス

反対者ハ容易ニ隨意ニ定メラレタル捕獲國ノ法律ヲ適用スルハ危險ナリト云フヲ得ベキモ之レ畢竟是等ノ危險ヲ消失セシムルタメ國際法規ノ確立ヲ急グベシト云フノ理由タルニ過ギサルナリ

然レドモ熟考ノ結果吾人ノ此處ニ提議セントスル所ハ左ノ如シ

若シ一般ニ承認セラレタル規則ナキトキハ正義及公道ノ一般原則ニ遵フ

之ニ依リ國際審檢所ハ一定ノ法規ヲ作ルコトヲ委ネラル、モノニシテ同時ニ同審檢所ハ國立審檢所ノ適用スル國法ノ基ク原則ヲモ參酌スルモノトス

各国ノ選出シタル裁判官ハ其任ニ堪能ニシテ其職ヲ執ルニ  
当テハ中庸ヲ得而カモ其意思ハ強硬ノ士ナルベキヲ確信ス  
故ニ其實際ニ臨ンデ良ク正義ニ則リ其適理ノ判定ハ交戦者  
ト国内ノ裁判官トヲ畏敬セシメテ大ニ反省セシムルニ足ル  
モノアルベシ且一旦國際審檢所ノ与ヘタル検定ハ同條件ノ  
下ニ捕獲サレタル中立船舶ニ対シテハ常ニ同一ナルベシ畢  
竟新法廷ノ位地ハ主トシテ習慣法ニ則リ立法ノ未タ幼穢  
ナル國ノ裁判所ニ酷似スルモノアリ此裁判所ハ法律ヲ適用

スルト同時ニ之ヲ作り又漸次其裁判例ヲ生シ其裁判例ハ後  
ニ至リ法ノ最モ大切ナルノ部分ヲ為スニ至レルカ如シ要ハ  
最モ信任アル法官ヲ選定スルニアリ國際法規ノ制定ヲ待ツ  
ハ百年黃河ノ澄ムヲ待ツノ観アルベシ故ニ吾人ハ良法官ヲ  
得テ漸次成文法ノ不備ヲ補ハシムルヲ以テ満足スベキノミ  
立証ノ方法ニ付テモ各國ハ寧ロ任意ニ之ヲ定メ不確定ノ状  
態ニアリ道理上捕獲ノ當否ヲ証明スルハ捕獲者ニアルベシ  
例ヘハ中立違反ノ行為アリト非難サレタル船舶ニ対シ中立  
船舶ニ対シテ此ノ如キ推定ハ為シ難キ処ナリ而カモ捕獲ノ  
無効ハ中立船舶ノ持主ヨリ為サレザルベカラズ其捕獲ノ  
不正モ亦同様持主ヨリ之ヲ立証セザルヘカラズ而シテ事實

不明ノ場合ニハ遂ニ捕獲者ノ勝訴ニ帰ス之レ公平ヲ欠クヲ  
以テ國際法廷ニハ此ノ如キ方法ハ之ヲ採ラサルナリ  
同理由ニ基キ船籍、所有權、繫船地其他出訴期間等ノ如キ  
捕獲国ノ任意ニ出ツヘキ事項ハ總テ國際審檢所ノ自由ノ心  
証ニ任ス

捕獲国ノ法律ヲ適用スル場合ハ國際審檢所ニ捕獲国カ其國  
法ニ背反シタル行為アリトノ理由ヲ以テ出訴シタル場合ノ  
ミトス（第三條第二号ノハノ末段）

## 第八條

國際審檢所ノ下シ能フ審定ハ之ヲ三種ニ分ツコトヲ得  
國立審檢所ノ檢定ヲ確認セザルトキハ何等ノ異議ナシ國立  
審檢所ノ檢定ヲ否認セルトキハ捕獲物ノ返附賠償ノ問題等  
起ルベシ賠償ノ額ハ事情ニ依リ異ナラザルベカラズ國際審  
檢所ハ種々ノ事情ヲ綜合シテ其額ヲ定ム

同上檢定書中ニ船舶ノ捕獲ヲ確認シ載貨ノ拿捕ヲ否認スル  
コトヲ得  
國立審檢所ガ捕獲ヲ否認シタルトキハ國際審檢所ハ單ニ損  
害賠償額ヲ定ムル外能ハス何トナレバ此場合國際審檢所ニ  
出訴シタルハ損害賠償ノ請求ヲ全部若クハ一部ヲ容レザリ  
シニ基クベケレバナリ

捕獲者ガ敗訴ニ帰シタルトキハ勿論國際審檢所ニ出訴スル  
ノ權利ナキコトハ明白ノコトナリトス

## 第九條

本條ハ素ヨリ自明ノコトニシテ千八百九十九年七月二十九  
日ノ國際紛争平和的處理條約ノ条文ヲ模倣シタルニ過ギサ  
ルナリ

## 第二章

### 第十條

國際審檢所ハ判事及豫備判事ヨリ成ル豫備判事ハ實際上判  
事ノ職ヲ執リ判事ト同等ノ扱ヲ受ク

各國ノ撰定スペキ法官ノ範囲ヲ定ムルコト能ハズ仍テ千八  
百九十九年ノ國際紛争平和的處理條約第二十三條第一項ノ  
主義ニ基キ一般的方法ヲ採用セリ

判事撰定ハ之ヲ無限ニ猶豫スペカラズ第五十二條ハ其猶豫  
期間ノ起点ヲ規定ス然レドモ本條約批准後六ヶ月ニシテ本  
條約ガ効力ヲ生スペキ規定トハ少シク矛盾ノ嫌アリ然レド

モ是レ畢竟本條約カ實際効力ヲ有スルニ至ルヘキタメ必要  
止ムヲ得サル措置ナリトス

## 第十一條

六年期間ハ判事就職ニ対スル保証ナリトス尤モ判事ハ再選  
セラルルコトヲ得（以下之ヲ略ス）

## 第十二條

豫備判事ハ其職務ヲ行フニ付テハ正式判事ニ遵スルモ席次  
ハ正式判事ノ後ニ來ルベキハ勿論ナリトス（其他ハ之ヲ略  
ス）

## 第十三條

國ニ依リ社會上及宗教上事情ヲ異ニスルモノアリ之レ本條  
第二項末段ニ於テ其不都合ナカラシコトヲ期スル所以ナリ  
(其他ハ之ヲ略ス)

## 第十四條

國際審檢所ハ一ノ法廷ニシテ法官ノ会合トハ異ナレリ仍テ  
判事ノ數ヲ十五ニ限定スルヲ適當ト認メタリ然レドモ常ニ  
十五人ノ判事及豫備判事ノ出席ヲ要スルハ少シク過度ノ嫌  
アルヲ以テ開廷ニハ少クモ九名ノ出席ヲ必要トスト定メタ  
リ

## 第十五條

判事ノ數ハ十五ニシテ關係國ノ數ハ四十六ナリ此ニ於テカ  
大困難ヲ生シタリ  
然レトモ判事選出ニ關シ特權ヲ得ルコト大ナル國ハ之ヲ得

ルコト少ナル国ヨリモ一ノ國際裁判所ヲ設立スルニ付一層大ナル犠牲ヲ供スルコトヲ考へサルヘカラズ前者ハ即チ通常交戦國ノ位置ニ立チ國際法廷ニ於テ其國法廷ノ判決ヲ審議シ其國海軍士官ノ行為ヲ是非セラル、モノナリ一方ニ於テハ小國ナル中立國ハ國際法廷ノ公平ナル裁定ニ信任スルトキハ其蒙ルヘキ庇蔭亦少小ナラサルヘキハ毫モ疑ナキ処ナリ何トナレバ各裁判官ハ如何ナル政治上ノ影響ヲモ蒙ルコトナク専心正義ノ実行ニ力ヲ尽スヲ得ベケレバナリ

小國ト雖トモ戰爭ヲ為スコトアルベシトノ説ニ對シテハ此場合ニハ其権利ヲ防衛シ他大国ト同等ノ利益ヲ受クヘキ規定アリ第十六條即チ之レナリ

右ノ理由ニ基キ此ニ提案スルモノハ各国ハ悉ク國際審檢所ニ判事ヲ選出ス只其方法ヲ異ニセリ其内八国ハ海軍力ニ於テ其商船ノ頓数ニ於テ其海上ノ貿易ニ於テ最モ大ナル勢力ヲ有ス從テ是等ノ原因ヲ綜合シテ國際捕獲審檢所ニ闕シテハ右八ヶ国ハ其中立者タルト交戦者タルトヲ間ハズ深厚ナル特種關係ヲ有ス仍テ該八ヶ国ヨリ選出セラレタル裁判官ハ常ニ出廷スルモノトス尤モ右八ヶ国間ニテモ海軍力ト海商トニ付テハ非常ノ差異アルハ此ニ之ヲ詳言スルノ必要ナシ

#### 第十六條

其他ノ国ニ在テハ本條約附表ノ順序ニ依テ輪番ニ判事及豫備判事ヲ任命ス某々国ハ最初三年間判事ヲ出シ某々国ハ最後二年間トス其差異ハ種々ノ事情ヲ綜合シテ算出シタルモノナレドモ素ヨリ其不均等ニ関シテハ異論ヲ免レサルノミナラス既ニ大異論アルコトヲ耳ニセリ然レトモ八国外ノ等級ニアル諸國カ相互間ニ不均等ノ區別アリテ不満ヲ称フルハ驚クニ堪ヘタリ同様ノ扱フ受クル八国内ニ於テモ其勢力ニ付キ自カラ非常ノ差異アルハ前述ノ如クナルニアラズヤ

一国ニシテ前三年ニ正式判事ヲ出シ後三年ニ豫備判事ヲ出スモノハ前後共同一人ヲシテ之ニ当ツルコトヲ得ルハ少シク不思議ナルガ如クナルモ前後其職務カ全然判別サレ居ルヲ以テ同一人ヲ以テ之ニ当ラシメ得ルコトハ自ラ然ルコトナリトス

千八百九十九年七月二十九日ノ國際紛争平和的處理條約ニ

依テ創設セラレタル常設仲裁々判所ノ判事モ現ニ外国人ヲ

以テ之ニ當ツル國アリ左レバ各國ガ共同シテ常ニ同一人ヲ

選出シテ判事ノ職ニ就カシムルモ敢テ怪ムニ足ラザルナリ

(前略) 抽籤ニ依リ一時其職ヲ交戦國ノ判事ニ譲ル判事ヲ輪番ニ判事ヲ出ス諸國中ヨリ定ムルコトニ付諾威ノ第一委員ハ反対シテ寧ロ常ニ一名ノ判事ヲ出ス國ノ判事中ヨリ抽籤ニ依リ定ムベシトノ議案ヲ提出スル筈ナリシカ和衷ノ精神上此提議ヲ為スコトヲ止メ寧ロ第十六條全廢説ヲ唱ヘタリ

然レドモ兩交戦國共ニ其判事ヲ出席セシメ居ラザル時ト雖トモ本條ノ適用ヲ見ルコトハ無論ノコトトス

上記ノ説明ニ依リテ明カナル如ク一方ノ交戦國ヨリ既ニ選出サレ居ル判事ノ列席ヲ拒ムコトハ人ノ欲セザル處ナリトス此原則ハ第十六條ノ條文ヨリ暗黙ニ且明瞭ニ之ヲ認ムルコトヲ得通常仲裁々判ノ場合ニ出席スル判事ハ寧ロ其國ヲ代表シテ其國ノ所見ヲ善ク裁判所ニ了知セシムルノ任ニ当リ而シテ其ノ判定ハ上級仲裁々判官ノ一意ニ依テ定マルヲ以テ遺憾ナキコト能ハズ然レドモ本案ニ至テハ少クモ九名ノ裁判官列席ノ上判定スルモノナレバ一判事ノ意見ハ余り重キヲ為サ、ルベシ且判事ハ或特定ノ事件ノ為メ選定セラル、ニアラズシテ或年期間選定セラル、ヲ以テ一国ノ代言ノ役ヲ為スモノトハ其見ル處モ大ニ異ナルベキモノアルベク鬼ニ角其判断上他ノ制肘ヲ受クルコト少ナルヘシ

事件ノ性質上専門家ノ説ヲ参照スルコト屢必要ナルベシ殊ニ捕獲ヲ行ヒタル艦長ノ説明ハ最モ必要ナルベシ左レバ原提案中ニハ判事ハ五名トシ其内二名ハ海軍將官ヲ以テ之ニ

#### 第十八條



係争物ハ船舶載貨又ハ國立審檢所ノ与ヘタル賠償額ト出訴ニ依リ請求シタル額トノ差額等ヲ云フ  
一私人ニ対シ負担費用ノ支払ヲ確定ニスルタメ保證金ノ制ヲ取レリ国ニ対シテハ此制ヲ採ラズ第九條ノ約束ニ依リ充分ナリトス

#### 第四十七條

一般経費ノ割当方ハ如何ニスペキカ聯合郵便條約ノ例ニ依ラントノ説モアリシカ寧ロ出席判事ノ選出ヲ標準トスル方最モ適當ナリト決セラレタリ毎年一ノ判事ヲ出ス國ハ全経費ノ十五分ノ一ヲ負担シ二年間ノミ判事ヲ出ス國ハ毎年判事選出国ノ負担額ノ三分ノ一トス豫備判事ハ負担額ノ數ニ入ラズ尤モ敗訴者ノ納入スペキ金額ハ大ニ前記諸國ノ負担額ヲ減ズベシ(第四十六條第二項)

評議会ハ会計ノ任ニ当ル

#### 第四十八條

委員会ハ各当事者ノ弁明書抗弁書等ノ交換期間保證金額ヲ定ムル等其他種々準備手続ヲナス

#### 第四十九條

茲ニ内部ノ規則ニ依リ定ムヘキ二三ノ例ヲ擧クレバ例ヘバ

許容セリ然レドモ之レ中立國ニ関スル規定トス若シ夫レ一箇人ニ付テハ仮令ヒ交戦者ノ一方ノミカ締盟國ナルニ拘ハラズ本條約ノ適用ヲ見ルコトヲ得ル場合ニ於テハ中立國人ハ勿論敵國臣民ト雖トモ條約ニ依リ出訴ヲ許サレ居ル場合ニハ出訴シ得ルモノトス

尙ホ少シノ説明ヲ要スルハ利害干係人ノ場合トス(第五條)

原則トシテ利害干係人ハ其干係ヲ有スル権利ノ主体若クハ己レ自身カ権利ノ主体タルヨリモ多クノ利益ヲ享有スルコト能ハズ其結果左ノ如シ

一、捕獲物件ノ所有者カ締盟國ニアラザル國ノ臣民ナリ

シトキハ利害干係人ハ例令中立國人ナリト雖トモ出訴ノ權ナシ

二、所有者カ締盟國ノ臣民ナリトスルモ利害干係人カ締約國ナラサル國ノ臣民ナルトキハ出訴ノ權ナシ

故ニ國際審檢所ニ出訴シ得ルニハ所有権者及利害干係人共ニ締盟國ノ臣民タラサルヘカラズ

#### 第五十二條

各國カ相當期間ニ批准ヲ与ヘザルトキハ本條約ハ有効ニ成立ヲ見ルニ至ラサルヲ以テ其批准ノ期限ヲ定メ之ヲ千九百九年六月三十日ト定メタリ此期日ニ至リ如何ナル國ハ批准

#### 第九章 議事録(六) 四〇六

裁判長ト副裁判長ノ選挙委員会委員ノ選挙等ノ如シ國際審檢所カ開廷セサルトキニ是等ノ選挙ヲ行フ為メニ裁判官ノ集合ヲ要セズ蓋シ通信ニ依リテ之ヲ行フヲ得ベケレバナリ選挙ノ方法ニ付テモ規則ノアルベク各裁判官ニ就キ各其分担ノ任務ヲ定ムル必要モアルベシ且又準備書面ノ提出後口頭弁論ニ移ル前ニ一ノ報告書調製ノ必要モアルベシ等ノ如シ

第五十條(説明訳出省略)

#### 第四章

第五十一條

本條約カ有効ニ成立スペキ時期如何ノ問題ニ付本條約ニ依リ主シテ利益ヲ蒙ルベキハ中立國ナルカ故ニ交戦國ノ一方ト干係中立國トカ締約國ナル上ハ直チニ効力ヲ有スルモノト為スヲ可トスルカ如キモ此クシテハ締約國ナラザル交戦國ハ他ノ一方ヨリ多クノ利益ヲ享有スベキニ付キ却テ不可ナリ故ニ本條約カ全ク有効トナルハ両交戦國共締盟國タラザルベカラザルコトヲ條件トス交戦國ノ一方カ未タ本條約ニ加盟セザルモ他一方ノ締約交戦國カ任意ニ本條約ノ適用ヲ諾スルトキハ何等ノ異議ナキ処ナリ

締約中立國及其人民ノミカ國際審檢所ニ出訴シ得ルコトヲ

#### 第五十三條

前條第二項ニ規定スル如ク批准保管カ未タ終了セザル前ニハ各國共本條約ニ調印スルコトヲ得而シテ其時日ハ最初調印ノ日ニ遡ル

批准保管終了後ハ各國ハ加盟國トナル既ニ調印國タリト雖トモ同期限マテニ批准ヲ終フサルトキハ同シク加盟國ノ列ニ加ハル加盟許可ノ権限書ハ全権委任状ニ代ハルベシ

尤モ加盟ハ何時ニテモ之ヲ為スコトヲ得和蘭外務大臣ハ第一ノ加盟アリタルトキヨリ一ノ調書ヲ作リ爾後加盟アリタル度毎ニ之ヲ其調書ニ記入ス加盟ハ既締約國ト加盟國トノ間ニ條約ヲ締結スルコトヲ意味ス從テ全権委任状ノ必要アリ然レトモ茲ニハ加盟ヲ以テ直チニ全権委任状アリタルモノト推定ス

加盟ニハ批准ヲ要セス

加盟ハ既ニ締約国ニ通告スル必要アリ其他ノ国ニ対シテハ之レニ加盟ノ例ヲ示スタメ通告ヲ便トス

#### 第五十四條

條約ノ効力ヲ生ズルハ批准保管ノアリタル日ヨリ六ヶ月トス

#### 第五十二條第一項第二項

第十條ニ此期間内ニ判事任命ノ事ヲ規定セリ條約カ効力ヲ生ズル前ニ既ニ其实行ヲ見ル次第ナリ

批准保管後六ヶ月間ニ為サレタル国立捕獲審檢所ノ検定ニ對シ出訴シ得ルヤ嚴重ニ之ヲ云ヘハ出訴シ能ハサルナリ蓋シ當時未タ國際審檢所ナルモノアラザレバナリ然レトモ實際ニ於テ出訴シ得ルト為シタルモノハ利害干係者ヲシテ新制度ノ利益ヲ享有セシムルヲ可ト認メタルニ依ル從テ必要上出訴期限ヲ検定書ノ日附ヨリトスルモ條約ノ有効期限ヨリ起算スト為シタリ

加盟国ニ對シテハ加盟ノ時ヨリ條約ノ効力ヲ有スルヲ以テ原則トス然レトモ實際上ハ各國ガ之ヲ承知シタルトキヨリ始マルヲ可トス仍テ六十日ヲ以テ期限トセリ此規定ハ條約ノ効力ヲ生シタル後ニ為サレタル加盟ニ付テモ容易ニ適用セラル批准保管ヨリ條約ノ効力ヲ生ズルマテノ間ニ為サ

事ヨリ抜撰シテ毎席列席スベキ正式判事ノ數ト可成同一數ニ達セシムル為メ其員ニ列シ以テ正式判事ノ職ヲ執ラシムベシ

斯ノ如クニシテ定メラレタル判事分配表ハ之ヲ各國ニ配布スヘシ若シ新加盟又ハ新廢棄アリタルトキハ從テ右分配表ハ変更セラルベシ

新加盟ノ場合ニハ之ニ依テ生シタル分配表変更ノ効力ハ加盟ノ効力ヲ生スペキ年ニ次ク一月一日ヨリ効力ヲ生ス但同加盟国カ交戦國ノ一タルトキハ此限リニアラズ(第十六條)若シ正式判事ノ數カ十一名ニ充タザルトキハ開廷ニ必要ナル判事ノ數ハ九名ノ代ハリニ七名ト定ム(第十四條第一項)

#### 第五十七條

判事及豫備判事ノ分配表ハ一定不動ノモノニアラズ國ノ状況ニ依リ指定スヘキ判事ノ數ニ変更ヲ來タスコトアルベシ

此場合ヲ豫見シテ本條ヲ設ケタリ

#### (七) 第七回総会議

一、商船ヲ軍艦ニ変更スル件

二、海上ニ於ケル敵国人ノ私有財産ニ關スル件

レタル加盟ニ付テハ加盟ハ條約カ効力ヲ生シタルトキヨリ

其効力ヲ生スルハ無論ノコトタリ批准保管カ千九百九年六月三十日ニ為サレタルトキニハ條約ノ効力ハ千九百十年一月一日ヨリ効力ヲ生ズベシ加盟カ其年九月(原文ニハ千九百十年トアルモ千九百九年ノ誤リナルベシ)ニ為サル、

モ其効力ハ同シク一月一日ヨリ生ズルモノトス

#### 第五十五條(説明訳出省略)

#### 第五十六條

各国悉ク本條約ニ加入セストモ例へハ六年間十一又ハ十二ノ正式裁判官及同数ノ豫備判事ヲ任命シ得ル丈ケノ国數アレバ條約カ有効ニ成立スルコトハ無論ノコトトス然レドモ第一年ニ十三ノ正式判事アリ第二年ニ十人第三年ニ九人第四年ニ十二人ト為ル場合ニハ可成同数ノ正式判事ヲ出スベキ方法ヲ採ルヲ可トス例ヘバ毎年十一名トスルカ如シ此場合ニハ正式裁判官多数ノ年ヨリ其一二人ヲ少數ノ年ニ移転セシムルヲ以テ足レリトス輪番ニ正式判事ヲ出ス国ニ對シ一二判事カ他判事ヨリ一年前ニ就職シタリトテ何ンカアラン評議会其判事ノ分配ヲ掌トル若シ兩判事中先後ヲ決スル能ハサルトキハ抽籤ニ依テ之ヲ決ス若シ正式判事ヨリ豫備判事多數ノ場合ニハ正式判事ヲ出サマル國ノ豫備判

三、開戦當時ニ於ケル敵商船ノ取扱ニ關スル規定(恩恵期間)ニ關スル件

#### 四、戰時禁制品ニ關スル件

#### 五、封鎖ニ關スル件

#### 六、中立捕獲船ノ破壊ニ關スル件

#### 七、陸戦ニ關スル諸規定ヲ海戦ニ應用スルコトニ關スル件

#### 八、戦時海上ニ於ケル郵便信書ニ關スル件

#### 九、拿捕敵船ノ乗組員ニ關スル件

#### 十、漁船及其他或種ノ船舶捕獲免除ニ關スル件

#### 第二回萬國平和會議々事録(第七)

一千九百七年九月二十七日午後三時第七回総会議開

議長「ネリドフ」閣下

#### 第六回総会議々事録承認

和蘭國第一委員「ボーフォール」氏ハ前回第三回平和會議ニ關シ和蘭女帝陛下ニ對シ表彰セラレタル平和會議ノ希望ニ對シ同陛下ハ喜ンテ其希望ニ応スヘキノ勅答アリタルコトヲ述ベタリ

ル十議題ノ採決ニアルコトヲ述べ更ニ第四委員会ノ事業へ他委員ノ夫レヨリモ複雜ニシテ殊ニ困難ヲ感セシハ各問題共總テ海戦ニ於ケル交戦國ト中立國トノ関係ヲ規定セントスルモノナリシヲ以テナリ而カモ是等ノ問題ハ今回初メテ會議ノ議ニ上リシモノ、ミニシテ未タ之ニ闕シ何等ノ協約アルニアラズ而シテ同ジ問題ニ付テモ海國ト大陸國トハ全ク見解ヲ異ニシテ困難ニ困難ヲ重ネ初メ各國間ニ一致ヲ見ルベキハ到底不可能ナルベキヤノ観アリシガ第四委員会議長「ド、マルテンス」氏ノ経験ト忍耐ト加フルニ其同僚諸氏ノ熟練ト熱心トヲ以テシテ遂ニ今日諸君ノ前ニ其結果ヲ齎ラスニ至リタリ問題中ニハ遂ニ各國ノ一致ヲ見ルニ至ラザリシモノ少ナカラサルモ其一致ヲ見ルニ至リタルモノニ付之ヲ考フルトキハ第四委員会ノ効果ハ即チ平和會議ニ一ノ光榮ヲ添ヘタルモノト云ハザルベカラズ人或ハ曰ク吾人ノ議シタル問題ハ戦争ニ闘スルモノ多クシテ平和ノ為メニ力メタルモノニアラズト然レドモ吾人ノ為シタル事業ハ平時ニ於ケルト同シク戦時ニ於テモ正義ト正理トヲ基トシテ各國間ニ協議ヲ整ヘ戦争ノ慘禍ヲ可成減少セシムルコトニ力メタルニアルヲ以テ平和會議ニ与ヘタル効果少ナカラズトセスト論シ最後ニ第四委員會議長「ド、マルテンス」

氏ト報告委員「フロマジヨー」氏ト及委員諸氏ノ功勞ヲ謝シタリ（喝采）此ニ於テ報告委員「フルマジヨー」氏ハ大要左ノ如キ演説ヲナシタリ  
第四委員会ノ審査事項ハ左ノ十種ノ問題ニ亘レリ  
一、商船ヲ軍艦ニ変更スルコト  
二、海上ニ於ケル敵国人ノ私有財産  
三、恩恵期間  
四、戦時禁制品

## 五、封鎖

## 六、中立捕獲船ノ破壊

## 七、陸戦ニ闘スル諸規則ヲ海戦ニ應用スルコト

## 八、戦時海上ニ於ケル郵便信書

## 九、拿捕敵船ノ乗組員

## 十、漁船及其他或種ノ船舶捕獲免除

以上各問題共相互密接ノ關係ヲ有スルコト及第四委員会事業ノ統一ヲ計ル為メ第四委員会ハ之ヲ分科会ニ分タス委員會議長「ド、マルテンス」氏ハ一ノ議問案ヲ作リテ第四委員会ノ審査ニ附シ此案ヲ基トシテ委員会ハ各般ノ問題ヲ討議シタリ討議終リタル後チ審査会ヲ設ケテ各問題ニ闘スル規約案ヲ起草セシメ一ノ特別審査会ヲ設ケ特ニ戦時禁制品及

之レニ關係アル戦時海上ニ於ケル郵便信書ノ件ヲ審議セシメタリ

委員会ニ提出サレタル提案、修正案、宣言書等ノ數ハ五六十ノ多數ニ上リ是等ヲ審議スルタメ審査会及特別審査会ハ

三十二回以上開会シタリ其結果ハ第四委員会ノ報告トシテ茲ニ現ハル、ニ至リ其内五ノ規約案ハ全会一致ヲ以テ通過シタルモノナリ此五ケノ規約ハ善ク中立貿易ヲ保障シ條約ノ権義ノ下ニ海戦行動ニ闘スル規律ヲ設ケタリ

右ノ事業ハ千八百五十六年巴里宣言以来未タ曾テアラザリ

シ事ニ屬シ委員会開会ノ初メ議長「ド・マルテンス」氏ハ如何ニ吾人ノ為サントスル事業ガ重要ノモノナルカヲ説明シタリ吾人尽力ノ結果空シカラズシテ今ヤ其効果ヲ此處ニ見ルニ至リタリ尤モ其効果ハ素ヨリ完全ト云フコトヲ得ズ然レドモ之レガ真価ニ就テハ之ヲ無視スルコト能ハザルモノアリ何トナレバ之ニ依リ古来各国々ニ実践シ來リタル行動ヲ今日初メテ各文明國ノ自由ノ討議ニ上ボシ今日初メテ斯ノ如キ複雜ナル問題ニ闘シ之ヲ決スルニ任意ニ且武力ヲ以テスル代ハリ基ヲ正義ト正理トニ取ラントスル希望カ一般ニ且誠意ニ表彰セラレタレバナリ

若シ議題ノ内解決ヲ見ルニ至ラザリシモノアリトスルモ其

解決ニ闘シ各國間和衷ノ精神アルコトハ之ヲ忘ルヘカラズ今ヤ一般囁望ニ副ユル第一着歩ヲ終ヘタリ正理公道ノ觀念ト和衷讓歩ノ精神トハ将来ニ於ケル最善ノ保障ナリト云ハザルヲ得ズ（喝采）

次ニ西班牙國委員ハ西國政府ハ今後千八百五十七年ノ巴里宣言ニ全然賛同シ私船廢止ヲ承認スルモノナリト宣言シタリ墨国委員ハ亦右ト同一ノ宣言ヲ為シ且墨国政府ハ既ニ巴里宣言中終リノ三條ニ賛同シ今ヤ第一條即チ私船廢止ニモ賛同スルモノナリト云ヘリ

議長ハ會議ハ西國並ニ墨国委員ノ宣言ヲ承認スル旨ヲ述ブ且會議ハ両國カ巴里宣言ニ賛同シ斯クシテ會議ノ決議ニモ賛成スルコトニ至リタルコトニ付キ満足ヲ表スト云ヘリ報告委員「フロマジヨー」氏商船ヲ軍艦ニ変更スルコトニ闘スル條約案ヲ朗読ス

米国委員「ボルター」將軍ハ本條約案ニ対スル投票ヲ棄權スヘシト云ヘリ其理由ハ九月十八日第四委員会ニ於テ為シタル宣言ニ基ク

議長ハ會議ハ右宣言ヲ承認スト云ヘリ  
全條約案ニ付キ採決ス

内アブスタンシヨン十ヶ国、北米合衆国、格魯比、エク  
シード、アトール、グアテマラ、サルヴァドール、ユルグエ  
ン、ベネズエラ、清國及ドミニカン共和国（此二国  
ハ未タ巴里宣言ニ加入セズ）土耳其（未タ政府ノ訓令  
ナシ）投票ニ加ハラサルモノニヶ国ニカラグワ、パラ  
グエー、

條約案八十票ノアブスタンシヨント三十二票ノ賛成ニ依リ  
可決セラル

次ニ報告委員「フロマジヨー」氏ハ開戦ノ当初ニ於ケル敵  
商船ノ取扱ニ関スル規定案（恩恵期間）第一條乃至第三條  
ヲ朗読ス

独国委員「マルシヤル」男ハ第三條及第四條第二項ニ關シ  
保留ヲナセリ蓋シ同委員ハ右諸規定ハ各国間ニ不均等ヲ生  
シ世界ノ各地ニ海軍基地ヲ有ゼルカ為メ一港内ニ捕獲船  
ヲ導ク能ハズシテ之ヲ破壊スルノ必要ヲ生スル場合ニ其捕  
獲國ニ対シ一種財政上ノ負担ニ任セシムルヲ以テナリト云  
ヘリ

議長ハ會議ハ独国委員ノ宣言ヲ承認スト云ヘリ報告委員ハ

第四條第五條ノ朗読ヲ統ク

全案ニ付キ採決セシニ投票ニ加ハリシモノ四十二國中

可

次ニ議長ハ海戰條規慣例ニ關スル希望ニ關シ報告委員「カ  
ルネベック」氏ヲシテ説明セシム  
同氏ハ大要左ノ如ク説明シタリ

第四委員会ハ陸戰法規慣例ヲ海上ニモ應用セントスルコト  
ニ付審査会ヲ設ケ之ヲ審議セシメタリ此審議ノ結果トシテ  
審査委員会ヨリ第四委員会ニ提出ノ報告ノ結果委員会ハ此  
ノ如キ大問題ヲ充分研究スル時日ナキモノト決セリ然レド  
モ同時ニ千八百九十九年ノ條則ノ原則ハ亦優ニ陸戰ト同シ  
ク海戰ニモ應用シ得ルモノナルコトヲ認メタリ之レニ由リ  
審査会ハ一ノ希望案ヲ作リ第四委員会ニ提出シ而シテ同会  
全会一致ノ賛成ヲ得テ之ヲ此ニ提出スルモノナリ希望案ハ  
左ノ如シ

本會議ハ海戰ノ法規慣例ニ關スル特別規定制定ノ件ヲ次  
回平和會議ノ議題中ニ掲ケラレント及各國ハ該規定ノ  
制定アル迄陸戰ニ關スル千八百九十九年ノ條約ノ原則ヲ  
出来得ル限り海戰ニ應用セラレンコトヲ希望ス  
議長ハ右希望ニ対シ異議ナカルベキ旨フ會議ニ計リシニ喝  
采ヲ以テ之ヲ迎ヘ右希望ハ此ニ可決ヲ見ルニ至リタリ

午後七時散会

第三條第四條第二項ニ關シ保留ノ上投票シタルモノ

独乙、支那、モンテネグロ、露西亞ノ四国

アブスタンシヨン北米合衆国（本国政府ノ訓令ナキニ基  
ク）投票ニ加ハラサル

ニカラグア、パラグエー

全案ハ四十一ノ賛成ト一ノアブスタンシヨンヲ為シタル外他

報告委員「フロマジヨー」氏ハ海上ニ於ケル郵便信書ニ關  
スル條約案ヲ朗読ス

全案ハ亞爾然丁共和国ガアブスタンシヨンヲ為シタル外他  
ハ全会一致ヲ以テ可決

ニカラグア、パラグエーハ投票ニ加ハラズ

報告委員ハ交戦國ニ依リ捕獲セラレタル敵商船ノ乗組員ニ  
關スル規定案ヲ朗読ス

金会一致ヲ以テ可決

ニカラグア、パラグエーハ投票ニ加ハラズ

報告委員ハ戰時ニ於テ沿岸漁船及其他或種ノ船舶捕獲免除

ニ關スル條約案ヲ朗読ス

投票ノ結果全会一致ヲ以テ同案可決

ニカラグア、パラグエーハ投票ニ加ハラズ

#### 附屬書

第一号第四委員会総報告書要訳

参照

第一、第七回總會議々事錄

第二、第四委員会總報告書

第三、第四委員会總會議々事錄第一回ヨリ第一回マデ

議事錄及附屬書

第四、第四委員会審査會議事錄及附屬書

第五、商船ヲ軍艦ニ変更スル問題ニ關スル特別報告書

（邦文）

第六、海上ニ於ケル私有財産捕獲免除ノ件ニ關スル特  
別報告書（邦文）

第七、恩恵期間問題ニ關スル特別報告書（邦文）

第八、封鎖問題ニ關スル特別報告書（同上）

第九、戰時禁制品問題ニ關スル特別報告書（同上）

第十、中立捕獲船ノ破壊問題ニ關スル特別報告（同  
上）

第十一、陸戰ニ關スル諸規則ヲ海戰ニ應用スルコトニ  
關スル特別報告書（同上）

午後七時散会

第十二、海上ニ於ケル郵便信書ニ閔スル特別報告書  
(同上)

第十三、拿捕敵船ノ乗員問題ニ閔スル特別報告書(同上)

第十四、沿岸漁船及其他ノ船舶ノ捕獲免除問題ニ閔スル特別報告書(同上)

(附屬書第一号)  
第四委員会總報告書

報告委員「アンリ・フロマジヨー」氏

審査委員「ド・マルテンス」氏(議長)「クリーダ」氏  
(独)「マツキヨ」男又ハ「ラマッショ」氏(墺)「ラレック」氏(亞爾然丁)「ヴァン・デン・ユーヴエル」  
氏(白)「ルイ・バルボーサ」氏(ブレジル)「マツテ」  
氏(智利)海軍少將「スペリー」氏(米)「ルイ・ルノ」  
氏(仏)「サム・エルネスト・サトウ」氏又ハ「ロード・レー」卿(英)「フジナトウ」氏(伊)都筑(日)  
「ハーゲルップ」氏(諾)「ド・カルネベック」氏(蘭)  
海軍大佐「ペール」氏(露)「ミロヴァノヴィチ」氏  
(塞爾比)「ハマルキヨルド」氏(瑞典)

特別審査会委員 議長「ロード・レー」卿(英)「クリーダ」氏(独)海軍少將「スペリー」氏(米)「ルイ・バルボーサ」氏(ブレジル)「マツテ」氏(智利)ルイ・ルノー」氏(仏)海軍大佐「ペール」氏(露)報告委員「フロマジヨー」氏

報告書前文ハ總會議事録中ニ訳出シアルヲ以テ之ヲ略ズ

第一、商船ヲ軍艦ニ変更スル件

報告書ハ本件ニ閔シ條約案成立マデニ至リタル経過ノ概要ヲ略記スルモ右ハ本件ニ閔スル特別報告ト重複スルノ據アルヲ以テ此ニ訳出セズ

次ニ報告書ハ條約案ノ各條文ヲ掲グルモ之亦例ニ依リ特別報告ニ譲リ此ニ各條ニ對スル説明ヲ訳出スヘシ

第二條

本條ハ巴里宣言ヨリ來ル自然ノ結果ニシテ如何ナル變形ノ下ニ於テモ私船制度ノ復活ヲ防遏スルヲ目的トス  
チ軍艦旗ト商船旗ト異ナル場合ニハ軍艦旗及長旒ノ掲揚ヲ必要トセリ斯クシテ中立者ヲシテ一見其軍艦ナルコトヲ知ラシムルニアリ

本國委員カ一旦軍艦ニ変更サレタル商船ハ戦争ノ終ルマテ原則ニ復スコトヲ得ズトスベシトノ提議ハ遂ニ之ヲ明カニ

規定スルコトヲ得ルニ至ラザリシカ此問題ハ變更ヲ許スベキ場所ニ閔スル問題ト密接ノ干係ヲ有スルモノナレドモ両者共明カニ之ヲ規定セザルカ為メ商船ノ変更及ヒ復旧ヲ任意ニ且隨時ニ為シ得ルトスルハ本條約ノ精神ニ戾ルモノナルコトハ審査会ニ於テ之ヲ認ヌタル処ナリ

第二、海上ニ於ケル敵国人ノ私有財産ノ不可侵ニ

閔スル件

本件ニ閔スル議事ハ海上ニ於ケル私有財産捕獲免除ノ件ニ閔スル特別報告ニ詳記アルヲ以テ之ヲ茲ニ訳出セズ

第三、恩恵期間ニ閔スル件

本問題ニ閔スル討議ノ詳細ハ之ヲ特別報告ニ譲リ茲ニハ條文ノ説明ノミヲ訳出スヘシ(條約文モ之ヲ特別報告ニ譲ル)  
條約ノ表題ニ付テハ恩恵期間ナル語ヲ廢シテ開戦當時ニ於ケル敵商船ノ取扱ニ閔スル規定トナシタリ之レ恩恵期間ナル語ハ充分本規定ノ意義ヲ言ヒ尽シ能ハサルヲ以テナリ

本條ハ商船変更ノ公表ニ閔シ規定スルモノナリ

第一條

本條第一項ハ開戦ノ當時交戦國ノ商船カ敵国港内ニアリテ

初メテ開戦アリタルコトヲ知リタル場合ヲ規定ス

本項ニ於テ一定ノ義務ニ関スルコトヲ規定センコトハ實際上各国間ニ一致ヲ得ル能ハザリシヲ以テ一ノ希望的條項ト

為シタリ該敵国ニ於テ指定シタル他ノ港トセルハ例ヘハ仕向港カ既ニ封鎖サレ居ル場合ノ如シ

本項ニ依リ第四委員会ハ交戦国カ敵国商船ニ出航ヲ許スト

否トハ該交戦國ノ自由ニ任カス規定ヲ採ルト同時ニ必要ノ

場合ニハ其出港ノ許可ヲ与ヘザルコトヲ得ルトスルヲ以テ

至当トナセルコトヲ知ルニ足ル

出港ノ猶豫ヲ与フルハ積荷セン為メナルカ卸荷セン為メナ

ルカラ明記セサルヲ可トナセリ蓋シ斯クシテ猶豫恩典ヲ商業ノミニ限ラザラシメンガ為メナリ

第二項ハ戰爭開始前最後出發港ヲ出テタルトキ未タ開戦ノ

事實ヲ知ラズシテ敵港内ニ入港セントスル船舶ニ關スル規

定ナリ開戦ノ事實ヲ知ラズトノ條件ハ恩恵猶豫ノ濫用ヲ防

ク為メ必要ト認メラレタリ故ニ航海ノ途中既ニ戰爭開始ア

リシコトヲ聞クカ殊ニ一度臨檢ヲ受ケタル場合ノ如キハ明カニ開戦ノ事實ヲ知ルモノトス

### 第二條

本條ハ敵官憲カ許可ヲ与ヘサルカ又ハ天候不良ノ為メ出港シ能ハザル船舶ニ關スル規定ナリ此場合ニ現今ノ法制ニ

従ヘバ沒收ノ上捕獲法ニ依テ處理セラル此ノ如キハ公正ノ道ニ反シ國際貿易ノ安全ニ害アルモノト認メラル然レドモ

一方ニ於テ出港ヲ許ストキハ遠カラズシテ補助巡洋艦トナリ已ニ対シ敵對行為ヲ為スヘキコトヲ知リナガラ之レ

ブシテ自由ニ出港セシメ能ハサル交戦國ノ権利モ亦之ヲ認メサルベカラズ之レ交戦国カ出港ノ許可ヲ与ヘサルノ自由ヲ有スル所以ナリ同時ニ又平和ノ貿易ヲシテ独リ之レカ損害ニ任スルコトモ之ヲ避ケサルベカラス之レ交戦國ニ没収ノ権ヲ認メサルト同時ニ戰爭ノ後之ヲ解放スル條件ノ下ニ之ヲ捕獲スルノ権利ト賠償ヲ払テ之ヲ徵發スルノ権ヲ認メタリ此ノ解決ハ公平ヲ得タルモノト信セラル

賠償額ノ算定ニ付キ或ハ疑ナキヲ保セサルモ利害關係者力

實際蒙リタル損害額タルヘキハ自カラ明白ノコトトス

徵發ト賠償トハ國際法ニ從フヲ不可ト為シタリ蓋各國法制ヲ異ニシ又不備ナキヲ保セザルノミナラス法制ナキ場合モアルベケレバナリ

### 第三條

本條ハ開戦ノ事實ヲ知ラザル一方ノ交戦國ノ商船カ敵艦ニ

出会シタル場合ヲ規定ス

現法制ニ從ヘハ此商船ハ捕獲サルヽ免レズ然レドモ該商

船ニ対シテモ開戦當時敵港内ニアリシ商船又ハ同港ニ入港セントスル商船ニ対スルト同理由ヲ附スルコトヲ得即チ公

平ト貿易ノ利益ト交戦國ノ利益トヲ參酌スベキコト即チ之レナリ

然レドモ審査会ノ意見ハ此点ニ於テ一致ヲ見ルコトヲ得サリシ當時ノ成案ハ捕獲ヲ禁シ抑留若クハ拿捕スル丈ケニ止メントセリ

然ルニ或國ニ於テ捕獲ノ権利ハ必要避クベカラズ何トナレバ拿捕船ヲ同伴スルコト困難ナル場合又ハ本国港ニ導クコ

ト不可能ナル場合ニ捕獲船ヲ破壊スル外他ニ方法ナキトキニ當リ捕獲ヲ禁ズルハ敵船ヲ解放スル外能ハサルコトトナリ單ニ拿捕ヲ許スルモ實際之ヲ本国港ニ導クコト不可

能ノ場合ニハ何等ノ効ナキニ終ルヘク從テ右提案ハ各國間ニ不權衡ヲ見ルニ至ルベシト云フモノアリタリ

依テ之ヲ投票ニ問ヒタルニ賛成六不賛成六アブスタンショニト云フ不定ノ結果ヲ生シタリ

### 第四條

第一條第二條第三條ハ船舶ニ關シ規定スルモ第四條ハ載貨ニ闊シ規定ス

敵船内ノ載貨ハ敵艦ト同シ扱ラ受ク但シ千八百五十六年ノ

巴里宣言ヲ適用シ得ル場合ハ此限リニアラズ

### 第五條

本條ハ本規定適用ノ範囲ヲ定ム

審査委員会ノ多數ハ初メヨリ軍艦ニ代用スル目的ヲ以テ建造セラレタル商船ニ本規定ヲ適用スルコトニ同意セサリシ

之レ本條アル所以ナリ

## 第四、戦時禁制品ニ関スル件

本件ニ関スル成行ノ詳細ハ之ヲ本件ニ関スル特別報告ニ譲リ此処ニ之ヲ略ス但本件ハ特別審査会ニ於テ遂ニ何等ノ成案ヲ見ルニ至ラズ總會議ノ議ニモ上ラズシテ止ミタリ

## 第五、封鎖ニ関スル件

本件ニ関スル成行ノ詳細モ亦本件ニ関スル特別報告ニ譲ル但本件モ亦不成効ニ終リ總會議ノ議ニ上ラザリシ

## 第六、中立捕獲船ノ破壊ニ關スル件

本件ニ關スル成行ノ詳細ハ亦之ヲ本件ニ關スル特別報告ニ譲ル本件モ亦不成効ニ終リ總會議ノ議ニ上ラザリシ

報告委員「フロマジヨー」氏ハ其報告書ノ結論ニ於テ曰ク

之ヲ要スルニ交戦国ノ捕獲船ヲ中立港ニ伴ヒ來ルコトヲ許スベキヤノ点ニ付テハ薄弱ノ多数アリ然レドモ中立港ニ捕獲船ヲ伴ヒ來ルコトヲ許スヤ否ヤノ問題ニ大部分關係アル捕獲船ノ破壊ヲ禁ズル点ニ付テハ一層多クノ贅成アリ然レドモ捕獲船破壊禁止ハ之ヲ他ノ諸問題ニ比スレバ甚タ薄弱ノ多数ニ止マリ而カモアブスタンショソ甚タ多数ナリ此ノ如キ事情ノ下ニ於テ一ノ協定規約ヲ得シコトハ實際上困難ナルカ如シト

單ニ船長及士官丈ニ約束セシムルコトトナシタリ此場合ニ約束ハ書面ヲ以テ正式ニ之ヲ為サブルベカラズ然ル上ニテ俘虜タルコトヲ免ルヽヲ得ルナリ  
約束ノ形式ハ書面約束ノ式ヲ採ル誓約セシムベシトノ説モアリシカ各國風俗習慣ヲ異ニスルニ鑑ミ之ヲ採ラズ

## 第二條

本條ハ敵國臣民ニ關スル規定ナリ船長士官水夫ヲ問ハズ總テ正式ノ約束ヲ為スニアラザレバ俘虜タルコトヲ免ルヽヲ得ズ

戰爭行動ニ關スル一切ノ勤務トハ艦船ニ乗込ハ勿論陸上ニ於テ海軍造船所又ハ兵器製造所等ヘ出勤シ又ハ陸軍々隊ニ入ル等其他一切ノ陸海軍ノ勤務ニ服スルコトヲ指スモノトス  
約束ノ形式ハ前條ト同シ但水夫中署名等ヲ為シ得サルモノヘ證人立会ヲ以テ足レリ斯例ヘバ船長ノ面前ニ於テ為スカ如シ是等ハ規定スル迄ノ必要ナシ

## 第三條

本條ハ約束履行ヲ確ムル為メノ規定ナリ

## 第四條

本規約ハ平和的貿易ニ從事スル商船ノ乗組員ヲ保護スルヲ

## 第七、海戦法規慣例ニ關スル件

本件成行ノ詳細亦之ヲ千八百九十九年陸戦ノ法規慣例ニ關スル條約ヲ海戦ニ應用スルノ件ニ關スル特別報告ニ譲ル但本件ハ一ノ希望トシテ總會議ノ議ニ上リ其希望可決セラレタルハ總會議各事録ニ見ユルカ如シ

## 第八、海上ニ於ケル郵便信書ニ關スル件

本件成行ノ詳細ハ亦之ヲ特別報告ニ譲ル

本件ニ關スル條約案カ總會議ニ於テ可決セラレタルハ既記ノ如シ

## 第九、捕獲ノ敵商船乗組員ニ關スル規定ニ關スル件

本件ニ關シテモ其成行ノ詳細ト條文ヘ之ヲ特別報告ニ譲リ茲ニハ條文説明ヲ訳出スベシ

## 第一條

本條ハ捕獲サレタル敵商船内乗組員ノ一部ヲ為セル中立者ニ關スル規定ナリ原則トシテ俘虜タルコトヲ免レズ尤モ水夫ト船長及士官トノ間ニ區別ヲ為セリ  
初メ水夫ニモ敵國商船及ヒ軍艦ニ再ヒ乗組マザルコトヲ約束セシムベシトノ説モアリシカ水夫ノ約束ハ其効少ナキノミナラズ之レカ監督モ亦甚タ困難ナルベシトノ理由ニ依リ

本旨トス故ニ敵対行為ニ直接間接ニ關係スルモノニハ素ヨリ其適用ヲ見サルナリ  
此点ニ關シ船舶行動ノ性質如何ヲ知ルハ事實問題ニ屬シ規則ニ依テ之ヲ定メ得ベキモノニアラズ  
第十、沿岸漁船及其他或種ノ船舶ノ捕獲免除  
ニ關スル件  
本件ニ關スル成行ノ詳細及條文ハ亦之ヲ特別報告ニ譲リ茲ニ條文ノ説明大要ヲ訳出スヘシ

## 第一條

免除ヲ得ベキ漁船ハ沿岸漁業ニ從事スルモノヽミニ限ル  
頗数又ハ乗組員数及船形ニ依リ明カニ沿岸漁業船ノ区別ヲ為ス能ハズ蓋シ場所ニ依リ各相異ナレバナリ然レトモ是等ハ沿岸漁業船ナルヤ否ヤヲ判定スルトキニハ好箇ノ材料トナルナリ  
船舶航行ノ方法ニ依テモ之ヲ区別スルコト能ハズ只事實上之ヲ区別スル外アラザルナリ  
海岸ヨリノ距離ニ依リ沿岸漁船ナルヤ否ヤヲ定ムヘシトノ説アリシカ是又不可能ナリ海滨ニ依リ大差アレバナリ

又單ニ一地方間又ハ島嶼間ヲ往復シテ商業ヲ営ミ又ハ農産物ヲ運搬スル小舟モ亦本條ノ保護ヲ受クルト知ルヘシ  
ハ本條ノ保護ヲ失フ

第三項ニ於テ日本ノ提案ニ基キ沿岸漁船ニ仮装シテ戰闘ニ  
詐術ヲ用ユルヲ禁ズ

## 第二條

本條ハ伊國提案ニ基ク而シテ本條ノ船舶モ一旦戰闘ニ關係  
スルトキハ保護ノ権利ヲ失フ

### （八）第八回総會議

#### 一、触発自働水雷布設ニ關スル件

#### 一、海戦ニ於ケル中立國ノ権利義務ニ關スル件

#### 第二回萬国和平會議々事録（第八）

千九百七年十月九日午前十一時第八

回総會議開会

議長「ネリドフ」閣下

第七回総會議々事録承認

パラグエー及ニカラグア両國委員ハ前総會議ニ出席セザリ

ハ問題ノ性質上種々ノ異論ヲ融和セシメテ一ノ解決ヲ見ル  
為メニハ如何ニ巧妙ノ手腕ヲ要シタルカハ此處ニ之ヲ喋々  
スルヲ要セズ現問題ニ關シテモ第四委員会ノ時ノ如ク大陸  
派ト海國派ト說ヲ異ニシ中立者ト交戦者ト利害ノ衝突ヲ  
來タシ一時ハ到底和協ノ途ナキカヲ疑ハシメタリシカ果セ  
ル哉委員会ニ於テ議決サレタル諸項ニ關シテ委員中該問題  
ヲ更ラニ其本国政府ノ慎重ノ研究ニ任カス為メ保留ヲナシ  
テ之ヲ承認スルノ止ムヲ得ザルモノアルヲ見ルニ至リタリ  
然レトモ是等ノ問題ハ他委員会ノ諸問題ト相待テ海戦ニ關  
スル中立者ノ権利義務ニ關スル諸規則ヲ完了スルニ与テ大  
ニ効アルモノト云フベシ

國際法中一機軸ヲ出タルセル這般ノ問題ハ未タ曾テ之ヲ國際  
協約ノ目的ト為スノ議ニ上リタルコトナカリシガ今日ニ於  
テ此解決ヲ見ルニ至リシハ現會議ニ一ノ他ノ光彩ヲ添ヘタ  
ルモノト云ハザルヘカラズ百難ヲ排シ萬難ヲ斥ケ而カモ委  
員諸士ノ親交ヲ害セス以テ今日ノ好景ヲ得ルニ至リタルハ  
本會議ノ効ニ帰セスンバアルベカラス吾人ハ寧ロ云ハント  
ス各國委員会意見ノ異ナリシコト政略上協約ノ必要ヲ感シ  
タルコトハ却テ委員諸士ヲシテ益相近ツカシムルニ与テ力  
アリシコトヲ

シ為メ投票ニ加ハラザリシモ当日ノ総會議ニ於テ議決セラ  
レタル諸條約案及諸希望ニ賛成ノ投票ヲ為スモノナルコト  
ヲ宣言シタリ  
暹國委員ハ九月二十一日ノ第六回総會議ニ於テ國際審檢所  
ニ關スル條約案ニ投票スルコトヲ保留シ置キタリシガ今ヤ  
本国政府ノ訓令ニ基キ暹國ハ同案ニ賛成スルコトヲ茲ニ宣  
言ス但シ審檢所ノ組織ニ關スル第十五條ニ付テハ保留ヲナ  
スト云ヘリ

議長ハ之ニ承認ヲ与フ

土國委員モ亦政府ノ訓令ニ基キ商船麥更ノ條約ニ同意スル  
旨ヲ述べ然レトモ土國政府ハ其領海又ハ公海ニ在ル商船ニ  
シテ開戦ノ際軍艦ニ変更セラレタルモノニ対シテハ軍艦タ  
ルノ性質ヲ認メズト宣言シタリ

次ニ議長ハ「キユバ」ノ委員カ著ハシタル「亞米利加拉丁  
國間ノ仲裁」ト云フ著書ヲ紹介シタリ

議長ハ更ニ大要左ノ如キ演説ヲナセリ

他ノ三委員会ニ先チテ報告ヲ會議ニ提出シタル第三委員会  
ハ本日其最後ノ報告ヲ提出セリ即チ一ハ触発自働水雷布設  
ニ關スル件ニシテ一ハ海戦ノ場合ニ中立港ニ於ケル交戦國  
船舶ノ取扱ニ關スル件ナリ此二問題ニ付殊ニ後者ニ付キテ  
要左ノ如キ演説ヲナセリ

茲ニ提出セル触発自働水雷布設ニ關スル規則案ハ永キ間慎  
重ノ審議ヲ凝ラシタル結果ニ外ナラズ此問題ヲ議スルニ付  
キ催シタル会合ハ第一分科会三回審査会十回第三委員会四  
回ヨリモ少ナカラズ而シテ此問題ニ關シ英、伊、日、蘭、  
伯、西、独、露、仏、米、清、諾、瑞典、土、格魯比ノ各  
國委員ヨリ提案修正案等ノ提出アリテ是等ノ案ニ關シテハ  
堪能ナル各國専門委員集テ慎重ノ審議ヲ凝ラシタリ  
初ヨリ各國委員間ニ和衷協同ノ精神ノ切ナルモノアリタル  
ニ拘ハラズ此困難ナル事業ヲ充分満足ノ結果ヲ与ヘ得サリ  
シト雖トモ這般問題ノ解決ニ一步ヲ進メタルハ疑フヘカラ

ザル処ニシテ実ニ該問題ハ其性質上如何ニ複雜ノモノナルカハ之ヲ忘ルヘカラズ  
委員会ハ第一平和會議ノ事業ニ遵ヒ各國ニ依テ承認セラレタル露國ノ廻章ニ基キ人道ノ大法ニ則トリ海洋ハ天下ノ公道ナリトノ原則ヲ本トシ一ノ規則ヲ設ケ以テ戰爭ノ慘禍ヲ殺滅シ可成戰爭ノ苛酷ヲ緩和セシメンコトヲ力メタリト雖モ目下ノ状勢ハ触發自効水雷ノ使用ヲ禁止スルコトヲ許サマルヲ以テ吾人ハ攻守共ニ必要ナル此武器ノ使用ヲ制限シテ以テ平和ノ航海ニ可成危險寡カラシムルヲ以テ満足セサルヘカラザリシナリ水雷構造ノ進歩種々ノ豫防手段トニ依リ委員会ハ或範囲マデ前記ノ目的ヲ達スルニ足ルベキコトヲ発見シニ基テ一ノ規則ヲ設定シ以テ今日諸君ノ贊同ヲ乞ハントスル處ナリ若シ此規則ニシテ之ヲ成立スルニ至ラシメタル一致ノ精神ニ遵テ適用セラルレバ國際共同ニ与フル實益又タ甚大ナルモノアルヲ疑ハズ然レドモ現案ノ不完全ヲ知ルカ故ニ之レカ改善ヲ期スル為メ第三委員会ハ諸君ニ向テ一定ノ期間ヲ定メテ之ヲ實行センコトヲ提議ス此期間ハ七年ヲ超ヘサルナリ云々ト  
此ニ於テ報告委員ハ第一條ヨリ朗誦ヲ始ム（附屬第一号参照）独乙第一委員ハ大要左ノ如ク宣言セリ

強乙委員ハ第三委員会ニ於テ五年間浮流水雷自効水雷ヲ使用スルコトヲ禁ズヘシトノ提議ヲナシタリ是レ之ニ依テ浮流水雷ニ依テ危險ヲ被ル航海ノ安全ト中立貿易ヲ保護セントスル總テノ方法ニ獨國ハ左袒スルモノナルコトヲ示シタリ同目的ヲ以テ又同委員ハ浮流水雷ハ布設後短時間ヲ經テ無害トナルニ至ルベキ構造法ノモノナラザルヘカラサルコトヲ提議セシガ両提議共全会一致ヲ見ルニ至ラザリシカバ獨乙委員ハ技術上及軍事上第一條第一項ニ對シ保留スルノ止ムヲ得サルモノアルヲ見タリ然シナカラ委員会ノ決議ニ鑑ミ和協ノ精神ニ基キ獨乙委員ハ何等ノ保留ナクシテ第一條第一項ニ賛成ス但シ之ニ対シ抱懷スル異議ノ理由ハ之ヲ拠棄シタルモノニアラズト  
議長、會議ハ此宣言ヲ承認ズ

土國委員ハ構造ノ完全ナル水雷構造ニ關シテハ何等ノ約束ヲ為スコト能ハス蓋シ其完全ナル構造ハ未ク一般ニ知ラレサルヲ以テナリト云ヘリ

露國委員ハ第一項保留ノ下ニ第一條ヲ認諾ス

議長、會議ハ是等ノ宣言ヲ承認ス

次ニ第二條ニ關シ獨乙委員ハ保留ヲナセリ蓋シ本條ハ水雷ヲ布設スルニ當リ其目的ヲ豫想スルモノニシテ主觀的タリ言セリ

此ノ如キハ本案中他條項ニ之ヲ見サル處ニシテ適用上困難ヲ免レズ殊ニ「單ニ」ナル語ハ此困難ヲ一層大ナラシムル患アレバナリト云ヘリ

仏國第一委員モ獨國委員ト同様ノ理由ニテ第二條ニ關シ保留ヲ為シタリ（其理由ノ詳細ハ委員會議事録ニ審カナリ）

第三條ニ關シ土國委員ハダルダネルス及ボスホール海峡ハ條約上特別ノ位置ニアルヲ以テ戰爭ニ當リ又ハ中立ヲ厳守スル場合ニ其必要ト認ムル方法ニ依リ是等ノ海峽ヲ防禦スル手段ヲ豫メ制限スル約束ニハ絕對ニ贊成スル能ハスト宣言セリ

第四條第五條第六條朗説

第六條ニ對シ土國委員ハ水雷改造ニ關シテ何等ノ約束ヲ為ス能ハスト云ヘリ

第七條ニ關シ西國委員ハ之ニ投票スルモ本條ハ不完全ニシテ西國政府ノ希望ヲ充タスニ足ラスト云ヘリ

全案ニ關シ採決セシニ全会一致ニテ可決但シ第一條第一項ニ關スル「ドミニカン」共和国、墨西哥、モンテネグロ、露國、暹國ノ保留同條全部ニ關スル土國ノ保留及第二條ニ

テ中立者ハ航海上大ナル危険ヲ被ルノ結果ヲ免レズ此危険ニ付キ吾人ハ數次警告スル處アリ又之レカ使用ヲ制限シ否ナ寧ロ之ヲ全廢スルノ可ナルコトヲ説キ之ニ依テ以テ幾分力戦争ノ機会ヲ滅セシムルコトヲ期シタリシカバ吾人ハ一ノ提案ヲ為シ以テ将来交戦者ト中立者トノ間ノ親交ヲ傷ケントスルカ如キ危険ヲ豫防セント試ミシモ其議ハ遂ニ會議ノ容ルル処トナラザリシ此ニ於テ吾人ハ最モ正式ニ危険ハ依然トシテ存在シ而シテ本條約不完全ノ為メ其結果ヲ将来ニ及ホスモノナルコトヲ宣言セントスルモノナリ既ニ本案ハ不完全ノモノナリ左レバ本案ニ規定ナキノ故ヲ以テ或行為ハ正当ナリト云フコトヲ得ズ之レ吾人ガ茲ニ之ヲ確言シ置カントスル原則ニシテ又如何ナル國ト雖トモ之ヲ没却スル能ハザル処ノモノナリト

此ニ於テ独乙第一委員ハ之ニ答ヘテ大要左ノ如キ演説ヲ為セリ

水雷ヲ布設スルニ当リ交戦者ハ既ニ中立者ト安全ノ航海トニ対シ重大ノ責任ヲ負フモノトス此点ニ付テハ衆論一致セリ誰人モ軍事上緊急ノ必要ナクシテ水雷ヲ布設スルモノハナカルベシ而シテ軍事上ノ行為ハ單ニ國際條約ニ依リ之ヲ規定シテハリ得ルモノニアラザルナリ良心ト云ヒ誠意ト云

利義務ニ関スル條約案ノ議事ニ移リ報告委員「ルイ、ルノーヴ」氏ニ發言ヲ許ス

「ルイ、ルノー」氏ハ大要下ノ如ク説明セリ

露国廻章中ニアル中立港ニ於ケル交戦国軍艦ノ取扱ニ関スル規則制定ノ件ハ第三委員会ノ審議ニ附セラレタリ本問題ニ関シ同委員会ニ提出サレタル提案四アリ

一、日本委員ノ提案ハ中立海ニ於テ敵船ニ適用サルベキ規則設定案

二、西国委員ノ提案ハ中立港ニ於ケル敵船ニ適用サル規則設定案

三、英國委員ノ提案ハ海戦ニ於ケル中立國ノ権利義務ニ

関スル條約案

四、露国委員ノ提案ハ中立港ニ於テ交戦国軍艦ニ適用サルヘキ規則制定案

即之レナリ右四案ノ内英案ハ最モ其範囲広シ蓋シ同案ハ獨リ中立海ニ於ケル交戦国軍艦ニ關シテノミナラズ一般海戦ニ於ケル中立國ノ権利義務ニ關シテ規則ヲ定メントスルニアルヲ以テナリ

委員会ハ海戦ノ場合ニ於テ中立國ニ關係アル總テノ英國提案ヲ審査シ國際審査所設立ノ場合ニ海戦ニ關シ國際海上法

ヒ將又仁道上ノ義務ヲ云ヒ總テ皆ナ海軍軍人ノ行為ニ對スル最モ確實ナル指南軍ニシテ濫用ノ諸弊ニ對スル最良保障ナリトス余ハ此ニ独逸海軍士官ハ仁道ト文明ノ不文法ヨリ生ズル諸責務ヲ尽スニ於テ最モ心ヲ用ユルモノナルコトヲ公言シテ憚ラサルナリ

余ハ戦争ニ適用スヘキ規則制定ノ大切ナルコトヲ認ムルモノナルコトヲ茲ニ喋々スルノ必要ヲ見ズ然レトモ事情ニ依リ其適用ヲシテ不可能ナラシムル如キ規定ハ之ヲ設クルコトヲ避クルヲ要ス海上國際法ヲ制定スルニ當リ仮令ヘ特別ノ場合ナリトスルモ軍事上之ヲ適用シ得ルモノナラザルベキハ右制定ノ第一義ニ屬ス然ラザレバ其効果ヲ削減シ其規定ノ威儀ヲ損スルニ至ルベシ之レ吾人ガ目下一定ノ保留ヲ為スヲ以テ是ナリト認ムル所以ニシテ五年ノ猶豫ヲ与ヘテ以テ更ニ各國ニ依テ認諾シ得ベキノ解決ヲ求メンコトヲ可トセル所以ナリ

若シ夫レ仁道ト文明ノ思想ニ關シ人若シ獨乙政府ヲ以テ人後ニ落ルモノナリトナスモノアレバ余ハ決シテ之ヲ許スト能ヘサルナリト

次ニ議長ハ本日議事日程第一即チ海戦ニ於ケル中立國ノ権

ノ編纂ノ必要アルニ艦ミ又ク第二委員会ノ審議ニ係ル陸戰ニ於ケル中立國ノ権利義務問題ニモ關係アルコトニ顧ミ英國案ノ表題ヲ採用スルコトニ決シタリ

本件ニ付第二分科会ハ七月二十七日同三十日及八月一日ニ於ケル三回ノ討議ヲ重ねタル上之ヲ更ニ特別審査会ノ審議ニ附シタリ同会ハ八月六日ヨリ九月二十八日ニ至ルマデ十二日及二十八日ノ第二読会会議ノ討議ニ附シ後テ十月四日ノ第三委員会ニ於テ同成案ハ可決セラルニ至リタリ海戦ノ場合中立ニ關シ各種ノ難問ト疑義ノ發生ヲ避ケントスル希望ハ各方面ヨリ表彰セラレ之レ独リ理論上ノミナラズ最近海戦ノ結果上一層本問題ニ關スル規則必要ヲ感スルニ至リタリ陸戦ノ場合ニ於テ其關係スル處ハ單ニ交戦國ノミニ止マリ中立官憲ト交戦国軍隊ト直接ニ接觸スルハ極メテ稀ナリ若シ此接觸ノ場合起ルトキハ例ヘバ交戦国ノ軍隊カ中立国内ニ逃避シタルトキノ如キハ一定ノ成文法若クハ習慣法アリテ頗ル簡単ニ之ヲ處理スルコトヲ得レトモ海戦ノ場合ハ大ニ之レト趣ラ異ニセリ軍艦ハ常ニ戦場ニ止マルコト能ハズ時々港湾ニ出入スルノ必要アリ又常ニ本国港ノ

附近ニアルモ限ラズ交戦国軍艦カ中立港ニ寄港スル必要モ亦交戦国地理上ノ関係ニ依リ大ニ異ナルモノアリ

左レバ中立国ハ何等ノ制限ナク其領土使用ノ恩典ヲ与ヘ得ルヤ之レ甚タ議論アル處ナリ陸上ニ在テハ平時ト雖トモ一國ノ軍艦ハ中立国ニ入ルコトヲ得ズ此原則ハ戦時ト雖トモ敢テ異ナルコトナシ海戦ニ在テハ之レト異ナリ軍艦ハ平時ニ在テモ中立港ニ寄港スルコトヲ得ルニアラズヤ戦時ニ於テ中立国ハ突然此寄港ヲ許サザルコトヲ得ルヤ此場合ニ中立国ハ其意ニ隨テ勝手ニ行動スルコトヲ得ルヤ又ハ中立ヘ其自由行動ヲ制限スルモノナルヤ交戦国軍隊カ中立国ニ入ルトキハ直チニ武装解除ヲ執行スルコトヲ得蓋シ平時ニ於テモ同国内ニ入ルコトヲ得サルヲ以テナリ軍艦ハ之レト異ナリ平時ニ於テ既ニ入港出港ノ自由ヲ有ス此場合ニ於テ中立国ノ為スベキ処果シテ如何中立国ハ其外國船艦ニ寄港ヲ許ス権利ト自カラ戦争ニ参与スベカラザルノ義務トヲ相中和スルニアリ此中和ハ全ク中立国主権ノ發動ニ基キ常ニ一定セス之レ各國法制ノ不同習慣ノ差異ニ依リ明カナリ例ヘバ伊国海南法ノ如ク中立港ニ於ケル交戦国軍艦ノ取扱ニ関シ平素ヨリ一定ノ常規アルモノアリ或ハ戦争毎ニ規則ヲ定ムルモノアリ中立宣言ノ如キ即チ之レナリ後者ニ在テハ

直チニ各特定ノ場合ヲ規定セントメ提出サレタル提案ニ就キ研究ヲ始ムルヲ可トスベシト英國第一委員「サー、エドワード、フライ」ハ本條約案ヲ本国政府ノ考量ニ任カス為メ投票ノ際アブスタンション（可否ノ數ニ加ハラズ）ヲ為スペシト宣言セリ

希臘国委員ハ本国政府ノ訓令ナキヲ以テ投票ヲ保留シタリ

日本国委員都筑ハ本国政府ノ決定ニ任カス為メ全案ニ対シ投票ヲ保留シタリ

西國委員モ亦同様ノ理由ニ依リ保留ヲナセリ

米国委員ボーカー將軍ハ本国政府ノ研究ニ任カス為メ保留ヲナセリ

波斯委員ハ第十二條第十九條及第二十三條ニ付キ保留ヲ為シタリ

「ルイ、ルノー」氏第一條ヨリ第十條ヲ朗読ス

土国委員ハダルダネルス及ボスフォール海峡ハ決シテ第十條ト闊スル处ニアラザルベシ土国政府ハ是等ノ海峡ニ対シ確定ノ権利ニ制限ヲ附スル如キ約束ハ毫モ之ヲ為シ能ハザルヲ以テナリト宣言セリ（総会ニ提出ノ報告書第十一頁參照）

前後宣言ノ趣ヲ異ニスルモノアリ又時トシテ同一戦争期間ニ於テ宣言ニ修正ヲ加ヘルコトアリ

要ハ誰人モ其帰一スル處ヲ知テ其不意ニ驚クコトナカラシムニアリ中立国ハ一定ノ規則ヲ遵守シ以テ交戦国ヨリ咎ヲ受クルコトナカラソコトヲ望ミ且其力以外ニ圧制的ニ中立厳守ノ義務ヲ負フコトヲ欲セス

中立規則制定ニ關シ最モ念トセサルヘカラザルモノハ中立國ノ主権ハ決シテ其範囲外ニ超然自立セントスル戦争ニ依テ毫モ変更セザルモノナルコト即チ之レナリ此主権ニ対シ交戦国ハ之ヲ尊敬セサルヘカラズ之ヲシテ決シテ戦争ノ渦中ニ投シ又ハ之ニ累ラ及ホスカ如キコトハ之ヲ避ケサルベカラサルナリ

然レドモ中立国ハ平時ノトキノ如ク全ク行動ノ自由ヲ有スルモノニアラズ戦争ノ状態ハ之ヲ無視スルコトヲ得ズ交戦國ニ与フル寛容ト之ニ對スル拳措トハ當然戦争行為ニ加ハルガ如キモノナルベカラズ且中立国ハ公平ナラザルベカラザルモノトス

尙ほ詳細ニ亘リ是等ノ諸点ヲ研究スルハ無用ノコトニ屬スヘシ何トナレバ中立ニ對スル各人ノ見解ハ各異ナルヲ以テ一朝ニシテ之ヲ論議シ尽シ能ハザルベケレバナリ故ニ寧ロ

議長 会議ハ右宣言ヲ承認ス

「ルイ、ルノー」氏第十一條第十二條第十三條ヲ朗読ス  
獨国委員ハ第十二條第十三條ニ關シ保留ス  
清国委員ハ第十二條ニ關シ保留ス

露国委員ハ第十二條ニ投票スト雖トモ第三委員会ニ於テ述ヘタル如ク廿四時間説ヲ以テ他ノ原則ヨリモ可ナルモノニシテ之ヲ一般ノ規則ナリト認ムルモノトナスカ如キニハ反対ノ意見ヲ保持スルモノナリト云ヘリ

「ドミニカン」共和国委員ハ第十二條ニ關シ保留セリ

「ルイ、ルノー」氏第十四條ヨリ第二十七條マテ朗読ス  
清国委員ハ第十九條及第二十三條ニ關シ保留ス  
獨国委員ハ第二十條ニ關シ保留ス

條約全案ニ付採決セシニ三十七ノ賛成ト六ノ保留ト七ノアブスタンションニ依リ全会一致ヲ以テ可決セラレタリ  
保留ヲ為シタル国六 独逸、支那、ドミニカン共和国、波斯、暹羅及ビ土耳其  
アブスタンションヲ為シタル国七 北米合衆国、玫瑰、西班牙、大不列顛、希臘、日本、葡萄牙  
其他ノ国ハ保留ナクシテ賛成シタリ

エリーゼー対シ其同委員会ニ尽シタル功劳ニ対シ賛辞ヲ呈シ會議ヘ之ニ対シ拍手喝采シタリ

## 正午十五分散会

## 附 屬

第一号「ストライト」氏触発自働水雷布設ノ件ニ閥スル報告要訳

第一号「ルイ、ルノー」博士海戦ニ於ケル中立國ノ権利

義務ニ閥スル報告要訳

第二号「ストライト」氏報告書

第一号「ルイ、ルノー」氏報告書

第一号「アーヴィング」氏報告書

(附屬第一号)  
触発自働水雷布設ノ件ニ閥スル報告要訳  
報告委員ストライト氏

一、第三委員会第一分科會議事錄自第一回至第三回(水雷布設)

一、中立港ニ閥スル第三委員会審査会(十三回)議事錄

## 第三委員会

第三委員会ハ露國廻章中ニアリシ触発自働水雷布設ニ閥スル問題ノ審査ヲ終リ今日其結果ヲ會議ニ提出スルニ至リタリ

本問題ハ之ヲ審査会ノ審査ニ附シ其結果ニ閥シ第三委員会ハ更ニ慎重ノ討議ヲ凝ラシ四回ノ會議ヲ重ネタリ八月二十一日、九月十七日、十九日、二十六日ノ會議即チ之レナリ其結果トシテ現案成ルニ至リタルモ多少ノ「アブスタンシヨン」ト保留トアルヲ免レズ

## 第一

第三委員会ハ審査会ノ成案中第二條乃至第五條ヲ削除シタリ是等ノ條文ハ繫維触発自働水雷ノ布設範囲ヲ定メ交戦者ヲシテ其使用ヲ制限セシメントスル規定ナリシカ独リ第四

ヲ以テ之ヲ決シタリト雖トモ同時ニ又水雷布設範囲ノ限定ヲ規約中ニ明記スルコト可ナルベシトノ意見モ亦相一致シタリ然レドモ右ハ寧ロ海軍士官各自ノ良心ト誠意ト且仁道ノ原則ニ基ク義務ノ観念ニ一任スル方良策ト認メラレタリ蓋眞記條項以外ニ於テモ公海自由ノ原則ハ此ニ確定シ此原則ハ畢竟仁道ノ為メノモノニシテ世界ノ交通ニ供セラレタル此大道ヲ使用スルモノハ自ラ之ニ対シテ義務ヲ負フモノナルコトハ各人ノ以テ念トナス処ナルベシト認メラレタルヲ以テナリ

第二(各條文ハ之ヲ本件ニ閥スル特別報告ニ)  
議り條文ノ説明ノミヲ茲ニ訳出ス

第一条 編纂上用語ニ少シク修正ヲ加ヘタルマデニシテ委員会ハ審査会成案ヲ其儘維持シタリ繫維水雷ニ付テハ委員会ハ矢張五年間絶体的使用禁止ヲ唱ヘタリ然レドモ審査会ノ成案ハ賛成十九、反対八、アブスタンシヨン九ノ多数ヲ得タリ

八国ハ点呼ニ応セス

第二議会ニ至リ第一條第一項ハ全会一致ヲ以テ可決セリ但

獨乙、モンテネグロ、露西亞、瑞典ノ諸國ハアブスタンシ

ヨンヲナシ土國委員ハ完全水雷構造ニ闕シテヘ何等ノ約束ヲ為スコト能ハズ蓋シ完全ナル構造ハ未タ一般ニ知ラレザルヲ以テナリト云ヘリ

第二條 審査会成案第四條第三項ヨリ来ル詳細ハ委員会ニ提出セル審査会報告第十六頁ヲ参照スベシ

第二講会ノ際第二項ニ対シ獨乙委員ヨリ異議アリ(總會議ニ於ケル委員ノ宣言ニ同シ) 埃国、仏國、格魯比委員モ亦アブスタンションセリ軍港ト見做サル、外ノ敵港前ニ触発自働水雷ノ布設ヲ禁セントスル英國提案ハ否決サレタリ

第三條 (審査会成案第六條、審査会報告第二十頁参照)

ハ全会一致ニテ可決サレタリ(詳細ハ本件ニ闕スル特別報告ニ譲ル)

第四條 (審査会成案第七條審査会報告第二十二頁) 本條ハ水雷布設ニ闕シ中立者カ守ルヘカリシ布設範囲限定ノ規定ヲ廢シ全会ノ一致ヲ得タリ

第五條 (審査会成案第八條) 本條ハ前二條ニ附帶スルモノニシテ布設シタル水雷ニ闕シ交戦者中立者共戦争終結後守ルベキ規則ヲ定ム(審査会報告第二十四頁)

第六條 (審査会成案第九條) 本條ハ経過的ノモノニシテ

全会一致ヲ以テ可決セラレタリ英國カ為シタル本案第一條ノ水雷禁止ハ條約批准後一年ヲ経テ効力ヲ生ズトノ提案ハ絶体的多数ノ賛成ヲ得ル能ハサリシヲ以テ第二講会ノ際更ラニ第二提案ヲ出シ浮流水雷ニ付テハ批准後一年繫維水雷ニ付テハ三年トナシタルモノ之亦賛成十七、反対九、アブスタンション十ノ結果ニ終リタリ原案第九條第二項ハ削除サル、ニ至リタルハ既記ノ如シ土國ハ本條ニ付キ保留ヲ為シタリ

第七條 審査会成案第十條トス成案ニハ期間ヲ五年ト為セシモ英國ノ修正ニ依リ七年ト為シタリ又此修正ニ依レバ本條約ト本條第二項ニ依リ議決セラルベキ本條約ノ修正條約トノ間ニ條約ノ断絶ヲ見サルコトヲ得ルノ便アルベシト云ヘリ日本委員モ同意見ヲ委員会ニ於テ述ヘタリ云々

終リニ臨ミ第二條第五條ニ闕シ格魯比國委員ヨリ一ノ修正案ヲ提出シ九月二十六日ノ委員会ニ於テ議論ノ花ヲ咲カセタリシコトアリ格魯比國委員ノ提案左ノ如シ

繫維触発自働水雷ノ使用ハ防禦トシテノ手段ノ外一切其使用ヲ禁ズ

交戦国ハ砲弾ノ達スル距離以内ニ於テ沿岸防禦ノ為メノミニ前記ノ水雷ヲ布設スルコトヲ得

一国内ノミニ止マル航路ハ此航路ヲ有スル國ニ依リ防禦ノ為メ繫維触発自働水雷ヲ以テ其航路ノ入口ヲ閉塞セラル、コトヲ得

交戦国ハ公海又ハ敵ノ領海内ニ繫維触発自働水雷ヲ絶対的ニ布設スルコトヲ得ズ

格魯比國委員ハ國際共同ノ利益ノタメ繫維触発自働水雷ヲ絕對ニ廢止スルコト能ハザレバ沿岸防禦ニ其使用ヲ限ルノ必要ヲ布衍シテ説明シ英國委員ハ之ニ賛成シ英國ハ防禦ノ目的ニ向テスラ之ヲ廢止センコトヲ欲スルモノナリト云ヘリ

清國委員丁大佐モ亦格魯比國委員ノ提議ニ賛成シタリ

埃国委員ハ實際上水雷布設ハ攻撃ノ為メニサレタル

モノカ又ハ防禦ノタメニサレタルモノナルカラ区別スルコト難カルベキニ付格魯比ノ提案ニハ反対スヘシト云ヘリ  
諸威國委員ハ格魯比ノ議案ハ審査会ニ於テ慎重ノ審議ヲ遂ケタルモ其結果到底委員会ニ於テ通過ノ見込ナキモノト決シタリ如何ナル提案モ斯クマテ極端ニ達シタルモノナシ

約ノ條項ニ依リ毫モ変セラル、コトナキコトハ明カニ確定セリ尤モ前記諸宣言ニ抵触セザル限リ該條約中ニ定メ

ラレタル技術上ノ規定ハ自カラ一般ニ適用セラルベキモノト認メラル

### （附屬第二号）

#### 海戦ニ於ケル中立国ノ権利義務ニ關スル條約案

##### 報告要訳

報告委員ルノ一博士

此ノ報告ハ議長「トルネリ」伯（伊）及其ノ委員ヨリ成ル審査会ノ名ニ於テ第三委員会ニ為サレタルモノナリ報告委員「ルノー」氏（仏）海軍少将「ジーゲル」氏（独）海軍少将「スペリー」氏（米）海軍中佐「ビュルマキー」氏（ブレジル）陸徵祥氏（清）「ヴェデル」（塘）海軍大佐シヤコン氏（西）サー、エルネスト、サトウ氏（英）海軍大佐「カスチグリヤ」（伊）都筑（日本）「ハーベルップ氏（諾）海軍中佐「フェラーツ」氏（葡）「チャリコフ」（露）「ハマルスキヨルド」（瑞典）「チュルカン、パシヤ」氏（土）

（報告書冒頭ニ於ケル「ルノー」氏演説ヲ掲ク

依テ之ヲ略ス）進ンテ各條ノ説明ニ入ルベシ（條文ハ特別重スベキ義務ノ規定ナリ此義務ハ戦争ヨリ來ルモノニアラザルハ猶ホ一國カ其領土ノ不可侵權ヲ有スルハ中立国ナルカ為メノ故ニアラザルカ故ニ此義務及権利ハ一國ノ存立ニ必要欠クベカラサルモノトスニ關スル詳細ハ本條提案者

「サー、エルネスト、サトウ」氏ノ演説ニ詳カナリ（七月二十七日ノ第三委員会ノ會議）

此原則ハ陸戦海戦共ニ適用ヲ見ルモノニシテ陸戦ニ關スル條規中冒頭ニ中立国ノ領土ハ不可侵トアルハ又理由ナキニアラズ  
一般ニ交戦者ハ中立海ニ於テ若シ中立国ガ之ヲ寛容スレバ中立違反トナルカ如キ行為ヲナスベカラズ然レトモ交戦者ノ此義務ハ直ニ中立国ノ義務ヲ構成スルモノトハ云ヒ難シ蓋シ兩者ノ間自カラ勢ノ異ナルモノアレバナリ交戦者ニ對シテ中立国ノ領海ニ一定ノ行為ヲ為スベカラザルノ義務ヲ負ハスコトヲ得ルモ交戦者ハ中立港若クハ領海ニ於テ此義務ヲ果タスコトハ決シテ難カラザルナリ之ニ反シテ中立

國ニ對シテ交戦者ノ為サントスル總テノ行為ヲ防止スペシトノ義務ヲ負ハスコト能ハズ蓋シ中立国ハ常ニ此義務ヲ果シ得ベキ位地ニアラザルヲ以テナリ何トナレバ交戦者カ其領海内ニ於テ為ス總テノ行為ヲ熟知スルコト能ハザルベケレバナリ義務ハ之ヲ知テ之ヲ実行ニ施シ得ル場合ニアラザレバ存在スルモノニアラズ此ノ如キハ種々ノ場合ニ其適用ヲ見ル

港内ト領海トニ依リ區別ヲナサントノ説アリ中立国ニ對シテハ港内ヨリモ領海ニ於ケル監督薄弱ナルヲ以テ區別ヲス理由アルモ交戦者ノ義務ニ付テハ港内ト領海トニ依リ之ヲ異ニスル理由ナシ

### 第二條

前條規定ノ結果中立国領海ニ於テハ凡テノ敵対行為ハ之ヲ禁セザルベカラズ（露提案第一、伊国海商法第二百五十一條）之レ独リ戰鬪行為ノミナラズ戰鬪準備臨檢等皆此内ニ含ム

### 第三條

中立国領海ニ於テ捕獲アリタル場合如何英案第二十八條ハ此場合ヲ規定セリ此場合ヲニ區別スルコトヲ得捕獲物カ尙ホ中立国ノ管轄内ニアル場合ニハ此ノ如キ行為ヲ禁遏ス

ニ依レバ根本ニ於テ抵触ヲ見ズト云ヘリ如何トナレバ中立國カ外交談判ニ讓ルカ又ハ國際審査所ニ誠アルカニ付選択シ得サル場合少ナカラズ例ヘバ捕獲國カ國際審査所條約ノ調印國ナラザル場合又ハ中立國自身カ調印國ナラザル場合ニハ外交上ノ手段ニ依ル外アラザレバナリ若シ又外交上要求ヲ為サズト雖トモ中立國ノ注意ニ依リ交戦國ハ裁判上又ハ後累々避クル為メ捕獲物ヲ解放スルヤモ知ル可ラズ

## 第四條

（本條モ亦之ヲ特別報告ニ譲ル）

## 第五條

本條ハ一方ニ交戦者ニ行為ヲ禁シ一方ニ中立國ニ義務ヲ負ハシム從テ規定ノ方法ニ二種アリ華盛頓條約ハ後者ノ主旨ニ基キ規定セリ然レドモ本條ニハ禁止ノ規定ヲ採リタリ本條ハ其實際ノ適用甚々難シ無線電信ノ例ヲ擧ケタルハ單ニ一例ニ過キズ陸戰法規ニモ同様ノ規定アリ  
交戦國軍艦ノ艦長カ土地ノ住人其國領事ニ通信シ又ハ中立國ノ海線電信又ハ海線電話ヲ用ユルコトヲ妨グルコトヲ得サルハ無論ノコトナリ陸戰法規ニハ之ニ関スル規定アリ（第八條）或ハ曰ク中立港ヲ集中地又ハ集合点ト為サシムベカラズト然レドモ其意義甚々漠然タリ中立國ハ寄港セル

交戦國軍艦ニ關シ一々其何ノ為メニ來リタルカラ知ルコト能ハザルヘシ交戦國軍艦カ一中立港ニ一時ニ寄港シ得ベキ數ヲ制限スルトキハ該説ハ重キラ致サヅルベシ

## 第六條

（本條ニ關スル由來ト討議ノ模様是亦特別報告ニ譲ル）

## 第七條

本條ハ實際上ヨリ來ル陸戰法規ニモ同様ノ條項アリ尤モ中立國ハ隨意ニ輸出ヲ禁ズルコトヲ得此場合ニハ兩交戦國ニ對シ一樣ニ之ヲ禁止シ敢テ厚薄ナカルベシ

## 第八條

（本條ノ由來ハ之ヲ特別報告ニ譲ル）

## 第九條

原案ニハ「中立國ハ或條件ノ下ニ交戦國軍艦及捕獲物ノ其港内ニ入ルコトヲ許シ又ハ必要ノ場合ニハ之ヲ禁スルコトヲ得云々」トアリ  
都筑ハ此ノ如クナレバ交戦國軍艦カ自由ニ中立港内ニ出入シ得ルコトハ無論ナリトスルカ如クニ見ユ然ルニ學説ハ寧ロ海難ノ場合ノ外ハ入港ヲ許スヘカラズト云フニ傾クガ如シトテ同條ヲ攻擊シ米國委員ハ一國カ其中立權ヲ擁護スル

土國委員ハダルグネル、及ボスホール海峡ニ關シ宣言ヲ為シ日本全權モ日本ハ數多島嶼ヨリ成リ從テ島嶼間ノ海峡ハ日本帝國ノ領土ノ一部ヲ為スモノナルガ故ニ海峡問題ニ付テハ日本政府ハ何等ノ約束ヲモ為シ能ハズト宣言セリ

## 第十一条

本條ハ中立國政府ハ水先案内ヲ供給スル義務ナシ只タ其國民カ交戦國ノ為メニ用ヲ為スラ黙許スルニアリ水先案内ハ政府ノ免許ヲ受ケタルモノナルコト勿論ナリ

## 第十二条

（本條ハ本條約中最モ困難ナリシ問題中ノ一ナリ各國提案及ビ之ニ對スル各國委員討議ノ模様即チ各國ノ態度及本條ニ關スル変遷ハ特別報告ニ詳カナルヲ以テ之ヲ同報告ニ譲ル）

## 第十三条

前條ノ規定ハ開戦ノ當時中立港ニアリシ交戦國軍艦ニモ適用セラル、モノトス

（本條ノ変遷ニ付テモ亦之ヲ特別報告書ニ譲ル）

## 第十條

（領海通過ニ付テハ種々ノ議論出テタリ討議ノ模様及其結果ニ付テハ之ヲ特別報告ニ譲ル）

## 第九章 議事録（八）四〇六

ハ破損ハ軍艦ニ碇泊時間延長ノ口実ヲ与ヘ例外濫用ノ虞ア

リトナシ破損ノ修復ニ要スル時間ニ最大限ヲ附シテハ如何

ントノ説アリシモ之レ至難ノ事ニ屬スルノミナラズ濫用ト

否トハ其碇泊港ノ官憲ノ監督スルコトヲ得トノ説多数ヲ占

メ最大限説ハ拒否セラレタリ

中立國カ交戦國軍艦ノ碇泊ヲ禁ズルハソノ碇泊ヲ知リ得ベ

カリシ場合ニノミ其責任ヲ有ス從テ港湾及沖合ハ單ニ領海ヨリモ其碇泊ヲ知ルコト容易ナリトス（本国民保護ノ為メ

派遣サレタル軍艦ニ対シテモ除外例ヲ設クベシトノ「ブレジル」委員ノ説カ不成立ニ終リタル顧末ハ特別報告ニ詳力ナリ

之レニ反シ学術上、宗教上及慈惠的ノ役務ニ服スルモノニ

対シテハ容易ニ除外例ヲ許シタリ千八百九十九年七月二十九日ノ條約ニ定メラレタル病院船ニ付テ本條ノ適用アルベキハ無論ノコトトス

#### 第十五條

（本條ハ日本提案第三條ニ基キ英國ノ贊成アリ討議ノ顧末

及本條ノ由来ニ付テハ特別報告ニ譲ル）

#### 第十六條

（本條モ亦特別報告ニ審カナリ）

中立國ニ負ハスルモノニアラズ只其入港ヲ許シ之ヲ止メ置ク場合ニ於テ中立ニ背カザランコトヲ求ムルニアリ港内ノ狀況又ハ他捕獲物ノ存在等ニ依リ他港ニ捕獲物ヲ導カシムルニアリ

本條ノ捕獲審檢所トハ國立捕獲審檢所ヲ指スモノニシテ國際捕獲審檢所ノ謂ヒニアラズ

#### 第二十四條

本條ハ中立ヲ侵シテ入港シ又ハ適法ニ入港セルモ碇泊ノ期間ヲ厳守セザル軍艦ニ対スル中立國ノ取ルベキ手段ヲ規定スルモノニシテ中立國ハ武装解除ニ関スル相當ノ処置ヲ取リ艦長ハ其手段執行ニ便宜ヲ与フベキ義務ヲ有ス武装解

除ノ結果其軍艦ノ士官水兵等ハ如何ニ之ヲ处分スペキカ

internes 収容ノ代リニ reterbus 抑留ノ語ヲ用キタリ収容

ハ一定ノ場所ニ抑留スルモノナレドモ之レ嚴ニ失スル嫌アリトシテ其意義幾分曖昧ナル抑留ナル語ヲ用キタルナリ是等ノ士官水兵ハ陸戰法規慣例條約第五十七條ノ場合ト類似セリ然レドモ本條ハ同條第三項ニ所謂許可ナルモノハ何等ノ條件ナクシテ之ヲ与フルコトトセリ日本全權都筑カ敵国ノ承諾ヲ得テ本国ニ帰還スルコトヲ許スベシトノ提議ニ對シ委員会ハ其必要ナシト決セリ尤モ都筑ノ提議ハ近世ノ實

#### 第十七條

（本條モ特別報告ニ審カナリ）

（本條ハ第十二條ニ次ク難問ナリシ詳細ハ特別報告ニ譲ル）

#### 第十八條

（本條モ亦領海問題ナリ而カモ大議論ナクシテ可決セリ詳細ハ特別報告ニ譲ル）

#### 第十九條

（本條ハ第十二條ニ次ク難問ナリシ詳細ハ特別報告ニ譲ル）

#### 第二十條

（本條ハ前條ト密接ノ關係ヲ有ス詳細ハ特別報告ニ譲ル）

#### 第二十一條

（本條ノ來歴ハ特別報告ニ譲ル）

中立港ニ捕獲物ノ入港ヲ許ス実例ハ國ニ依リ異ナレリ一方ニ於テハ全ク之ヲ禁シ他方ニ於テハ一定ノ條件ノ下ニ之ヲ許セリ種々議論ノ末原則トシテ前説ノ勝利ニ帰シタリ但除外例ナシトセス

#### 第二十二條

（本條ハ前條ニ規定セル除外例以外ノ場合ヲ豫見ス）

#### 第二十三條

（本條ノ詳細ハ特別報告ニ就テ見ルベシ）

本條ハ捕獲物ノ中立港ニ入港スルノ許否ニ付何等ノ責務ヲ

例ニ一致シ中立ノ義務ヲ完全ニ尽サンコトヲ念トスル中立國ニ好注意ヲ与ヘタルモノナリト為セリ故ニ都筑ノ意見ハ各國ニ於テ承認スル処ナレドモ抑留ノ士官ヲ本国ニ帰還セシムルコトハ最モ稀有ノ場合トス從テ此ノ如キ稀有ノ場合ヲ明カニ規定スル必要ナシト決シタリ

（抑留軍人ハ如何ニ之ヲ処分スルカノ問題ニ闕シテ議論アリシカ詳細ハ特別報告ニ就テ見ルベシ）

第十六條ノ場合ニ若シ二十四時間前ニ出發セントスルトキハ如何ントノ問題アリシガ更ニ困難ナシ中立國ハ之ヲ抑止スルアルノミ

#### 第二十五條

（大議論ナシ詳細ハ特別報告ヲ見ルベシ）

#### 第二十六條

（本條ニ闕シテハ中立國ハ本條約ニ闕ハラズ隨意ニ一層嚴ナル規定ヲ設クルコトヲ得ベシトノ日本ノ提案ニ闕シ其原則ハ之ヲ認ムルモ之ヲ明記スル必要ナシトノ議論アリ詳細ハ特別報告ヲ見ルベシ）

#### 第二十七條

ベシ之ニ閔スル編纂委員ノ意見如何ト尋ネシニ「ルノ一」氏へ本條約ノ真ニ有効ナル為メニハ交戦国ガ調印國ナラザルヘカラズ然ラザレバ中立國ニ対シテモ適用ヲ見ルコト能ハサルベシト答へ更ニ本條約ハ千八百五十六年四月十六日巴里宣言ノ欠ラ補ヒ而シテ其前文ハ以テ之ヲ茲ニ借ルニ足ルベク又本條約ノ目的ト精神ヲ序言中ニ明記シ且千八百九十九年七月二十九日陸戰法規慣例條約ニ於ケル如ク本條約ハ悉ク總テノ場合ヲ網羅シテ規定スルコトノ不可能ナリシコトヲ述ブベシト

然レドモ右ヲ以テ條約規定以外ノ事ハ全ク隨意勝手ニ決定スルコトヲ得ルモノナリト云フコトヲ得ズ國際法ノ一般原則ニ遵ハザルヘカラザルコトハ無論ノコトス本條約ニ屢々領海ナル語ヲ用ユ其意義如何審査会ハ之レニ何等ノ決定ヲ与ヘザリシ  
各國ハ中立ニ閔シ各自尙ホ精細ノ規則ヲ制定シ而シテ第二十七條ハ之ヲ各國ニ通知スルコトノ義務ヲ負ハシメタリ本條約ニハ諸法規 Prescription ナル語ヲ用キ同語中ニハ法律諸令諸規則ヲ含ム一般語ニシテ各國ガ其國憲法又ハ習慣ニ依リ定ムル処ノ規則ノ總テノ形式ヲ其中ニ網羅スルモノナリ

中立ニ閔スル各國カ定メタル諸規則ハ両交戦國ニ対シ公平ニ適用セラレザルヘカラズ而シテ此ノ公平ハ原則トシテ戰爭半ハニシテ諸規則ノ變更サル、ヲ許サス如何トナレバ若シ其變更カ不公平ノ感念ニ基カストスルモ變更ノ結果ハ豫期ニ違フヘケレバナリ然レドモ經驗上中立厳守ノ為メ更ニ新手段ヲ取ルノ必要ヲ見ルコトアリ例ヘバ両交戦者ノ軍艦ガ或港ニ碇泊スルヲ不便トスルコトアルベシ然ルトキハ中立國ハ碇泊ノ時間ヲ短縮シ又ハ入港ヲ拒ムコトヲ得ベシ故ニ序言ハ初々其變更ハ一層嚴重ナル手段ヲ取ルベキコトヲ豫想セシニ議論ノ末現案文ヲ採用スルニ決シタリ英國委員ハ在來ノ規則ヲ一層緩和ナス為メ其變更ヲ來タスコトハナカルベシト云ヒ露國委員ハ之レナシト云フベカラズト答へ投票ノ後日英両委員ハ其意見ニ依レバ中立厳守ノ為メ規則ヲ麥シテ之ヲ緩和セシムル如キ場合ヲ想像シ得ズ之ニ反シ英國派ハ常ニ一層嚴重ノ手段ヲ執ルコトヲ中立者ニ認ムルモノナルコトヲ明記シ置レンコトヲ希望シタリ  
本條約ハ一般的ノモノナル故一定ノ海洋ニ閔スル特別條約ニ何等ノ影響ヲ及ボスモノニアラズ

### （九）第九回総會議

- 一、國際紛争和平的處理條約修正ニ閔スル件
- 一、司法仲裁裁判所創設ニ閔スル宣言ノ件
- 一、強制仲裁々判ニ閔スル宣言ノ件
- 一、契約ニ基ク債務ノ弁済ニ對スル兵力制限ニ閔スル件
- 一、最終決議書及條約ニ閔スル編纂委員ノ報告

#### 第二回萬国平和會議々事録（第九）

千九百七年十月十六日午前十時三十分

#### 第九回総會議開会

議長ネリドフ閣下

第八回総會議々事録ヲ承認ス

議長ハ大要左ノ如キ演説ヲナセリ

各委員会ノ討議ハ茲ニ全ク終結ヲ告ゲ今ヤ第一委員会ハ其報告書ヲ本会議ニ提出スルニ至リタリ各委員会中第一委員会ノ審議ハ最モ困難ヲ極メ且モ多クノ時日ヲ要シタリ同会ノ審議ニ附セラレタルハ露國廻章中ニモアル如ク國際紛争平和的處理條約中仲裁裁判所及國際審査委員ニ閔スル修正問題ナリシ第一平和會議以来年ヲ経ルコト八星霜其間ニ得タル經驗ハ独リ右ノ修正ノ必要ヲ認メシメタルノミナラズ尙ホ之ヲ増補拡充シテ國際正義ノ活動範囲ヲ広大ナラシ

ハ只吾人ノ敬服ト謝意トヲ最モ熱心ニ茲ニ表彰スルニアルノミ（喝采）

九月二十一日ノ會議ニ於テ羅馬尼及墺地利洪牙利ノ委員ノ發意ニ依リ表彰セラレタル露帝陛下ニ対スル敬意ト謝意トハ之ヲ同陛下ニ伝奏セリ當時陛下ハ御旅行中ナリシカハ漸ク今日之ニ対スル勅答ヲ得ルヲ得タリ陛下ハ余ニ命シテ同陛下ノ謝意ヲ會議ニ伝フルト同時ニ陛下カ和平會議ノ成功ニ軽念セラル、コトハ過去将来共ニ異ナルコトナク陛下ハ常ニ喜ンデ自ラ其創意者タラレン同會議發展ノ為メ祐助ヲ賜ハルベキ歎慕ヲ伝ヘセラルモノナリ（喝采）

次ニ國際司法仲裁裁判所創設ニ關スル報告委員「スコット」氏説明ヲ始ム

同氏ハ先ツ第一回印刷ノ報告書中ニ誤謬アリタルコト此誤謬ハ第二回目ニハ正誤サレタルモ第一回ノ誤謬ハ決シテ深意アリテ為サレタルモノニアラズト弁解旁正誤ヲ為シタル後大要左ノ如ク述タリ

本日此ニ提出サレタル成案ノ説明ニ付今更蛇足ヲ添フルニ足ラズ諸君ハ既ニ其成行ニ付熟知セラル、処ナリ本案ハ第一分科会B審査会ニ於テ鄭重ノ審議ヲ重ネ其成案ハ第一委員会ニ於テ第二條ニ些少ノ修正ヲ加ヘタル後之ヲ可決シタ

リ吾人ハ今日ノ成案カ完全無缺ノモノニアラズルコトハ之ヲ知ル本案ニ於テ法廷ノ組織ニ関シ並ニ裁判官選定ニ關シ精細ノ規定ナキコトヲ此ニ注意スルノ必要ナシ是等ノ問題ハ審査会ニ於テ最モ慎重ニ審議サレタルモ遂ニ何等ノ結果ナキニ終リタリ此点ニ関シ遠カラズシテ各國間ニ和協ヲ見ルニ至ルベキハ吾人ノ希望スル處ナリ之レ茲ニ左ノ勅告案ヲ提出シテ諸君ノ贊同ヲ求メントスル所以ナリ

本會議ハ締約国ニ対シ此ニ添付スル司法仲裁裁判所創設

ニ關スル成案ヲ採用シ且裁判官選定ト裁判所構成トニ關

シ各國間ニ和協一致ヲ得ルニ及ヒテ直チニ之ヲ實行ゼン

コトヲ勅告ス

瑞西委員「カルラン」氏ハ本案ニ付可否ノ數ニ加ハラザルベキコトヲ宣言ス其主旨ハ十月九日第一委員会ニ於テ為シタル宣言ニ明カナリ即チ瑞西委員ハ此ニ提出サレタル如キ希望ニハ決シテ同意スルコトヲ得ザルヲ以テナリト

羅馬尼委員「ベルジマン」氏モ瑞西委員ト同趣旨ニ基キ「アブスタンション」スベキコトヲ宣言ス

墨国委員エスチバ氏ハ國際司法仲裁裁判所案ニ關シ同委員カ第一委員会ニ於テ為シタル宣言ノ此ニ再ビスルノ要ヲ見ズ只タ本案ニ賛成ノ投票ヲ為スニ足リ同委員ハ今後各國間

協議ノ際獨リ各國均等ノ原則ガ無視セラレザルノミナラズ

裁判官ノ選出及裁判所ノ構成ニ關シテハ此原則カ基本トセラルベキコトヲ主張スルモノナリト宣言シタリ

希臘委員「ランカベ」氏ハ十月十日第一委員会ニ於テ為シタル宣言ノ趣旨ニ依リ司法仲裁裁判所案並ニ之ニ伴フ希望

ノ投票ニ關シ可否ノ數ニ入ラザルベキコトヲ宣言セリ

ブラジル委員「ルイ・バルボサ」氏ハ仲裁裁判所ニ關スル希望即チ勅告案ニハ各國均等ノ原則カ確實ニ遵守セラル

ルヲ條件トシテ賛成スペシ即第一委員会B審査会及特別審

査会ニ於テ議決セラレタル如ク輪番ノ制ト外国選挙者ニ依テ裁判官ヲ選定スルノ制ヲ廢棄セサルヘカラズト宣言セリ

格魯比委員「ペレウ・トリヤナ」氏モ亦同様ノ宣言ヲナス

波斯委員「サマドカン」氏モ亦各國均等ノ主義ヲ原則トス

ベシトノ條件ノ下ニ條約案並ニ希望ニ賛成ノ投票ヲナスベシト云ヘリ

グアテマラ委員「チブルマンヤド」氏ハ各國均等ノ主義ニ関シブレジル委員ノ為シタル保留ニ贊同ス

ハイチ委員ユジクール氏ハ司法仲裁裁判所ノ創設ニハ贊成ナルモ同制度ハ各國均等ノ主義ニ則トラザルベカラズト云ヘリ

ユルグエー委員「バットル、イ、オルドネツ」氏モ亦然リ

支那委員陸徵祥氏ハ右ト同ジ保留ノ下ニ條約案ニ賛成ス

ボリヴィイ委員「クロー、ジオ、ヒマラ」氏ハ「ブレジル」委員ト同ジ保留ヲナス

ニカラグア委員「クリサントー、メジナ」氏モ亦同保留ヲナス

議長 會議ハ是等ノ宣言ヲ承認ス

次キニ司法仲裁裁判所創設ニ關スル希望ニ付採決ス

投票ニ加ハヽリシ四十四ヶ國中  
アブスタンション 白、韓、希、羅馬尼、瑞西、ユル

グエーノ六ヶ国

賛成三十八

ニテ可決

次キニ第一委員会ノ報告委員「ギヨーム」男ハ國際紛争平和的處理條約第一條ヨリ第二十四條マテヲ朗誦ス

瑞西委員ハ第二十四條第二項ニ關シ委員会ノ決議ニ基キ麥更ヲ要スル点アルコトヲ注意ス

報告委員ハ編纂委員ニ於テ修正スペシト答フ

報告委員第二十五條ヨリ第四十八條マデ朗誦ス

米国委員ハ同條ニ關シテハ既ニ千八百九十九年ニ於テ為シタル宣言ヲ繰返スベシトテ左ノ宣言ヲナセリ

本條約ハ決シテ北米合衆国旧来ノ政策ヲ變更セシムルニ足ルモノト解釈セラルベカラズ米国ハ未タ曾テ一ノ他ノ外國ノ政治問題政策及内政ニ干係シ容喙シタルコトナシ純粹ナル亞米利加問題ニ付テモ本條約ニ依リ亦旧来ノ態度ヲ変ズルモノト解セラルベカラズルハ勿論ナリ

希臘委員ハ本国政府ノ訓令ニ基キ第一委員会第七回總会ニ於テ本條ニ付テ為シタル保留ヲ解キ本條ヲ其儘承認スルコトヲ宣言セリ

ノモノト為スコトニ同意セザルヘシ蓋シ義務的トナストキハ直接又ハ間接ニ干涉ヲ誘發スペケレバナリ

故ニ土國政府ハ獨リ自カラ各場合ニ當リ前記ノ諸手段ニ依頼シ及之ヲ承諾スベキカラ決定スルモノトス此場合ニ締約國ハ政府ノ此行為ヲ以テ友誼的ニアラズト認メザランコトヲ要ス

前記ノ諸手段カ國內問題ニ適用ヲ見サルハ勿論ノコトトス

議長 会議ハ前記諸保留及諸宣言ヲ承認ス全案ニ付採決セシニ前諸保留ノ下ニ全会一致ヲ以テ可決セラレタリ

(國際司法仲裁々判所創設ノ件ニ關スル總會議報告書ハ委員会報告書ト同一ニシテ國際紛争平和的處理條約修正ノ件ニ關スル總會議報告書ハ同事件ニ關スル委員会報告ヨリモ簡単ナルヲ以テ共ニ之ヲ特別報告ニ讓ル)

議長ハ更ラニ契約ニ基ク負債償却ニ關シ兵力ヲ用ユルコトヲ制限セントスル條約案ノ投票ニ移レリ(國際司法仲裁々判所創設ノ件ニ關スル特別報告書ヲ見ルベシ)

希臘委員ハ左ノ宣言ヲナセリ

第一委員会第八回總会ニ於テ希臘委員ハ其本国政府ノ訓令ナキニ依リ本案ニ付キ保留ヲナシタリ然レドモ今ヤ該訓令到達セルニ依リ右保留ヲ解キ希臘政府ハ本案ニ賛同ス但本

日本委員都第ハ第四十八條第三項第四項ニ付キ為シタル保留ヲ維持セリ  
希臘委員ハ第五十三條第二項第一号第二号及之ニ關聯スル第五十四條第五十八條ニ付キ第一委員会第七回總会ニ於テ為シタル保留ヲ維持ス  
瑞西委員ハ第五十三條第二号ニ付キ保留ス蓋シ瑞西政府ハ之ヲ承諾スル能ハザレバナリト

報告委員ハ第四十九條ヨリ第九十四條マデ朗誦ス  
希臘委員ハ第五十三條第二項第一号第二号及之ニ關聯スル第五十四條第五十八條ニ付キ第一委員会第七回總会ニ於テ為シタル保留ヲ維持ス  
土國委員モ本條ニ付キ同様ノ保留ヲナス

瑞西委員ハ第六十五條及第七十八條ノ保留ヲ解ク  
瑞西委員ハ第七十六條第二項ヲ保留ス第二十四條第二項ニ關スルト同理由ナリ

日本委員ハ周旋居中調停國際審査委員及仲裁ノ制力各國間ノ平和維持ニ貢獻スル處大ナルモノアルヲ良知スルヲ以テ本案ノ全体ニ賛成ス然レドモ之ヲ以テ任意的ノモノト解スルニ依ル土國委員ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ以テ義務的

日本委員ハ第六十五條及第七十八條ノ保留ヲ解ク

瑞西委員ハ第七十六條第二項ヲ保留ス第二十四條第二項ニ關スルト同理由ナリ

土國委員ハ周旋居中調停國際審査委員及仲裁ノ制力各國間ノ平和維持ニ貢獻スル處大ナルモノアルヲ良知スルヲ以テ本案ノ全体ニ賛成ス然レドモ之ヲ以テ任意的ノモノト解スルニ依ル土國委員ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ以テ義務的

案第二項第三項ハ希臘王國ニ於テ現ニ存在スル諸條約及國法ニ關係ナカルベキモノトス

亞爾然丁共和國委員「ドラゴー」氏ハ左ノ保留ヲナセリ

一、一箇人ト外國政府間トノ通常契約ニ基ク負債ニ付テハ契約國ノ裁判手続ヲ悉ク終リタル後尙ホ満足ヲ得ザリシ特別ノ場合ニアラザレバ仲裁ヲ求ムルコト能ハズ

二、公債ノ場合ニハ如何ナル場合ニテモ亞米利加諸國ノ内ニ於テハ武力ヲ以テ侵入シ又ハ物件ノ差押ヲ為スコトヲ得ズ

秘魯委員ハ亞爾然丁委員ト同ジ保留ヲナス

格魯比委員モ亦同シ保留ヲナス

ベネズエラ委員ハ十月九日第一委員会ニ於テ述ヘタル如ク

米案第二項第三項ヲ承諾スル能ハズ依テ投票ニ加ハラザルベシト云ヘリ

瑞西委員モ亦投票ノ數ニ加ハラサルベシト云ヘリ其理由ハ十月九日第一委員会ニ於テ瑞西委員「ユーベール」氏カズベタル處ニ依リ明カナリ瑞西政府本件ニ付テハ何等關係セザルモノナルコトヲ茲ニ再言ス

ドミニカン共和国委員ハ本案ニ賛成スベシ但「又ハ承諾ノ

場合ニ於テ和解ヲ不可能ト為スカ云々」ノ句ニ付テハ其結果過度ニ瓦ル嫌ナキニアラズ殊ニ國際紛争平和的處理ニ関スル新條約第五十三條ニ右ノ場合ヲ豫見シ之ヲ妨止スル規定ヲ設ケタルニ當リ尙ホ右ノ文句ヲ見ルハ遺憾ナリ故ニ此文句ニ基ク條件ニ關シテハ保留ヲナスト云ヘリ

バラグエー委員ハ亞爾然丁共和国委員カ為シタルト同様ノ保留ノ下ニ本案ニ賛成スベシト云ヘリ

ニカラグア委員モ亦同様ノ保留ヲナセリ

グアテマラ委員ハ第一委員会ニ於テ為シタル保留ト之ニ伴フ異議ノ精神ハ飽マデ之ヲ維持スルモ保留ノ一致ヲ有ツ為メ右ト同一精神ニ依テ為サレタル亞爾然丁共和国委員ノ提出シタル保留案ニ贊同スト云ヘリ

エクアトル委員ハ本案ニ賛成ノ投票ヲ為スベシ但第一委員会ニ於テ為シタル保留ヲ維持ス

ユルグエー委員ハ第一委員会ニ於テ為シタル保留ヲ維持ス議長 會議ハ是等ノ保留ヲ承認ス

投票ノ決果左ノ如シ

投票數四十四

アブスタンション五、白耳義、羅馬尼、瑞典、瑞西、ヴエネズエラ、

余ノ三十九ヶ國ハ賛成ノ投票ヲ為セリ

投票數四十四  
賛成四十一

アブスタンション三、北米合衆國、日本、羅馬尼  
終テ獨國第一委員「マルシャル、ド・ビーベルスタイルン」

男ハ第一委員會議長仏國第一委員「レオンブルジョア」  
氏ニ對シ誠実ナル誠意ト激称ノ辭トヲ呈シ喝采ヲ博シタリ

次ニ露國委員「ド・マルテンス」氏ハ前會議ニ於テ「ブルージョア」氏ノ下ニ立テ共ニ勵キタルコトアリタル緣故ニ依リ同氏ニ對シ賛辞ヲ呈セリ就中氏ハ八年以来ヲ回顧シテ其

感想ヲ述べ最後ニ将来再ヒ此ニ相見エンコトノ希望ヲ述べ大喝采ヲ博シタリ

「ルイ・バルボサー」氏モ亦拉丁亞米利加ヲ代表シテ「ブルージョア」氏ニ賛辞ヲ呈シ其同氏ニ敬服スル  
英國委員サ一、エドワード・フライ氏モ亦ブルージョア氏ニ同情ヲ寄セ賛辞ヲ呈セリ（喝采）

議長モ亦「ブルージョア」氏ニ賛辞ヲ呈シ其同氏ニ敬服スル  
處ハ其雅量ト公平無私ト殊ニ其忍耐力ニアリト云ヘリ  
終リニ仏國委員デスツールネルドコンスタン男ハ大要左ノ如ク述ベタリ

議長ハ報告委員「ギヨーム」男ニ發言ヲ許ス此ニ於テ報告委員ハ強制仲裁々判ニ闕スル左ノ決議案ヲ朗讀セリ

委員会ハ同会ノ精神ニシテ又平和會議ノ精神タル和協互讓ノ精神ニ基キ次ノ宣言ヲ平和會議ニ提出スルコトヲ議決ス即チ

此宣言ニ依リ各國ノ代表者ハ各其可決ノ利益ヲ享有スルト同時ニ各代表者ニ於テ擧テ異議ナシト認ムル処ノ原則ヲ此ニ確認ス委員会ハ實ニ左ノ諸点ニ於テ相一致セリ即チ（一）強制仲裁々判所ノ原則ヲ確認スルコトニ於テ

（二）一定ノ紛争中殊ニ國際條約條文ノ解釈及ヒ適用ニ關スル紛争ハ何等ノ制限ヲ附セズシテ強制仲裁々判ニ附シ得ルモノナルコトヲ宣言スルコトニ於テ相一致シ又

今回右ノ趣旨ニ基キ一ノ條約ヲ締結スルコトヲ得ザリシモ當時表示セラレタル説ノ異同ノ範囲ハ單ニ司法關係ニ止マリ且四閱月ノ間世界各國一堂ニ會同擬議ノ結果独リ

意思ノ疎通ヲ増シ又互ニ相親シムノ情ヲ厚シタルノミナラズ永キ間共勵セル間ニ於テ仁道ノ共同幸福ニ闕シ甚タ高尙ノ感念カ發揮セラレタルコトヲ認ムルコトニ於テ相一致ス

投票ノ結果左ノ如シ

若シモ諸君ニシテ余ト同感ナレバ次ノ希望ヲ諸君ノ称賛ニ供セントス

會議ハ海牙條約ノ各締盟國カ建築技師ト協議シテ建築材

料又ハ裝飾品若クハ其國品ノ精ヲ代表スベキ精確ナル美

術品ヲ寄贈シテ善意ト輿望ノ彰表タル平和宮ガ各國ノ產

物ニ依リ構造セラル、ニ至ルベキコトヲ希望ス（喝采）

議長、余ハ右ノ希望採用ヲ會議ニ勸告ス現ニ之ニ對シテ表

彰サレタル喝采ハ各方面ヨリ之ニ贊同ノ意ヲ表シタルモノ

ナルコトハ明白ニシテ更ニ採決ノ要ナシト認ム（喝采）

此ニ於テ議長ハ編纂委員会報告委員「ルノー」氏ニ発言ヲ許ス

「ルノー」博士ハ大要左ノ如キ演説ヲナセリ

余ハ茲ニ第三回總會議ニ於テ組織セラレタル編纂委員会ノ名ニ於テ一ノ報告ヲナサントス然レドモ報告書調製ノ遑ナカリシヲ以テ自カラ此ニ説明セントスルモノナリ説明ハ少シク冗長ニ瓦ルベキモ編纂委員会ノ事業ヲ紹介スルニ付キ必要止ムヲ得ザルコトト信ス故ニ余ハ諸君ニ豫メ忍耐ト寛容トヲ請ハントス蓋シロ頭ノ説明ハ書類ノ如ク簡単ナルコト能ハザレバナリ編纂委員会ノ事業カ諸君ノ信任ヲ博シ時トシテ其信任ガ過度ナリシコトハ諸君ニ於テモ詳悉ノコト

ト雖トモ而カモ其事業ノ効果ハ之ヲ無視スルコト能ハズ之レ條約案ノ數ニ依テ見ルモ明カナル処トス

凡テ平和會議ノ協賛ヲ經タルモノハ之ヲ條約ト名ツケ委員會丈ノ決議ニ止マリタルモノニ種々ノ名称ヲ附ス就中規則ナル語ハ國際規約ニハ不適當ト認メラル

千八百九十九年ノトキノ如ク最終決議書ノ調印ニハ猶豫ヲ与ヘ今回ハ千九百八年六月三十日迄之レニ調印ノ権利ヲ与フ右ノ猶豫ハ千八百九十九年ノトキヨリモ永シ蓋シ會議ノ參列ノ國數多ケレバナリ然レドモ余ハ箇人トシテ各國ハ可成此猶豫ヲ利用スルコト少クシテ今日ニ於テ既ニ最終決議書ニ調印スル國ノ可成多カラシコトヲ希望ス最終決議書ノ外ニ特別條約アリ宣言書アリ決議書アリ希望書アリ

宣言書ハ例ヘバ強制仲裁々判ニ闕スルモノ、如ク決議書ハ第三和平會議開会ノ件ニ闕スルモノ、如シ

各條約ニ付キ説明スル前ニ余ハ條約ノ加盟ニ闕シ少シク説明セン各國ハ千九百八年マデニ調印シ得ルノ権利ヲ有ス併シ此問題ハ寧ロ當會議ニ参列セザリシ國ニ闕スルモノトス本問題ニ付テハ三ノ解決方法アリ千八百九十九年ニハ門戸開放ノ主義ヲ取リタリ但國際紛争平和的處理條約ハ例外トス之レ本年六月十四日ニ於テ千八百九十九年ノ會議ニ参列

ナラン如何トナレバ委員会又ハ審査会ニ於テ少シク解決ニ困難ヲ感セシ場合ニハ之ヲ編纂ニ譲ラレタルコトニ依リ明カナレバナリ

吾人ハ諸君ノ信任ニ報ヒ其委任ヲ果タスニ付最モ細心事ニ從ハンコトヲ期シタリ

吾人ハ編纂ニ臨ミ精確ト明了トラ期シ諸君ニ依テ既ニ議決セラレタル点ハ其意味ニ変更ヲ來タスコトナクシテ編纂ニ從事シタリ吾人ノ事業ハ最モ慎重ヲ要シ其「フリーゲ」、「スコット」、「ランマシヨ」、「ブジナード」及「アッセール」

諸氏ヨリ成リシ審査会ハ十四回ノ會議ヲ重ネ依テ以テ成リタル編纂ハ四回ノ編纂委員会ノ總会ノ精査ヲ經テ決定シタリ

余ハ進ンテ諸君ガ調印セントスル最後決議書ノ秩序ニ付キ之ヲ説明スベシ吾人ハ範ヲ千八百九十九年ノ最後決議書ニ取リタリ先ツ各國委員ノ姓名ヲ列記シ各條約ノ前文ハ千八百九十九年ノ例ニ倣ヒタリ尤モ多少ノ修正ヲ加ヘタリ蓋シ千九百七年ニハ贊同國ノ數ヲ増シ且事ハ第二回和平會議ニ屬セルヲ以テナリ

今回和平會議ノ事業ニ付テハ多少世論アリシヲ免レザリシ

セザリシ國ヲシテ一ノ議定書ニ調印セシムルコトヲ千八百九十九年條約ノ締約國ニ於テ承諾セシ所以ナリ蓋シ之レニ依リ右諸國ヲシテ千九百七年ノ會議ニ参列スルコトヲ得セシメンカ為メナリシ今日ニ於テハ全ク右ト趣ヲ異ニセリ世界ノ大多数ノ國ハ此處ニ代表サレ最小部分ノ國カ参列セザリシナリ且常設仲裁々判所ニ闕シ千八百九十九年ノ條約カ規定シタル條規ハ吾人毫モ之ヲ変ズルノ意ナカリシ国際審査所條約第五十三條ハ同第十五條及其附表ニ豫定サレタル國々ニ対シ後ニ至リ同條約ニ加盟ノ権利ヲ保留ス此制限的規定ハ全案ノ釣合ヲ失ハザラシメントスル為メニヘ必要ナリトス其他ノ條約ニ闕シテハ三説アリ  
一、千八百九十九年ノ條規ノ如ク條約ハ公開ニシテ常ニ調印ノ権アルコト  
二、前會議ニ招請セラレタル國ニ加盟権ヲ限ルコト即チ條約閉鎖主義トス  
三、千九百六年ジユネーヴ條約ノ制ニ依ルコト（第三十一条）  
即チ條約ハ原則トシテ閉鎖サル然レドモ加盟ノ通知アリタル後一ヶ年ヲ経テ締約國ヨリ異議ノ申出ナカリシト

キハ締約国外ノ國モ之ニ加盟スルコトヲ許サレタリ但通  
知後一年間何等ノ回答ナカリシモノハ點諾ト認メラル  
右三説ニ関シ種々議論アリタル末第三説ハ之ヲ可トスルモ  
ノアリタリ其説ク處ハ原則トシテ門戸閉鎖主義ニシテ自由  
ニ進入ヲ許サザルモ其仲間ニ入ラントスルトキハ來テ其門  
戸ヲ敵キ其閑門ヲ乞ハザルベカラズトセリ之ニ反シ門戸開  
放主義ハ和蘭政府ニ或ル不便ヲ与フト云ヘリ蓋シ一国ノ位  
地未確定ノ場合ニ同國ヨリ加盟ヲ申込ル場合其位地尙甚タ  
曖昧タルヲ免カレザレバナリ然レドモ編纂委員会ニ於テハ  
門戸開放主義ヲ取リタリ其理由左ノ如シ

一、制限ノ制ハ千八百九十九年ノ自由主義ニ後ル何トナ  
レバ千八百九十九年ノトキハ何等此ノ如キ制ヲ取ラザ  
リシナリ

二、審査会カ門戸開放主義ヲ適用セントスル條約ハ一般  
的ノモノニシテ或一定ノ國ノ間ニ締結セラレタル條約  
ノ如ク相互的ノモノニアラズ殊ニ宣言ノ如キニ至テハ  
最モ然リトス故ニ可成多數ノ國ニ依テ加盟サレ以テ萬  
國法ノ如キモノヲ構成スルニ至ランコトハ甚タ願ハシ  
キコトナリ

三、一國ニ反対シテ新興國ノアリタル場合此新興國ガ新

ニ加盟セントスルモ其反対國ハ決シテ之ヲ許サザルベ  
シ尤モ之レガ為メ外交上ノ手続ヲ尽スコトヲ得ルトス  
ルモ編纂委員会ノ多數ハ外交上ノ手続ヲ省カシムルコ  
トヲ得ルヲ以テ得策トセリ

第二ノ一般問題ハ條約適用ノ範囲問題即チ之レナリ編纂委  
員会ハ條約ハ締約國間ニアラザレバ義務的効力ヲ有セズト  
ノ原則ヲ採レリ然レドモ戰争ニ關スル條約及ビ中立國ニ関  
係スル規定アル條約ニ付テハ更ラニ議論アリ締約國タル交  
戰國及中立國ニ對シ條約カ効力ヲ有スル為メニハ交戰國ハ  
相互締約ナラサルヘカラズヤ此問題ハ國際審檢所第十五  
條ニ依リ解決セラレタリ他ノ條約ニ付テモ同規則カ適用セ  
ラルベシ但開戦ニ關スル條約ハ此ノ限リニアラズ  
故ニ可決サレタル一般原則ハ左ノ如シ

現條約ノ規定ハ締約國ノミニシテ且両交戰國トモ締約國タ  
ル場合ニ限り適用サル、モノトス其理由ハ一方ノ交戰國ニ  
負ハゼル義務ヲ他交戰國ニ負ハスルノ不理ナルコト又  
其適用ヲ見ル為メニ條約ニ贊同ノ國數ヲ容易ニ増加スルノ  
便利アルトニ基ク

余ハ更ニ進ンデ儀式局長ト協議ノ上定メタル最終決議書ニ  
關スル議定書ニ付キ少シク説明スル處アルベシ千八百九十九

九年ノ諸條約ノ末尾ニアル最後條項ニ對シ多少ノ修正ヲ加  
ヘタリ此修正ハ第一批准ノ手続ニ關スル即チ過チラ避ケン  
為メノ批准ノ保管ニ對シ一ノ保管記録ヲ作ル代リニ數多  
ノ保管記録ヲ作ルコトト為セリ贊同ニ付テハ何時ヨリ効力  
ヲ生ズベキヤラ決スルコトヲ要シタリ審査ノ末贊同ノ効果  
ハ之ヲ受取リタル日ヨリ生ズルコトト為シタリ  
又「ド・ホグンドルプ」男ト協議ノ上條約ニハ捺印ヲ廢シ  
タリ之レ條約ハ最終決議書ニアラザルヲ以テナリ  
余ハ更ラニ將サニ調印サレンタルスル四條約ニ付キ説明スベ  
シ

第一ハ陸上戦ニ於ケルジユネーヴ條約ノ原則ヲ海戦ニ應用

セントスル條約ナリトス同條約ノ前文ハ甚タ簡単ナリ編纂  
委員会ハ第十三條ニ修正ヲ加ヘタリ之レ獨り形式ニ止マラ  
ズ故ニ茲ニ之ヲ詳説シテ同委員会ノ責任ヲ解除セントス委  
員会ハ第十三條ハ余リ絕對的ニ過グルト認メタリ仁道ニ依  
リ傷病者ヲ収容シタル中立船ニ其傷病者ヲシテ今後戰闘  
ニ参加セシメザラシムル如キ義務ヲ負ハシムルハ事實上困  
難ナリト考ヘラル故ニ此ノ点ニ關シ余リ過度ノ義務ヲ負ハ  
シムルトキハ却テ仁道ニ妨ケアルヲ測ルベカラズ是レ第十  
三條ニ此義務ニ對シ一定ノ制限ヲ加ヘタル所以ニシテ之レ

テハ交戦国ガ有スルト同シ抑留ノ権能ヲ中立国ニ与ヘ之レニ依テ以テ多少ノ報償ヲ与ヘタリ

最後ニ來ルハ海戦ノ場合捕獲ノ権利執行ニ付キ一定ノ制限ヲ附スル條約ナリ第四委員会ハ之ニ閲シ五ノ成案ヲ吾人ニ送レリ吾人ハ初メハ一條約中ニ含蓄セシムルコトヲ得ト考ヘシニ後ニ至リ其不可能ナルコトヲ發見セリ即チ保留ノ多カリシモノハ之ヲ別案トシ他ノ三案ハ全会一致又ハ些少ノ保留ノ下ニ可決セラレタルモノナルヲ以テ之ヲ一括シタリ

三案共ニ其精神ニ於テ相一致スルヲ以テ其表題モ三案共之ヲ含ムカ如キモノヲ選ヒタリ余カ殊ニ茲ニ諸君ノ注意ヲ乞ハントスル處ハ郵便信書ニ閲スル章ナリ同案ハ初メ三項ヨリ成リシカ後ニ至リ第三項ヲ廢棄スルコトヲ得テ中立

国交戦国ノ船舶ニ共通ノ條項ヲ作製スル点ニ於テ大ニ編纂ニ便ヲ得タリ且會議ニ依テ議決サレタル條文ニハ封鎖ノ場合ニ於ケル例外ニ閲シ不明ノ点アリシカ今ヤ之レアルコトナシ余ハ是等修正変更ノ諸條約ハ諸君ノ賛成ヲ得ンコトヲ希望スルモノナリ（大喝采）

議長ハ會議ノ名ニ於テ第一委員会ノ報告委員及書記ニ対シ感謝ノ意ヲ表シタリ  
希臘委員ハ前総會議ニ於テ海戦ニ於ケル中立国ノ権利義務

#### （一〇）第十回総會議

##### 一、最終決議書説明ニ閲スル件（統キ）

##### 一、確定條約文説明ニ閲スル件（統キ）

##### 一、建議其他請願等ニ閲スル特別審査会報告ノ件

##### 第二回萬国平和會議々事録（第十）

千九百七年十月十七日午後五時二十  
分第十回総會議開会

議長「ネリドフ」閣下

議長ハ「ルノー」氏ヲ招キテ最終決議書及諸條約ニ閲シ説明ヲ統ケシム

「ルイ、ルノー」氏ハ配布セラレタル最終議定書ノ形式ト又印刷上ノ正誤ニ付注意スル所アリ且最終議定書ト諸條約トニ調印シ得ルモノハ全權委任状ヲ有スル全權委員ノミットスト云ヘリ

議長ハ「ルノー」氏ノ注意ニ付キ更ニ會議ノ注意ヲ喚起シタリ

「ルイ、ルノー」氏曰ク平和會議ハ千九百七年十月十八日ヲ以テ閉会スベシ故ニ最終決議書及諸條約ノ日附ハ右ノ日附ヲ用ユベシ尤モ調印ハ千九百八年六月三十日マテ之ヲ為スコトヲ得ルモ余ハ一日モ速カニ可成多数ノ國カ之ニ調印

ニ閲スル條約ニ付キ為シタル保留ヲ解キ全然之ニ賛成スル旨ヲ述ベタリ

議長 會議ハ右宣言ヲ承認ス  
正午四十五分散会

##### 参照

一、「ギヨーム」男ノ國際紛争平和的處理條約修正ニ閲スル委員會報告及總會議報告

二、「スコット」氏ノ司法仲裁々判所創設ニ閲スル委員會報告及總會議報告

三、第九回総會議々事録

四、第一委員會議事録及附屬書一切

五、第一委員会諸審査會議事録及附屬書一切

六、國際紛争平和的處理條約修正ノ件ニ閲スル特別報告（各問題ノ部ニアリ邦文）

七、司法仲裁々判所創設ノ件ニ閲スル特別報告（各問題ノ部ニアリ邦文）

八、強制仲裁々判ニ閲スル特別報告（同上）

九、ドラゴー問題ニ閲スル特別報告（同上）

セソコトヲ希フモノナリ最終決議書ノ外吾人ハ十四ノ條約ト一ノ宣言ト五ノ希望トヲ有ス五希望中第一ニ來ルモノハ

司法仲裁々判所創設ニ閲スル條約採用ニ閲スル希望ナリトス

「カルラン」氏曰ク本希望ハ全会一致ヲ以テ決議セラレタルモノニアラザルコトヲ茲ニ注意ス之ニ閲シ數多ノアブス

タンシヨンアリタリ瑞西委員モ亦其一ナリ今回ノ最終決議書ハ千八百九十九年ノ例ニ依ラザルヲ以テ前記ノ成行ハ投票ノ記録ニ證示シ置クノ必要アリ依テ瑞西委員ハ此證示ノ

下ニ於テ最終決議書ニ調印スベシ且右ノ證示バ當議事録ニ之ヲ記載シ置カレントコトヲ望ムト

第二ノ希望即チ交戦者ト中立国トノ間ニ商業上工業上並ニ和平的関係ノ維持ノ確保ヲ各國ニ勧告スル希望ハ其提案者ノ同意ヲ以テ体裁上些少ノ変更ヲ加ヘタリ  
第三希望即チ外國領土内ニアル外国人ニ課スベキ軍事上ノ負担ニ付條約締結ニ閲スル希望ハ何等ノ変更ナシ

第四、次ノ會議ニ於テ海戦ニ於ケル法規慣例ノ規則ヲ定メントスル希望ハ体裁上変更ヲ加ヘタリ

第五ノ希望ハ最終決議書中ニ入ルベキ程ノ政治上並ニ法律上ノ性質ヲ有セス之ヲ議事録ニ記載シ其実行ヲ期スルタメ

會議ノ議長ヨリ「カルネギー」協会ノ議長ニ對シ此希望ニ閲シ注意シ置クヲ必要トス。議長ハ此最後ノ希望ニ答フル為メ各國政府ニ建議センコトヲ各國委員ニ求メタリ。

「ルイ、ルノー」氏尙ホ第三平和會議ノ会同ニ閲シ一ノ最終議決書アルコトヲ述べ此ノ議決書ハ遺言的ノモノナリ。右ニテ千九百七年十月十八日ノ最終議決書ハ完結スルモノニシテ今ヤ各國委員ノ調印ヲ待チツ、アルナリ。

余ハ進ンデ十四箇ノ條約ノ説明ニ入ルベシ。

第一ハ國際紛争平和的處理規則ニ閲スルモノニシテ之ニ閲シ編纂委員会ハ二ノ修正ヲ加ヘタリ千八百九十九年ノ條約ハ當時未タ成存セズ且後チニ至リ其設定ヲ要シタリシ制定ニ閲シ規定シタリ編纂委員会ハ是等ノ條項ニ対シ今日成存スル制度ニ基キ修正ヲ加ヘタリ是等ハ寧ロ体裁ノ問題ニ屬ス。

第二ノ條約ハ所謂ボーラー提案ト称スルモノニ外交的形式ヲ与ヘタルニ過キズ本條約ハ二ノ異ナリタル提案ニ基キ二條ヨリ成ル。

戰爭開始ニ閲スル條約ニ付テハ其適用範囲ニ付キ諸君ノ注意ヲ乞ハントス。第二條適用ノ範囲ニ付テハ特種ノモノアリ一般原則トシテ交戰國ハ相互的ノ主旨ニ從ヒ交戰國ノ權利

底電線切断ノ為メ中立地ニ入ル交戰者ニモ適用ヲ見ルモノトス。

「占領地又ハ敵地」ナル語ヲ用キザリシハ蓋シ敵ナル語ハ中立地占領ノ場合ニアラザレバ説明シ能ハザルヲ以テナリ而シテ此ノ如キ常態ヲ失セル場合ハ之ヲ條約中ニ掲クルコト能ハザルナリ。

開戦ノ初メニ於ケル敵商船ノ取扱ニ閲スル條約ニ付テハ何等謂フベキコトナシ之レ所謂恩恵期間ニ閲スル規則ニシテ第二條第二節ハ單ニ立法上ノ理由ニ依リ之ヲ変更スルコトヲ得ザリシ。

商船ヲ軍艦ニ変更スル條約ニ閲シテハ單ニ体裁上ノ変更ヲ為シタルナリ而シテ前文ハ可成簡明ニシテ條約的ノ形式ヲ採リタリ。

触發自働水雷ニ閲スル條約ニ付テハ根本ニ変更ヲ加ヘタルモノアリ。

第七條ハ少シク曖昧タリンガ為メ之ヲ変更シテ一層明瞭ナラシメ議長並ニ報告委員ノ同意ヲ得タリ。

條約ノ期間ニ付テモ同様ノ変更ヲ加ヘタリ。

海軍力ヲ以テスル砲擊ニ閲スル條約ハ前平和會議ノ遺言ヲ實行シタルモノナリ。

二ノ異ナリタル規則ヲ採用シ第一項ニハ一般原則ヲ定メ第ニ項ニハ交戰國ノ一方カ締約國ナラザルモ他ノ一方ノ交戰國力締約國ナルトキハ同締約國ナル中立國ニ對シテ適用アルモノトセリ之レ交戰國ハ開戦ヲ中立國ニ通知シ又中立國ハ可成速カニ開戦ヲ知ルヲ利益トスルニ基ク。

陸戰ニ於ケル法規慣例ニ閲スル條約ハ千八百九十九年條約ノ修正ナリ從テ吾人ハ千八百九十九年ノ條約ノ前文ヲ採用セリ。

同條約ニ附加ノ條項ハ修正中重要ノモノナリ獨乙ノ請求ニ依リ總會議決議ノ條約ニ多少ノ修正ヲ加ヘタリ即チ本規則侵犯ノ場合ニ於ケル賠償ノ件ナリ。

塘馬ノ委員ハ第五十三條ノ修正案ヲ提出シ通過ヲ得タリ右修正ハ之ヲ第五十四條ト為シタリ從テ原第五十四條ハ消滅シタリ蓋シ吾人ハ之レガ為メ條數ノ変更スルコトヲ欲セザル処ナリソ第五十四條中ニハ塘馬案中ニアリシ「或ハ敵ノ」ナル語ヲ欠ケリ吾人ハ此ニ所謂「占領」ナル語ハ最モ広義ニ之ヲ解釈ス右ハ獨リ敵地ニ侵入シ又ハ上陸セル一方ノ敵軍ノ現在ノミヲ云フニ止マラズ又隨時不定ノ占領及海ト答フ。

「ハゲルップ」氏ハ右ノ解釈ニ付テハ提案者タル仏國委員ヲ除キ他ニ優リタル解釈者ナカルベシト云ヘリ。

「ルイ・ルノー」氏ハ更ニ語ヲ統ケテ海戰ニ於ケル中立國ノ権利義務ニ閲スル條約中前文ニ付テハ何等ノ異議ナシ但第九條ニ「沖合」ノ字ヲ附加スル必要アリタリ之レ蓋シ不注意ニ基ク漏泄ナラン。

右ニ條約ノ説ハ終リタリ之レヨリ輕氣球上ヨリ投射物及爆裂物ノ投下ヲ禁ズル宣言ニ閲シ多少ノ説明ヲ為スベシ千八百九十九年ノ宣言ハ實際ニ於テ既ニ其効力ヲ失セリ蓋シ其

有効期間ハ五年ナリシヲ以テナリ今回ノ宣言ハ英國提案ニ基キ第三回平和會議ノ終リマデ繼續ス  
本宣言ニ對シテハ贊成二十九不贊成八、アブスタンション七ナリシコトハ諸君ノ記憶スル処ナラン此ノ如キ事情ノ下ニ於テ何故ニ同宣言ガ最終決議書中ニ挿入セラル、ヤニ付或ハ疑ナキヲ保セズ之ヲ最終決議書中ニ入ル、ニ付テハ勿論不贊成國委員ニ對シ右宣言ガ最終決議書中ニ掲グルモ異論ナキヤヲ質ダシタル上ニテ之ヲ記セルナリ

國際捕獲審檢所ノ場合ニ於テモ亦然リシナリ然レドモ昨日説明中之ヲ謂フヲ忘レタリ

國際捕獲審檢所ニ付テハ尙ホ一ノ諸君ニ告ク可キコトアリ同條約第十九條ニ依レバ同審檢所議長及副議長ハ毎三年ニ改選サル、規定ナリ然ルニ毎二年又ハ毎一年ニアラザレバ裁判官ヲ出ス能ハザル國ハ議長及副議長ノ選舉ニ加ハルコト能ハザルコト、ナリテ公平ヲ欠クコトヲ注意スルモノアリタリ甚タ理アルガ如シ故ニ寧ロ右年限ヲ廢スルコト可ナルベシト考フ之レ吾人ガ國際捕獲審檢所條約ニ於テ右期限ヲ廢シタル所以ナリ尤モ議長及副議長就職ノ年限ニ關シテハ審檢所自カラ之ヲ定ムルコトヲ得ベシ

右ニテ説明ノ全体ヲ終リタリ（喝采）

キ「イベリヤ」亞弗利加亞米利加鐵道ノ建設ヲ企画セリ又書籍ハ今ヤ三百卷ノ多キニ達シタリ

是等ノ書面ト云ヒ書籍ト云ヒ總テ皆吾人事業ニ對スル熱心ナル囑望ノ表彰ニアラザルハナシ之ニ對シ吾人ハ満腔ノ感謝ヲ表スルモノナリ之レ独リ吾人ノ事業ニ對シ同情ヲ寄セラレタルノミナラズ又之レニ依リ益吾人ヲシテ感奮興起以テ平和ノ為メ尽力セシムルモノアレバナリ

終リニ「ボーフォール」氏ハ其審査会同僚ニ對シ謝意ヲ述ベタリ（大喝采）

前總會議事錄ハ承認サル

午後六時半散会

參照

一、第十回總會議事錄

一、最終決議書

一、諸條約文宣言文及諸希望文

（一一）第十一回總會議

第一回萬国平和會議々事錄（第十一）

千九百七年十月十八日午後三時四十

五分第十一回總會議開会

本審査会ハ去月二十日以来引続キ各方面ヨリ各団体ヨリ又ハ一箇人ヨリ本會議ノ事業ニ関シ統々書面ヲ受取りタリ中ニハ本會議審議事項ニ亘ルモノモ數多アリタリ就中神戸大阪京都等ヨリ提出ノ決議案「ブダベスト」ノ國際赤十字社其他英米諸協会ヨリ提出ノ請願書及奈良ノ平和協会米伊西仏等ノ諸協会ヨリ提出ノ國際紛争豫防ノ希望等ハ之ヲ此ニ紹介スルノ要アリト認ム此他一私人中ニハ「ゼノア」國際弭兵協会會頭「パオロ・カイソン」氏「ドランスヴァール」ノ「シャテラン」氏東京板垣伯等アリ板垣伯ハ其戰爭ノ原因ニ關スル研究ヲ送付シ來レリ又タ「ド・カマラザ」侯ノ如キハ歐羅巴ト南亞米利加トヲ近接セシムベ

リ

議長 明日最終決議書ニ調印シ明後日諸條約ニ調印スヘシ「ルイ・ルノー」氏ハ會議ハ最終決議書ニ關シ採決スル必要アルベント云ヘリ投票ノ結果四十四ヶ國中瑞西ノ司法仲裁裁判所創設ニ關スル希望ニ付保留セルノミニテ他ハ全会一致ヲ以テ最終決議書ヲ可決シタリ

次ニ副議長「ボーフォール」氏ハ祝文建議請願等ニ關スル特別審査会ノ結果ヲ報告スルタメ大要左ノ如キ演説ヲ為セ本審査会ハ去月二十日以来引続キ各方面ヨリ各団体ヨリ又ハ一箇人ヨリ本會議ノ事業ニ關シ統々書面ヲ受取りタリ中ニハ本會議審議事項ニ亘ルモノモ數多アリタリ就中神戸大阪京都等ヨリ提出ノ決議案「ブダベスト」ノ國際赤十字社其他英米諸協会ヨリ提出ノ請願書及奈良ノ平和協会米伊西仏等ノ諸協会ヨリ提出ノ國際紛争豫防ノ希望等ハ之ヲ此ニ紹介スルノ要アリト認ム此他一私人中ニハ「ゼノア」國際弭兵協会會頭「パオロ・カイソン」氏「ドランスヴァール」ノ「シャテラン」氏東京板垣伯等アリ板垣伯ハ其戰爭ノ原因ニ關スル研究ヲ送付シ來レリ又タ「ド・カマラザ」侯ノ如キハ歐羅巴ト南亞米利加トヲ近接セシムベ

左レバ此際吾人ノ成シタル事業ノ略史ヲ茲ニ述ブル亦無用ノコトニアラザルベシ  
開会ノ際余カ本會議ニ於テ吾人ノナスベキ処ニ付諸君ニ告ゲタル二点アリ即チ各国間ノ戦争ヲ豫防シ若シ止ムナク戦争破裂ノ場合ニハ戦争ノ影響ヲ直接間接ニ受クベキ人ニ対シ可成其戦争ノ害ヲ蒙ルコトヲ寡ナカラシムルノ方法ヲ研究スルコトニアリシ

第一平和會議以来八星霜ヲ経其間政治上ノ事変ハ前記第二問題ニ対スル研究ニ充分ノ材料ヲ与ヘタリ又千八百九十九年ニ於テ作ラレタル陸戦ニ関スル條規ノ不完全ナルコトハ最近八年間ニ於ケル戦争ニ依リ明示セラレタリ同時ニ又海戦及中立者ノ位置ニ関シ並ニ戦争ヲ生ズルニ至リタル條件ニ甚ク密接ナル關係ヲ有スル事情ニ関シ一定ノ規則ヲ設クルコトノ必要ヲ感シ此困難ニシテ専門諸問題ノ解決ニ任シタルハ第二第三及第四委員会ナリシ殊ニ第三第四委員会ハ特別ニ複雜問題ヲ担任シ其結果ハ今ヤ吾人ノ机上ニアリ此結果ヲ得タルハ各委員ノ互譲ノ精神旺ンナリシタメカ又ハ各委員會議長ノ敏腕ハ善ク快刀亂麻ヲ断ツノ概アリタルニ由リタルヤハ未タ俄カニ之ヲ判ツコト能ハズ

本會議事業中最モ注目スベキハ海戦ニ関スル規則ト及海戦

タ美ニシテ而カモ之レガ適用ニ關シ萬難途ニ横ハリタルモノアリシヲ如何セン之ニ反シテ國際審査所問題ハ遂ニ成功シ我平和會議ノ一ノ好紀念トシテ永ク後世ニ伝ハルベシ此制度ハ実用ニ適シ且ツ直接戦争ノ範囲制限ニ關シ与テ大ニ力アルベシ

尤モ常設仲裁々判所及強制仲裁々判ニ關スル吾人ノ労ハ全ク効ナキニ終リタリト云フベカラズ第一委員会及其審査会ノ議事録ハ將來此問題ニ關シ好材料ヲ供給スペシ然レドモ平和維持ノ保障ハ是等諸制度ノ研究ニアラズシテ各國ノ利害ヲ熟観シ有無相通シ相互間ノ關係ヲ益深厚ナラシムルトキハ有形無形共ニ戦争破裂ノ妨遏上大ニ貢献スル処アルベク而シテ第二平和會議ノ本旨ハ此ニアルモノト信ズ第二平和會議ハ實ニ此点ニ關シテハ仁道上未タ曾テ見ザリシ一大進歩ヲナシタリ世界各國ノ代表者カ世界ノ幸福増進ヲ議スル為メ一堂ニ相会シタルハ今回ヲ以テ初メトス就中拉丁亞米利加諸國ハ國際政治上嶄新ナル好材料ヲ与ヘ（喝采）中央亞米利加諸國ハ其国内ノ情勢歐洲トノ關係ヲ親シク吾人ニ紹介シ以テ其獨得ノ諸制度ノ下ニ發達セル此新世界ノ諸國ハ如何ニ特別ノ政治關係ヲ有スルカラ表示セリ（喝采）

而シテ其平和會議ニ与ヘタル効果又頗ル大ナルモノアリ

ニ於ケル中立人ノ位置ニ關スルモノ即チ之レナリ此点ニ関シ一ノ法規ヲ定メタルハ実ニ今回ヲ嚆矢トス故ニ仮令ヒ此法規設定ハ其端緒ニ過ギズトスルモ基礎既ニ成レリ平和會議ニ關シ後ニ來ルモノ必ズヤ吾人ノ創業ニ対シ多トスル処ナカラザルベカラズ

各委員会ニ於ケル各委員ノ和衷協同ノ精神ハ今更ラ之ヲ茲ニ喋々セザルベシ尤モ門外漢ハ屢吾人ヲ以テ吾人ノ審議ニ附セラレタル各問題ニ關シ眞理ト理想トヲ求ムルモノナルガ如クニ誤解スルト雖トモ吾人ハ政府ヨリ派遣セラレ各其國ノ利益ヲ主トセル訓令ヲ奉シテ行動スルモノナリ吾人々類ノ幸福ヲ希フノ觀念ハ素ヨリ吾人ヲ指導スト雖トモ之レガ適用ニ付テハ先ツ吾人政府ノ意思如何ト省ミズンバアルベカラズ然ルニ各國ノ利害ハ根本的に反対スルコトアリ其之ヲシテ相融和シ以テ正義公道ノ理ニ適ハシムルモノハ前ニ云ヘル如ク和衷協同ノ精神ノ賜トス

會議ニ於テ求メ得タル戦争豫防ノ方法ハ其結果寧ロ微々タル觀アリ之レ蓋シ之ニ關シ經驗ヲ積ムコト少ナク従テ之レガ解決ノ急ヲ見ザルノミナラズ之レガ解決ニ貢献スベキ実践上ノ材料ニ乏シキヲ以テナリ此問題ニ關シ最モ重要ナリシ司法仲裁々判所及強制仲裁々判ノ制度ノ如キ理論上ハ甚

故ニ吾人ハ世界合同ニ關シ平和ノ維持ニ關シ何ノ為ス処ナカリントノ吾人ニ対スル非難ニ対シ毫モ疚シキ処ナシトス素ヨリ吾人ガ将来ニ於テ為スペキモノ甚ク多シ先ツ各国民ヲシテ其國風民習ヲ害セズシテ互ニ相親シミ互ニ相敬マハシムルタメ之ヲ教育セザルベカラズ彼ノ平和會議ノ為メニ興リタル一新紙上ニ於テ並ニ吾人ノ周囲ノ人士ヨリ此点ニ關シ各國政府ニ勧告センコトヲ求メタル処ノモノハ世界要路ノ士ガ依テ以テ之ヲ利スルニ足ルモノアルヲ見ル兎モ角第二平和會議ノ事業ニ対シ是非ノ評ヲ試ミントスルハ時期尙ホ早ヤシト云ハザルベカラズ彼ノ平和會議新聞ハ會議ノ書記官長ヨリ常ニ得タル通信ニ基キ吾人事業ノ経過ヲ世ニ紹介セリ然レドモ其事業ノ成否ニ付キテハ之ヲ将来ニ待タザルヘカラズシテ未タ俄カニ此ニ之ヲ議スベカラザルモノトス真ニ世界平和ヲ以テ念トシ誠意以テ仁義公道ノ発達ニ尽サントスルノ士ハ二三著述者ノ蠱言ニ迷ハセラレサランコトヲ期セザルベカラズ（喝采）

吾人ハ吾人ノ尽スベキヲ尽シタリ然レドモ吾人ハ素ヨリ萬事ヲ悉ク完結シ能ハザリシナリ故ニ吾人ハ之ヲ吾人ノ後ニ

遂ケ相携ヘテ世界ノ進歩ノ為メニ尽シタルコトハ之ヲ記セ  
サルベカラズ（喝采）

余カ茲ニ此會議ニ議長タルヲ得タリシハ余カ外交ノ履歴中最モ名譽トスル処ナリ余ハ最モ公平ヲ持シ又々全力ヲ捧ケ事ニ当レリ而シテ諸君ノ好意ト努力トハ余ヲシテ事ナキヲ得セシメタリ之レ余ハ諸君ニ対シ満懃ノ謝意ヲ致スモノナリ（喝采）殊ニ副議長、委員会ノ議長副議長、報告委員、委員会審査会ノ書記並ニ勤勉ナル書記官長ノ下ニ立チ不撓事ニ従ヒタル書記諸士ニ対シテハ特別ニ感謝ス是等書記諸士ハ實ニ其困難事業遂行ニ關シ秩序精確ノ好模範ヲ与ヘタリ（大喝采）

吾人ハ相分ルニ臨ミ茲ニ蘭國女帝陛下ニ奉ルベキ左ノ電文案ニ対シ諸君ノ賛成ヲ得ントス

茲ニ第二回平和會議ノ事業ヲ終リ互ニ相分ルニ臨ミ同会参列ノ各國委員ハ敬ンデ陛下ガ平和會議ニ軫念セラレ又タ蘭國政府ヲ通シテ吾人ニ会場使用ノ允許ヲ賜ハリタル聖恩ニ対シ感謝ノ誠意ヲ表シ併セテ将来ノ平和會議モ亦同様ノ恩典ニ浴スルヲ得ンコトヲ冀フ此ニ陛下ノ萬歳ヲ祝シ在任ノ永久ヲ祈リ奉ル（大喝采）

吾人ハ屢々露國皇帝陛下ニ感謝ノ敬意ヲ表シタリ余茲ニ諸

余ハ議長ニ対シ余ニ与ヘラレタル賛辞ニ対シ謝意ヲ表ス余ノ務ハ「ネリドフ」閣下ノ如キ議長ノ下ニ在テハ甚々軽易ノモノナリシ（喝采）余ハ同議長ニ対シ茲ニ賛辞ヲ呈スルコトヲ為サザルベシ同議長ニ対スル賛辞ハ蓋シ各人ノ心中ト胸裏ニアルベケレバナリ吾人ハ皆同議長ノ不撓ノ熱心ト其才識ト其敏活ト其手腕ト其和衷ノ精神ヲ熟知ス又々吾人ハ議長ガ殆ンド毎回委員会及審査会ニ列席スルヲ見タリ議長ノ名ハ深ク吾人ノ記憶ニ銘セラルベシ余ハ諸君ニ代テ茲ニ議長ニ対スル同情ト感謝ト敬意トヲ表彰シ併セテ議長ノ萬福ヲ祈ルモノナリ（喝采）依テ余ハ議長ニ敬意ヲ表スルタメ諸君ノ起立ヲ乞ハントス（総員起立及喝采）

余ハ茲ニ諸君ト袖ヲ分タントスルニ臨ミ痛恨ノ情ニ堪ヘズ四ヶ月ノ間世界ノ四隅ヨリ來集セラレタル世界ノ名士ト膝ヲ交エテ談議シタル幸ヲ得タルヲ思ヘバ感慨自カラ胸ニ満テリ

衆論ノ機關中ニハ吾人ノ事業ヲ以テ豫期ニ副ハズト為モノアリ然レドモ之レ會議ノ遂が得タル効果ヲ無視スルノ偏見タルコトヲ忘ルベカラズ其効果ハ之ヲ此ニ枚挙スルノ要ナシ余ハ決シテ會議ノ事業ニ付落胆スルモノニアラザルコトヲ明言スルニ憚ラズ

君ニ対シ初メニ第二回平和會議ヲ發意シタル北米合衆國大統領ニ左ノ電報ヲ送ランコトヲ協議ス

第二回平和會議ノ事業ヲ終リタルニ臨ミ同會議ニ参列シタル委員ハ北米合衆國大統領ノ發意ニ依テ同會議ニ参列シタル委員ハ北米合衆國大統領ノ發意ニ依テ同會議ノ会同ヲ見ルニ至リタルコトヲ思ヒ大統領ニ感謝ノ誠意ヲ致シ併セテ同大統領ニ吾人ノ敬意ヲ捧ク（喝采）

最後ニ會議ノ名譽議長ニシテ蘭國ノ外務大臣閣下ト蘭國政府ノ行政各部ニ対シ深謝ノ意ヲ表ス吾人ハ吾人ニ与ヘラタル歎待ニ甘エ長期間ニ亘リ彼等ノ自由活動ヲ妨ゲタルニ非ザルカラ虞ルモノナリ（喝采）

現會議ハ既ニ終リヲ告グ将来ノ會議ニ関シ乞フ一瞥ヲ与ヘシメヨ委員諸士ノ多数必ズ再ビ世界会同ニ参列セラルベキモ余ヲ始メトシ幾多ノ士ハ最早相見ルコトヲ得ザルニ至ルベシ然レドモ吾人事業ノ続行ニ臨ミ諸士ハ今日ヲ回顧シ又時シテ其旧議長ヲ回想セラレシコトヲ希望ス（喝采）其議長ハ将来ノ平和會議ノ成功ヲ祈リ正義ト公道ニ基キ國際關係上人類合同ノ益発達セシコトヲ常ニ希フモノナリ（大喝采）

次ニ副議長「ボーフォール」氏ハ大要左ノ如キ演説ヲナセリ

諸君ハ議會ノ事業ニハ善ク慣ルノ士ナルヲ思ヒ其事業ガ如何ニ複雜ニシテ多クノ時日ヲ要スルモノナルカハ之ヲ熟知セラル、コトト信ズ同ジ國語ヲ話シ同ジ制度ノ下ニ立チ相識ノ同国人相集ル議會スラ既ニ然リ國語ヲ異ニシ制度ヲ異ニシ利害ヲ同フセザル政府ヲ代表スル各国人ノ会同タル會議ガ其事業ガ如何ニ困難ニシテ如何ニ長日月ヲ要スルカハ敢テ怪ムニ足ラザルノミナラズ寧ロ四ヶ月ノ間ニ於テ種々ノ点ニ關シ和協ノ成立セルハ之ヲ驚クニ足ルモノアリト考フ古人曰ク已レラ顧ミルトキハ何等ノ為ス處ナシト雖トモ他ニ比較シテ之ヲ考フレバ又為サマル處ナキニアラズト會議モ亦之ニ類セリト

次キニ同氏ハ會議ノ議事細則ヲ豫メ一定シ置クノ必要ヲ説キタル後チ更ニ語ヲ續ケテ曰ク

諸士ト再ビ此ニ相見ヘンコトヲ希望スルト同時ニ次ニ来ルベキ平和會議マテ平和ノ攬擾セラレサランコトヲ冀フト結論セリ（喝采）

次キニ英國委員「サー・エドワード・フライ」氏ハ大要左ノ如キ演説ヲナセリ

余ハ平和會議ノ年長者トシテ議長及副議長ニ向ヒ永キ間ノ勞ニ対シ深謝ノ誠意ヲ表ス

議長「ネリドフ」閣下ノ其職ヲ執ルヤ公平ニシテ礼アリ而シテ吾人ニ交ハルニ誠意ヲ以テ斯會議ガ同閣下ニ對シ賛辞ヲ呈スベキハ正ニ其処ナリ  
 「ネリドフ」氏ハ世界中最高ノ位地ヲ托セラレ而シテ其任ヲ尽スニ當リ其位地ヲ辱メズ其國ニ対シ又其人格ニ対シ善ク威儀ヲ保チタリ

閣下ハ独り會議ニ議長タリシノミナラズ又第三回平和會議ノ会同ト組織ニ関シ一臂ノ勞ヲ惜マザリシ而シテ露帝ハ新ニ「ネリドフ」氏ヲ介シテ其之ニ転念セラル、ノ意ヲ吾人ニ伝ヘシメ且同氏ヲシテ此提議ヲ吾人ニ為スコトノ允許ヲ与ヘラレタリ

「ボーフォール」閣下ハ既ニ前會議ニ於テ外務大臣トシテ之レニ闘与シ今回又副議長及請願審査會長トシテ尽瘁セラレクリ余ハ諸君ニ代ハリ茲ニ同氏ニ深謝ス（喝采）

余ハ又諸君ニ代リ蘭国女帝陛下ニ深謝ノ敬意ヲ捧グ（喝采）

余ハ「ネリドフ」氏カ述ベラレタル各議長、報告委員、委員会及審査會ノ書記諸氏ニ對スル謝意ニ贊同ス（喝采）

吾人ノ決議シタル案中國際審査所ニ闘スル條約案ハ最モ著シキモノトス右ニ依リ初メテ世界的裁判所ノ組織セラル、

ヲ見ルニ至リタリ今後益此種ノ制度ノ益發達セントヲ希望ス云々（喝采）  
 次ニ伊國第一委員ハ今回會議ノ印刷ニ從事シタルモノニ贊辞ヲ呈シ其事ヲ執ルノ迅速ナリシヲ激賞セリ（喝采）

次キニ亞爾然丁共和国第一委員「バエンツ・ペナ」氏ハ大要左ノ如キ演説ヲナセリ

氏ハ先ツ其國政府ノ名ヲ以テ露國ト蘭國政府カ拉丁亞米利加ニ向テ為シタル招請ニ依リ茲ニ來テ第二回平和會議ニ参列スルコトヲ得タルヲ感謝シ次ニ今回南亞米利加カ初メテ萬國平和會議ニ出席シテ歐洲各国ト正義公道ヲ議スルヲ得ルニ至リタルコトヲ述べ南米諸國ハ建国日尙未浅キモ其基源ハ歐洲ニ發セルヲ以テ歐洲諸國ハ南米諸國ニ對シ同情ヲ寄セラル、ナルベシト云ヒ次ニ南米諸國ガ今回ノ招請ヲ得タルハ西班牙國王ト北米合衆國大統領ニ負フ處ノモノ大ナルコトヲ述べ拉丁亞米利加ト本會議トノ關係ニ就キ論セル内亞爾然丁ハ會議中時トシテ南米諸國ト同一ノ歩調ヲ取ラザリシモ其南米ヲ愛スルノ情ハ常ニ変ルコトナク又歐洲ニ對シテモ忘恩スルモノニアラズト說キ亞爾然丁共和国ハ先進國ニ對スル己レノ位地ヲ善ク知ルモノニシテ其先進者ニ敬意ヲ表スルト同時ニ世界會議ノ為メニ其國是ヲ変スル

モノニアラズ亞爾然丁共和国ハ解兵條約ト仲裁々判條約トヲ結ビタリシモ之レ平和會議ノ為メノ故ニアラズシテ其必要ヲ感シタリシカ為メナリト述ベ亞爾然丁共和国ハ會議ノ主要問題タル仲裁々判ト常設裁判問題ニ贊成ノ投票ヲナセリ然レドモ仲裁々判問題ハ完全ナル解決ヲ得ル能ハザリシ之レ各國間ニ意思ノ一致ヲ欠クヲ以テナリ此ノ意志ノ一致ヲ得ザル間ハ仲裁ハ成立セザルベク戰争ハ止マザルベシ然レドモ吾人ハ此制度ノ完成ヲ期シテ止マザルベシト論シ最後ニ「ネリドフ」氏ニ平和會議ノ創意者タル露帝ニ対シ感謝ノ誠意ヲ伝奏アランコトヲ乞ヒ並ニ蘭国外務大臣ニモ此ニ來テ平和會議ヲ開クコトヲ得タルコトニ付謝意ヲ述べタリ

次キニ格魯比第一委員「ペレツ・トリヤナ」氏ハ大要左ノ如キ氏ハ先ツ此日マテ戰争ノ重視セラレタルコト及其戰争ノ弊害ヨリ説キ起シ遂ニ仁道ノ勃興ヲ生ズルニ至リタルコトヲ（喝采）述べ之レ今日平和會議ノ起リタル所以ニシテ今ヤ各國委員ハ去テ其帰途ニ就クニ当リ吾人亦帰テ国人ニ告グルニ拉丁亞米利加モ亦此会同ニ參列シ仁道ノ為メニハ亦一ノ要素タルコトヲ示シ來リタルコトヲ以テセンノミト云ヒ（喝采）次ニ格魯比ハ将来有望ノ國ニシテ各國民ノ移

是等諸士ノ効多キニ居ルト述べ又今日後進國ノ一ナル日本ガ本會議ニ参列シ先輩諸國ノ好遇ヲ得テ以テ之レト共ニ平和ト文明トノ事業ニ力ヲ致スコトヲ得タルコトニ付キ列國委員ニ感謝シ終リニ先キニ蘭國政府ニ向テ表彰セラレタル感謝ニ同意シ殊ニ三百年間蘭國ト友好交ヲ絶タズ總テノ西洋ノ事物ニ和蘭ナル語ヲ付シタル國ノ代表者トシテ蘭國外務大臣ニ謝意ヲ述べタリ（喝采）

次ニ波斯國第一委員「サマドカン、モンタゼス、サルタネー」氏ハ世界ノ一ノ最古國ノ代表者トシテ議長ニ深謝ノ意ヲ表シタリ（喝采）

最後ニ蘭國外務大臣「ファン、テツ、ファン、グードリアン」氏ハ大要左ノ如ク演説セリ

諸君へ相分レラル、ニ先チ余ハ茲ニ蘭國女帝陛下ハ海牙ニ会同シタル第二回平和會議ニ対シ非常ニ満足ニ思召サルノ聖旨ヲ諸君ニ伝ヘントス而シテ余ハ諸君ニ同陛下ニ対シ捧呈セラレントスル電信ハ陛下ニ於テ嘉納アラセラルベキコトヲ確信セラレンコトヲ望ムト説キ起シ和蘭全國ハ平和會議ノ討議ニ大ナル注意ヲ傾ケタルコト而シテ今ヤ其討議ノ効果ヲ見ルニ至リタルコトヲ喜ブ旨ヲ述べ更ニ今回ノ平和會議ハ第一回平和會議ノ事業継続ノ為メニ招請セラレ其事

電ノ決議ヲナセリ依テ余ハ左ノ電報ヲ露國皇帝陛下ニ捧呈セントス

第二回平和會議ハ此ニ其閉会式ヲ挙グルニ當リ平和ノ仁道的事業ノ創意者ニシテ擁護者タル露國皇帝陛下ニ深謝ノ敬意ヲ捧ゲントス同會議ハ實ニ同陛下ノ代表者ノ下ニ其事業ヲ終ヘタリ（大喝采）

議長 余ハ遺憾ナカラ此ニ諸君ニ總會議ノ散会ヲ告ゲ併セ

業或ハ第一回平和會議ノ如ク燐然光輝ヲ放ツコト能ハサルモノアルニセヨ其困難ノ度ハ敢テ前者ニ劣ラザルモノアリ而シテ其与ヘタル解決中ニハ平和主張者ノ期望ヲ満タスコト能ハザルモノナキニアラザルモ遠カラズ公表サルベキ會議ノ議事録ハ諸君ガ如何ニ國際關係上數多ノ異説ト不同ノ意見ヲ一致スルタメ和衷ノ誠意ヲ以テ事ニ從ヒタルカラ世ニ示スニ至ラン然レドモ和衷ニ限リアリ協同ニ界アリ各国ヲシテ悉ク相一致セシメントスルハ蓋シ至難ノ事ニ屬スト説キ尤モ今ヤ諸君ノ調印ヲ待チツ、アル諸條約ハ畢竟和協ノ結果ニ外ナラズ然シナガラ諸問題中ニハ其解決ヲ第三回平和會議ニ譲リタルモノアリ此点ニ付テハ拙速ヲ貴ブヨリモ寧ロ充分研究ニ時間ヲ与ヘントスル諸君ノ決心ハ最モ当ヲ得タルモノナリト考フト述べ第三回平和會議ガ海牙ニ会同スル場合ニハ無論前回同様之レニ会同ノ場所ヲ貸スハ吾人ノ最モ愉快トスル処ニシテ又タ誇ルニ足ルコトト信ズ何トナレバ海牙ノ空氣ハ右会同ニ適スルモノナル證左トスルニ足レバナリ吾人ハ海牙カ平和會議ノ永久且常設会場トナルニ至ランコトヲ最モ切望スルモノナリ（喝采）ト云ヒ次ニ北米合衆國大統領ニ今回平和會議ノ発意者タリシコトニ付深謝ノ意ヲ表シ既ニ此点ニ付テハ諸君ハ大統領ニ發

テ平和會議ノ閉会ヲ告グ

午後五時散会

参 照

第十一回總會議々事録